

はじめに

千葉県では、平成14年2月に策定した「健康ちば21」に、「生涯を通じた女性の医療と健康づくりの推進」を掲げ、女性の健康と医療に関する施策を展開しています。

平成13年9月、都道府県立病院としては全国で初めて、県立東金病院に「女性専用外来」を開設しました。県内のみならず、県外からも予約が殺到し、多くの待機者が生じることとなりました。

翌年には、県民のより身近なところで女性専用外来が受診できるよう、公立や民間病院への「女性専用外来」を設置するため、施設・設備や人件費に対する補助制度を創設し、女性専用外来の設置拡大を推進しました。

一方、住民に身近な保健所（現健康福祉センター）においても、「女性の健康相談」窓口を開設しております。

これら千葉県の取組みは、瞬く間に全国に広がり、現在では全都道府県で「女性専用外来」が開設されるとともに、「医療提供体制の改革ビジョン」等国の政策にも位置づけられております。

今回の女性専用外来評価事業は、5年目を迎えた本県の女性専用外来の第2ステージに向け、それぞれの医療機関ごとに異なる女性専用外来の医療体制や運営状況等を把握するとともに、患者の満足度や担当医師等の意見をもとに、その課題と今後の方向性を明らかにするために実施したものです。

この調査結果が、性差を踏まえ、心と体を一体的にみ、一人ひとりの状況に応じた総合的な保健・医療サービスの提供体制の充実に寄与することを願っております。

最後に、この調査の実施にあたり、ご協力いただいた患者の皆様や医療機関の関係者の方々に心よりお礼申し上げます。

平成18年3月

千葉県健康福祉部長
山口 忠 則

目次

はじめに

千葉県健康福祉部長 山口 忠則

調査の概要	1
調査結果	3
1 女性専用外来受診者満足度調査	
1) 回答状況	3
2) 回答者の属性	3
3) 千葉県における女性専用外来について	5
4) 受診した女性専用外来について	7
5) 女性専用外来及び健康や医療に関する 千葉県の政策に関する意見・感想	22
2 女性専用外来の医療従事者（医師）への調査	29
3 女性専用外来の医療従事者（看護職員）への調査	35
4 女性専用外来を設置する病院長への調査	42
5 考察	48
女性と医療 天野 恵子 （千葉県衛生研究所長・千葉県立東金病院副院長）	51
調査票	
女性専用外来受診者満足度調査	55
女性専用外来の医療従事者（医師用）への調査	58
女性専用外来の医療従事者（看護職員用）への調査	61
女性専用外来を設置する病院長への調査	63
女性専用外来を設置する病院長への調査（独自開設病院用）	65
《参考資料》	
資料1 千葉県における主な女性の健康支援施策の展開	67
資料2 女性専用外来の状況	68
資料3 健康福祉センターにおける女性のための健康相談窓口の状況	70

調査の概要

調査の概要

1 調査目的

女性の特性に基づく総合的な医療を提供する女性専用外来について、受診者（初診・再診）及び実施医療機関（病院長、担当医師、担当看護職員）を対象に満足度や女性専用外来の運用状況等を調査することにより、女性専用外来の課題を明らかにし、今後の方針検討の一助とする。

2 調査対象

県立病院3病院及び県の補助により女性専用外来を設置している7病院（以下「県立病院及び補助金交付病院」という。）の受診者・医療従事者・病院長と独自で女性専用外来を設置している民間病院の病院長。

（1）受診者調査

県立病院及び補助金交付病院10病院の女性専用外来を平成17年12月から平成18年3月までの間に受診した患者約1,500人を対象とした。

（2）医療従事者調査

県立病院及び補助金交付病院10病院で、女性専用外来を担当する医師23名及び看護職員48名を対象とした。

（3）病院長調査

県立病院及び補助金交付病院10病院と独自に女性専用外来を設置している民間8病院の病院長を対象とした。

対象内訳

区 分	受診者	医師	看護職員	病院長
県立病院3病院	459	8	18	3
補助金交付病院7病院	960	15	30	7
独自設置病院8病院	-	-	-	8
	1,419	23	48	18

3 調査方法

（1）受診者調査

期間中に県立病院及び補助金交付病院10病院で女性専用外来を受診した各受診者に、担当医師が本調査の趣旨を口頭で説明し、手渡しにより調査票を配布した。回答は郵送により回収した。

（2）医療従事者（医師・看護職員）調査

県立病院及び補助金交付病院10病院の事務局長あてに調査票を郵送し、女性専用外来の医療従事者（担当医師、看護職員）に調査票の配布を依頼した。回答は郵送により回収した。

（3）病院長調査

県立病院及び補助金交付病院10病院と独自に女性専用外来を設置している8病院の病院長あてに、調査票を郵送で配布した。回答は郵送により回収した。

4 調査票

調査票は、自記式アンケート形式とし、平成16年に県立東金病院で実施した患者満足度調査の調査結果等をもとに検討・作成した。

(1) 受診者調査「女性専用外来受診者満足度調査」の主な設問項目

- ・ 県の政策としての推進の認知度
- ・ 今後の推進方法
- ・ 設置を知った理由
- ・ 女性専用外来を選んだ理由
- ・ 主な相談内容
- ・ 受診時の満足度
- ・ 再受診の意向及び理由
- ・ 相談内容の解決の有無

受診した女性専用外来に対する意見や感想、県の健康や医療に関する政策への意見や感想を記入する自由記載欄を設けた。

(2) 医療従事者調査「女性専用外来の医療従事者への調査」の主な設問項目

女性専用外来の担当医師用と担当看護職員用を作成した。

- ・ 関連学会への参加状況
- ・ 県主催の研修会への参加状況
- ・ 女性専用外来のやり方
- ・ 女性専用外来部門の評価
- ・ 従事する女性専用外来の満足度
- ・ 診療科を選択する重要度
- ・ 女性専用外来が向上するための課題
- ・ 女性専用外来に従事する意欲
- ・ 初診患者の確定診断状況（医師のみ）

(3) 病院長調査「女性専用外来を設置する病院長への調査」の主な設問項目

県立病院及び補助金交付病院10病院の病院長用と独自に女性専用外来を設置している8病院の病院長用のものを作成した。

- ・ 受診者数の予測
- ・ 女性専用外来部門の資質の評価
- ・ 存続の課題
- ・ 存続の必要性
- ・ 今後の充実内容
- ・ 運営状況
- ・ マンモグラフィと骨密度測定装置の使用状況

5 調査期間

- (1) 受診者調査 平成17年12月1日から平成18年3月上旬
- (2) 医療従事者調査 平成17年12月
- (3) 病院長調査 平成17年12月

6 解析

本調査は、NPO法人日本医療政策機構に立案・集計を委託し、詳細な解析は千葉県衛生研究所が実施した。

調查結果

1. 女性専用外来受診者満足度調査

1) 回答状況

10 病院で 1419 通配布し、448 通 (31.6%) の回答を得た。配布と回答における各病院の構成割合を表 1 に示した。配布数では県立病院が 3 分の 1、県立病院以外が 3 分の 2 であったが、回答数では県立病院、県立病院以外がほぼ同数になっていた。

表 1-1 受診者調査の調査表配布数と回収数

病院	配布数	構成割合	回答数	構成割合 (%)
A	330	23.3	195	43.5
B	300	21.1	62	13.8
C	100	7.0	40	8.9
D	200	14.1	38	8.5
E	90	6.3	31	6.9
F	120	8.5	30	6.7
G	80	5.6	30	6.7
H	100	7.0	12	2.7
I	39	2.7	5	1.1
J	60	4.2	3	0.7
無回答	0	0.0	2	0.4
合計	1419	100.0	448	100.0
県立病院	459	32.3	231	51.6
県立病院以外	960	67.7	215	48.0
無回答			2	0.4
回答率 (%)			31.6	

2) 回答者の属性

(1) 年齢構成

回答者の年齢構成は表 1-2 の通りであり、全体では 50 歳代が 42.4%、40 歳代が 24.6% とこの年代で 3 分の 2 を占めていた(図 1)。しかし、病院ごとの回答者の年齢構成にはバラツキが見られた。

表 1-2 回答者の年齢構成

病院	10~30 歳代		40 歳代		50 歳代		60 歳以上		無回答		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
A	29	14.9	35	17.9	93	47.7	36	18.5	2	1.0	195	100.0
B	14	22.6	21	33.9	23	37.1	4	6.5	0	0.0	62	100.0
C	7	17.5	9	22.5	19	47.5	5	12.5	0	0.0	40	100.0
D	4	10.5	11	28.9	20	52.6	3	7.9	0	0.0	38	100.0
E	6	19.4	11	35.5	9	29.0	5	16.1	0	0.0	31	100.0
F	13	43.3	9	30.0	7	23.3	1	3.3	0	0.0	30	100.0
G	5	16.7	8	26.7	11	36.7	6	20.0	0	0.0	30	100.0
H	3	25.0	3	25.0	6	50.0	0	0.0	0	0.0	12	100.0
I	0	0.0	1	20.0	2	40.0	2	40.0	0	0.0	5	100.0
J	1	33.3	2	66.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	50.0	1	50.0	2	100.0
合計	82	18.3	110	24.6	190	42.4	63	14.1	3	0.7	448	100.0

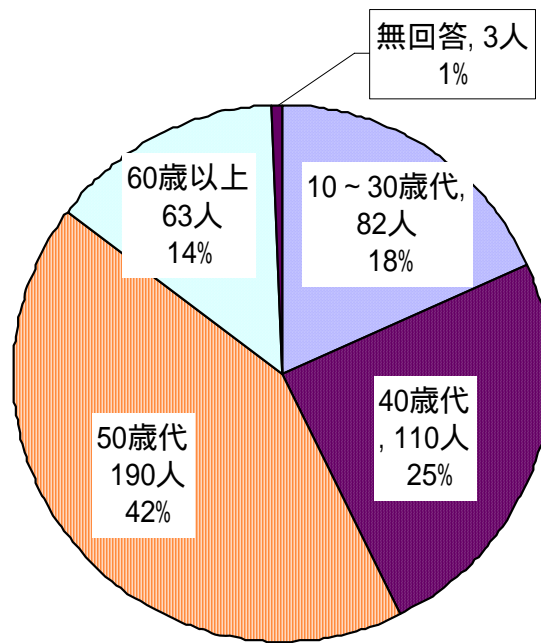


図 1-1 回答者の年齢構成

(2) 居住都道府県

回答者の92.4%は千葉県在住であったが、他の都道府県からの通院者も含まれていた。県外は近隣都道府県が中心であったが、福岡県からの受診者もあった。初診と再診で比較をすると、初診の回答者は再診回答者よりも県内居住者が多かった。

表 1-3 回答者の居住都道府県（初診・再診別）

	初診		再診		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
千葉	79	96.3	335	91.5	414	92.4
東京	2	2.4	10	2.7	12	2.7
茨城	1	1.2	14	3.8	15	3.3
その他	0	0.0	3	0.8	3	0.7
無回答	0	0.0	4	1.1	4	0.9
合計	82	100.0	366	100.0	448	100.0

(3) 当該医療機関までの所要時間

自宅から受診している医療機関までの所要時間の最頻値は30分であったが、5分から270分（4時間半）までと多岐にわたった。

全体の4分の1は15分以下であり、31分～60分以下が34%、通院時間が1時間を越える者は11%であった。

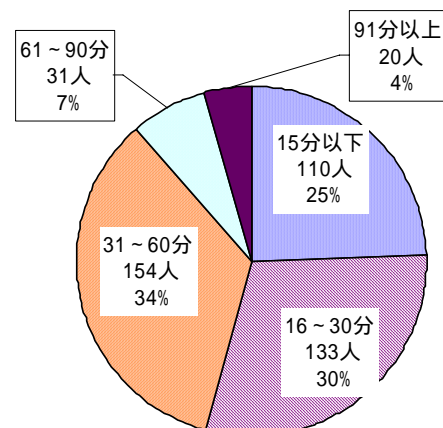


図 1-2 医療機関までの所要時間

(4) 初診時期と受診回数

初診が平成17年の者が47%と最も多く、平成16年21%、平成15年14%であった。

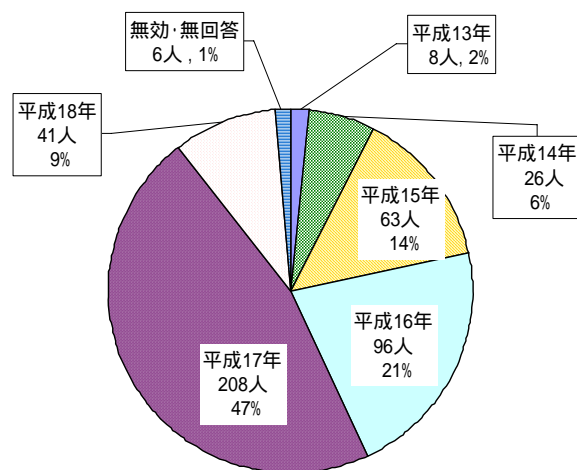


図1-3 初診時期

回答者の受診回数は、1回(初診)18.3%、2回以上(再診)81.7%と再診の者が多かった。再診者の受診回数では、2~5回と6~10回、11~20回がほぼ同じ割合を占めていた。再診者の平均受診回数は6.2回であり、1年間の平均受診回数は1.9回であった。1年間の受診回数が最も多い者は36回であり、通院が2年以上の者が再診者の53.3%を占めた。

表1-4 受診回数

病院	1回(初診)		2~5回		6~10回		11~20回		21回以上		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
A	25	12.8	35	17.9	44	22.6	48	24.6	43	22.1	195	100.0
B	11	17.7	23	37.1	18	29.0	8	12.9	2	3.2	62	100.0
C	1	2.5	9	22.5	9	22.5	16	40.0	5	12.5	40	100.0
D	6	15.8	10	26.3	11	28.9	7	18.4	4	10.5	38	100.0
E	1	3.2	10	32.3	9	29.0	10	32.3	1	3.2	31	100.0
F	22	73.3	5	16.7	2	6.7	0	0.0	1	3.3	30	100.0
G	8	26.7	7	23.3	8	26.7	5	16.7	2	6.7	30	100.0
H	3	25.0	3	25.0	2	16.7	2	16.7	2	16.7	12	100.0
I	3	60.0	1	20.0	1	20.0	0	0.0	0	0.0	5	100.0
J	2	66.7	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	100.0
無回答	0	0.0	1	50.0	0	0.0	1	50.0	0	0.0	2	100.0
合計	82	18.3	105	23.4	104	23.2	97	21.7	60	13.4	448	100.0

3) 千葉県における女性専用外来について

(1) 政策として女性専用外来を設置していることについて

千葉県が政策として女性専用外来を設置していることを知っていた者は72.3%であった。千葉県に居住する者だけで見ると、74.2%が知っているという回答していた。

表 1-5 居住地別、千葉県が政策として女性専用外来を設置していることの認知

	千葉県内居住		千葉県外居住		無回答		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
はい	307	74.2	14	46.7	3	75.0	324	72.3
いいえ	98	23.7	16	53.3	1	25.0	115	25.7
無回答	9	2.2	0	0.0	0	0.0	9	2.0
合計	414	100.0	30	100.0	4	100.0	448	100.0

千葉県が政策として女性専用外来を設置していることを知っているという回答した者のうち、その媒体への回答は304名が有効であった。全体では「新聞・雑誌・テレビ」が最も多く、次いで「医療機関」であった。県外居住者では、「新聞・雑誌・テレビ」より「医療機関」の回答が多かった。

表 1-6 居住地別、県が政策として女性専用外来を設置していることを知った媒体

	千葉県内居住		千葉県外居住		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
新聞・雑誌・テレビ	144	49.5	3	23.1	147	48.4
インターネット	16	5.5	2	15.4	18	5.9
医療機関	71	24.4	5	38.5	76	25.0
リーフレット	9	3.1	1	7.7	10	3.3
健康福祉センター	5	1.7	0	0.0	5	1.6
その他	46	15.8	2	15.4	48	15.8
合計	291	100.0	13	100.0	304	100.0

(2) 県が政策として女性専用外来を設置することについて

97%が「必要」と回答し、「不要」と回答した者はいなかった。県内居住者と県外居住者の回答に、大きな違いはなかった。

(3) 政策として設置している女性専用外来の今後について

県が政策として設置している女性専用外来の今後については433名より有効回答を得た。内訳は、「女性専用外来の数を増やすべき」が最も多く61.4%、「内容を充実すべき」28.2%、「今のままでよい」8.5%、「どちらとも言えない」1.8%の順であった。県内居住者と県外居住者で比べると、「内容の充実」は県外居住者、「数の増加」は県内居住者に希望する者が多かった。

表 1-7 居住地別、県が政策として設置している女性外来の今後について

	千葉県内居住		千葉県外居住		無回答		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
今のままでよい	34	8.5	2	6.7	1	25.0	37	8.5
内容充実	110	27.6	11	36.7	1	25.0	122	28.2
数の増加	247	61.9	17	56.7	2	50.0	266	61.4
どちらとも言えない	8	2.0	0	0.0	0	0.0	8	1.8
回答者数	399	100.0	30	100.0	4	100.0	433	100.0

4) 受診した女性専用外来について

(1) 受診した医療機関が女性専用外来を設置していることを知った経緯

受診した医療機関が女性専用外来を設置していることを知った経緯について429名より有効回答を得た。全体では「その他」が最も多く30.8%、「新聞・雑誌・テレビ」28.7%、「同じ医療機関の他の診療科からの紹介」17.2%となっていた。県内居住者と県外居住者で比べると、県外居住者の方が、「その他」「インターネット」が多く、県内居住者は「新聞・雑誌・テレビ」「同じ医療機関の他の診療科」が多かった。「その他」の内容では、友人・知人からが大部分を占めていた。

表1-8 居住地別、受診した医療機関が女性専用外来を設置していることを知った経緯

	千葉県内居住		千葉県外居住		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
新聞・雑誌・テレビ	117	29.3	6	20.0	123	28.7
インターネット	46	11.5	8	26.7	54	12.6
同じ医療機関の他の診療科から紹介	72	18.0	2	6.7	74	17.2
他医療機関で紹介	10	2.5	1	3.3	11	2.6
健康福祉センターで紹介	9	2.3	0	0.0	9	2.1
リーフレット	25	6.3	1	3.3	26	6.1
その他	120	30.1	12	40.0	132	30.8
合計	399	100.0	30	100.0	429	100.0

A病院はマスコミで取り上げられることが多いので、A病院とそれ以外について、女性専用外来の設置を知った経緯を比較した。A病院は「新聞・雑誌・テレビ」が55.6%と過半数を占め、「その他」を除く媒体は10%以下であったが、他の病院では「新聞・雑誌・テレビ」は9.2%に過ぎず、「その他」37.8%、「同じ医療機関の他科からの紹介」23.2%、「インターネット」17.2%の順であり、A病院と他の病院では、受診者の女性専用外来の設置を知った経緯が大きく異なっていた。

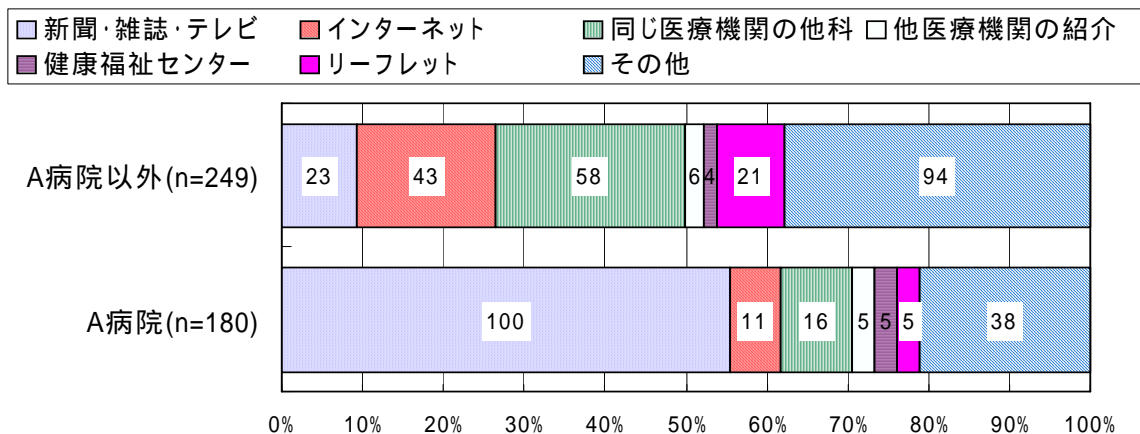


図1-4 A病院受診者別、受診した医療機関が女性専用外来を設置していることを知った経緯

(2) 他の診療科ではなく、女性専用外来を選んだ理由

他の診療科ではなく、女性専用外来を選んだ理由をみると、全体で「女性特有の様々な症状の専門家や性差医療専門家に診てもらいたかった」が最も多く73.9%、「男性医師ではなく女性医師に相談したかった」56.3%、「体や心の悩みごとと一緒に相談したかった」55.6%、「他の診療科に比

べ、十分診療時間をとってくれそうだった」48.7%となっていた。

年代別にみると、40歳代、50歳代は80%以上が「女性特有の様々な症状の専門家や性差医療の専門医に診てもらいたかった」を選択していた。「女性医師であること」も約6割が選択していたが、どの年代においても、「専門家に見てもらいたかった」が「女性医師であること」を上回った。また、年代が上がるにつれて「気楽に話を聞いてくれそうだった」と回答した割合が高く、「その他」と回答した者が多い10～30歳では、「婦人科には抵抗があった」、「どの診療科にかかったらよいか分からなかった」など、女性専用外来が総合診療であることが選択の理由に挙がっていた。

初診と再診別にも検討したが、回答に大きな違いは見られなかった。

表1-9 年代別、他の診療科ではなく、女性専用外来を選んだ理由（複数回答）

	10～30歳代		40歳代		50歳代		60歳以上		無回答		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
男性医師ではなく、女性医師に相談したかった	50	61.0	66	60.0	107	56.3	26	41.3	3	100.0	252	56.3
気軽に話を聞いてくれそうだった	20	24.4	31	28.2	59	31.1	25	39.7	2	66.7	137	30.6
他の診療科に比べ、十分診療時間をとってくれそうだった	40	48.8	57	51.8	89	46.8	30	47.6	2	66.7	218	48.7
女性特有の様々な症状の専門家や性差医療専門家に診てもらいたかった	53	64.6	88	80.0	153	80.5	34	54.0	3	100.0	331	73.9
体や心の悩みごとにも一緒に相談したかった	45	54.9	64	58.2	104	54.7	33	52.4	3	100.0	249	55.6
女性専用外来の担当者が全て女性と思った	12	14.6	25	22.7	45	23.7	10	15.9	0	0.0	92	20.5
保険診療で費用が安いと思った	5	6.1	10	9.1	21	11.1	6	9.5	1	33.3	43	9.6
その他	15	18.3	10	9.1	13	6.8	5	7.9	0	0.0	43	9.6
無回答	0	0.0	2	1.8	5	2.6	4	6.3	0	0.0	11	2.5
合計	82	100.0	110	100.0	190	100.0	63	100.0	3	100.0	448	100.0

（3）女性専用外来を受診するまで、同じ症状や悩みで他の診療科や医療機関を受診したか

全体では71.2%が「受診した」と回答しており、年代別にみると、50歳代は75%が他の診療科や医療機関を「受診した」と回答している。

表1-10 年代別、女性専用外来を受診するまで同じ症状や悩みで他の診療科や医療機関受診の有無

	10～30歳代		40歳代		50歳代		60歳以上		無回答		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
はい	55	67.1	76	69.1	143	75.3	44	69.8	1	33.3	319	71.2
いいえ	27	32.9	32	29.1	42	22.1	14	22.2	1	33.3	116	25.9
無回答	0	0.0	2	1.8	5	2.6	5	7.9	1	33.3	13	2.9
合計	82	100.0	110	100.0	190	100.0	63	100.0	3	100.0	448	100.0

(4) 女性専用外来を受診した主な相談内容

女性専用外来を受診した主な相談内容は複数の選択肢を回答した者が多かったため、複数回答として集計した。

全体では、「からだのこと」が92.7%と最も多く、内容別では「婦人科(更年期)」「精神系」「何の診療科を受診したらよいかわからない身体の不調」が多かった。

年代別に見ると、どの年代も「からだのこと」が最も多く90%前後を占めたが、「医療のこと」も年齢が高くなると多くなり、60歳以上では3割以上であった。一方、「こころの悩み」は全体では7.1%であるが、10~30歳代は10%であり、年齢が若い方が多かった。

表 1-11 年代別、女性専用外来を受診した主な相談内容(複数回答として集計)

区 分	10~30歳代		40歳代		50歳代		60歳以上		無回答		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
医療のこと	5	6.3	19	17.6	42	22.5	19	32.2	0	0.0	85	19.5
内容(複数回答)												
かかりつけ医がほしい	2	40.0	8	42.1	28	66.7	10	52.6	0	0	48	56.5
セカンドオピニオン	3	60.0	10	52.6	14	33.3	9	47.4	0	0	36	42.4
「医療」回答者数	5	100.0	19	100.0	42	100.0	19	100.0	0	0.0	85	100.0
からだのこと	71	88.8	99	91.7	178	95.2	54	91.5	3	100.0	405	92.7
内容(複数回答)												
内分泌・代謝系	7	9.9	5	5.1	11	6.2	6	11.1	1	33.3	30	7.4
循環器系	2	2.8	6	6.1	9	5.1	13	24.1	0	0.0	30	7.4
消化器系	4	5.6	2	2.0	4	2.2	4	7.4	0	0.0	14	3.5
呼吸器系	1	1.4	0	0.0	1	0.6	4	7.4	0	0.0	6	1.5
泌尿器系	1	1.4	4	4.0	3	1.7	4	7.4	0	0.0	12	3.0
皮膚科系	3	4.2	0	0.0	3	1.7	1	1.9	0	0.0	7	1.7
眼科系	1	1.4	0	0.0	1	0.6	5	9.3	0	0.0	7	1.7
口腔系	0	0.0	2	2.0	2	1.1	3	5.6	0	0.0	7	1.7
耳鼻科系	3	4.2	9	9.1	9	5.1	3	5.6	0	0.0	24	5.9
脳神経系	7	9.9	6	6.1	8	4.5	6	11.1	0	0.0	27	6.7
筋・骨系	2	2.8	2	2.0	11	6.2	7	13.0	0	0.0	22	5.4
産科系	2	2.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.5
婦人科(性器)	9	12.7	9	9.1	3	1.7	2	3.7	0	0.0	23	5.7
婦人科(更年期)	18	25.4	39	39.4	78	43.8	7	13.0	1	33.3	143	35.3
乳房系	1	1.4	3	3.0	2	1.1	1	1.9	0	0.0	7	1.7
性感染症	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
精神系	15	21.1	31	31.3	38	21.3	18	33.3	0	0.0	102	25.2
受診科不明の身体不調*	19	26.8	22	22.2	39	21.9	10	18.5	1	33.3	91	22.5
「からだ」回答者数	71	100.0	99	100.0	178	100.0	54	100.0	3	100.0	405	100.0
こころの悩み	8	10.0	9	8.3	11	5.9	3	5.1	0	0.0	31	7.1
生活	1	1.3	2	1.9	0	0.0	1	1.7	0	0.0	4	0.9
その他	0	0.0	2	1.9	3	1.6	1	1.7	0	0.0	6	1.4
回答数	80	100.0	108	100.0	187	100.0	59	100.0	3	100.0	437	100.0
無回答	2		2		3		4		0		11	

* 「何の診療科を受診したらよいかわからない身体の不調」

また、「医療のこと」では、「家庭医・かかりつけ医がほしい」は50歳代と60歳以上に多く、セカンドオピニオンは10～30歳代、40歳代に多かった。「からだのこと」では、「循環器系」は60歳以上、「婦人科(性器)」は10～30歳代、「婦人科(更年期)」は40歳代、50歳代に多かった。「精神系」は60歳以上が33.3%、「何の診療科を受診したらよいかわからない身体の不調」は10～30歳代が26.8%で最も多かった。

初診と再診で比較をすると、初診の方が「医療のこと」の選択者が多かったが、その具体的な内容では違いがなかった。「からだのこと」の具体的な内容では、初診に比べて再診の方が「精神系」「何の診療科を受診したらよいかわからない身体の不調」が多かった。

表 1-12 年代別、女性専用外来を受診した主な相談内容(複数回答として集計)

区 分	初診		再診		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
医療	21	26.3	64	17.9	85	19.5
内容(複数回答)						
かかりつけ医がほしい	12	57.1	36	56.3	48	75.0
セカンドオピニオン	10	47.6	26	40.6	36	56.3
「医療」回答者数	21	100.0	64	100.0	85	100.0
からだ	74	92.5	331	92.7	405	92.7
内容(複数回答)						
内分泌・代謝系	6	8.1	24	7.3	30	7.4
循環器系	7	9.5	23	6.9	30	7.4
消化器系	1	1.4	13	3.9	14	3.5
呼吸器系	0	0.0	6	1.8	6	1.5
泌尿器系	4	5.4	8	2.4	12	3.0
皮膚科系	2	2.7	5	1.5	7	1.7
眼科系	2	2.7	5	1.5	7	1.7
口腔系	1	1.4	6	1.8	7	1.7
耳鼻科系	7	9.5	17	5.1	24	5.9
脳神経系	6	8.1	21	6.3	27	6.7
筋・骨系	7	9.5	15	4.5	22	5.4
産科系	0	0.0	2	0.6	2	0.5
婦人科(性器)	8	10.8	15	4.5	23	5.7
婦人科(更年期)	26	35.1	117	35.3	143	35.3
乳房系	2	2.7	5	1.5	7	1.7
性感染症	0	0.0	0	0.0	0	0.0
精神系	12	16.2	89	26.9	101	24.9
受診科不明の身体不調*	14	18.9	77	23.3	91	22.5
「からだ」回答者数	74	100.0	331	100.0	405	100.0
こころの悩み	7	8.8	24	6.7	31	7.1
生活	1	1.3	3	0.8	4	0.9
その他	0	0.0	6	1.7	6	1.4
回答数	80	100.0	357	100.0	437	100.0
無回答	7		4		11	

* : 「何の診療科を受診したらよいかわからない身体の不調」

(5) 女性専用外来を初めて受診した際の満足度

女性専用外来を初めて受診した際の満足度を、予約から会計までの一連の流れ、病院の施設・設備、女性専用外来全体について尋ねた。

全体では、「満足」「どちらかと言えば満足」が80%以上の項目は、「電話受付スタッフの対応」「受付スタッフの対応」「待合室スタッフの対応」「診察室の雰囲気」「プライバシーの配慮」「医師の話を聞く姿勢」「医師の経験や知識量」「医師の説明の仕方」「診察時間」「医師以外のスタッフの対応」「診察室から会計までの案内」「女性専用外来全体」であり、特に、医師の「対応」・「経験や知識量」・「説明の仕方」についての満足度は90%を超えている。

なお、「どちらかと言えば不満」「不満」が多かったのは、「予約から診療までの期間」49.1%、「診察までの待ち時間」39.9%、「支払いまでの待ち時間」21.0%であった。

年代別にみると、「予約から診療までの期間」は10～30歳代、「待合室の雰囲気」は10～30歳代、50歳代、「プライバシーの配慮」は10～30歳代、「他の診療科との連携」は50歳代、「診察から会計までの案内」は50歳代、「支払いまでの待ち時間」は40歳代、50歳代、「病院の設備・施設」は50歳代、「女性専用外来全体」は50歳代で、「どちらかと言えば不満」「不満」が多くなっていた。このように年代により評価に違いがみられたのは、受診した医療機関の違いや受診内容の違いを反映しているためと考えられる。

表 1-13 年代別、女性専用外来を初めて受診した際の満足度

区 分	10～30歳代		40歳代		50歳代		60歳以上		無回答		合計		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
1) 電話予約													
電話受付ス	満足	47	58.0	62	60.8	90	50.8	31	55.4	1	33.3	231	55.1
タッフ対応	どちらかと言えば満足	23	28.4	28	27.5	64	36.2	20	35.7	2	66.7	137	32.7
	どちらかと言えば不満	4	4.9	4	3.9	7	4.0	3	5.4	0	0.0	18	4.3
	不満	2	2.5	3	2.9	1	0.6	0	0.0	0	0.0	6	1.4
	どちらとも言えない	5	6.2	5	4.9	15	8.5	2	3.6	0	0.0	27	6.4
	合計	81	100.0	102	100.0	177	100.0	56	100.0	3	100.0	419	100.0
予約から診療	満足	16	19.8	26	25.5	39	22.4	13	24.5	0	0.0	94	22.8
までの期間	どちらかと言えば満足	15	18.5	31	30.4	37	21.3	9	17.0	2	66.7	94	22.8
	どちらかと言えば不満	30	37.0	20	19.6	45	25.9	16	30.2	1	33.3	112	27.1
	不満	17	21.0	22	21.6	41	23.6	11	20.8	0	0.0	91	22.0
	どちらとも言えない	3	3.7	3	2.9	12	6.9	4	7.5	0	0.0	22	5.3
	合計	81	100.0	102	100.0	174	100.0	53	100.0	3	100.0	413	100.0
2) 受付													
ロビーの	満足	25	30.9	27	26.2	55	31.4	19	33.3	0	0.0	126	30.1
雰囲気	どちらかと言えば満足	31	38.3	49	47.6	62	35.4	23	40.4	3	100.0	168	40.1
	どちらかと言えば不満	8	9.9	8	7.8	20	11.4	3	5.3	0	0.0	39	9.3
	不満	5	6.2	4	3.9	6	3.4	1	1.8	0	0.0	16	3.8
	どちらとも言えない	12	14.8	15	14.6	32	18.3	11	19.3	0	0.0	70	16.7
	合計	81	100.0	103	100.0	175	100.0	57	100.0	3	100.0	419	100.0
受付スタッフ	満足	37	45.7	50	47.6	74	41.8	26	44.8	0	0.0	187	44.1
の対応	どちらかと言えば満足	32	39.5	40	38.1	77	43.5	25	43.1	3	100.0	177	41.7
	どちらかと言えば不満	3	3.7	1	1.0	5	2.8	1	1.7	0	0.0	10	2.4
	不満	2	2.5	1	1.0	5	2.8	0	0.0	0	0.0	8	1.9
	どちらとも言えない	7	8.6	13	12.4	16	9.0	6	10.3	0	0.0	42	9.9
	合計	81	100.0	105	100.0	177	100.0	58	100.0	3	100.0	424	100.0

表 1-13 年代別、女性専用外来を初めて受診した際の満足度(続き)

区 分	10～30歳代		40歳代		50歳代		60歳以上		無回答		合計		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
受付から待 合室までの 案内	満足	34	42.5	40	38.1	61	34.9	23	41.8	0	0.0	158	37.8
	どちらかと言えば満足	26	32.5	42	40.0	71	40.6	23	41.8	3	100.0	165	39.5
	どちらかと言えば不満	8	10.0	3	2.9	12	6.9	2	3.6	0	0.0	25	6.0
	不満	2	2.5	2	1.9	3	1.7	0	0.0	0	0.0	7	1.7
	どちらとも言えない	10	12.5	18	17.1	28	16.0	7	12.7	0	0.0	63	15.1
合計	80	100.0	105	100.0	175	100.0	55	100.0	3	100.0	418	100.0	
3) 待合室 待合室の 雰囲気	満足	32	40.0	34	32.7	46	25.7	12	21.4	0	0.0	124	29.4
	どちらかと言えば満足	18	22.5	42	40.4	55	30.7	31	55.4	3	100.0	149	35.3
	どちらかと言えば不満	11	13.8	6	5.8	29	16.2	4	7.1	0	0.0	50	11.8
	不満	6	7.5	5	4.8	9	5.0	2	3.6	0	0.0	22	5.2
	どちらとも言えない	13	16.3	17	16.3	40	22.3	7	12.5	0	0.0	77	18.2
合計	80	100.0	104	100.0	179	100.0	56	100.0	3	100.0	422	100.0	
待合室スタ ップの対応	満足	42	52.5	47	45.6	65	36.7	22	39.3	0	0.0	176	42.0
	どちらかと言えば満足	24	30.0	43	41.7	78	44.1	27	48.2	3	100.0	175	41.8
	どちらかと言えば不満	1	1.3	2	1.9	10	5.6	1	1.8	0	0.0	14	3.3
	不満	3	3.8	1	1.0	4	2.3	0	0.0	0	0.0	8	1.9
	どちらとも言えない	10	12.5	10	9.7	20	11.3	6	10.7	0	0.0	46	11.0
合計	80	100.0	103	100.0	177	100.0	56	100.0	3	100.0	419	100.0	
診察までの 待ち時間	満足	21	26.3	31	29.5	33	18.4	10	17.5	0	0.0	95	22.4
	どちらかと言えば満足	25	31.3	28	26.7	52	29.1	20	35.1	2	66.7	127	30.0
	どちらかと言えば不満	15	18.8	21	20.0	37	20.7	10	17.5	0	0.0	83	19.6
	不満	12	15.0	19	18.1	41	22.9	13	22.8	1	33.3	86	20.3
	どちらとも言えない	7	8.8	6	5.7	16	8.9	4	7.0	0	0.0	33	7.8
合計	80	100.0	105	100.0	179	100.0	57	100.0	3	100.0	424	100.0	
4) 診察 診察室の 雰囲気	満足	38	46.9	56	53.8	85	47.0	30	52.6	0	0.0	209	49.1
	どちらかと言えば満足	31	38.3	36	34.6	69	38.1	24	42.1	3	100.0	163	38.3
	どちらかと言えば不満	3	3.7	0	0.0	11	6.1	1	1.8	0	0.0	15	3.5
	不満	1	1.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.2
	どちらとも言えない	8	9.9	12	11.5	16	8.8	2	3.5	0	0.0	38	8.9
合計	81	100.0	104	100.0	181	100.0	57	100.0	3	100.0	426	100.0	
プライバ シー配慮	満足	42	51.9	47	45.2	90	50.3	30	53.6	2	66.7	211	49.9
	どちらかと言えば満足	24	29.6	42	40.4	65	36.3	23	41.1	1	33.3	155	36.6
	どちらかと言えば不満	8	9.9	5	4.8	6	3.4	0	0.0	0	0.0	19	4.5
	不満	1	1.2	0	0.0	1	0.6	0	0.0	0	0.0	2	0.5
	どちらとも言えない	6	7.4	10	9.6	17	9.5	3	5.4	0	0.0	36	8.5
合計	81	100.0	104	100.0	179	100.0	56	100.0	3	100.0	423	100.0	
医師の話 を聞く姿勢	満足	59	72.8	78	74.3	123	67.6	44	74.6	3	100.0	307	71.4
	どちらかと言えば満足	16	19.8	23	21.9	47	25.8	14	23.7	0	0.0	100	23.3
	どちらかと言えば不満	2	2.5	1	1.0	4	2.2	1	1.7	0	0.0	8	1.9
	不満	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	どちらとも言えない	4	4.9	3	2.9	8	4.4	0	0.0	0	0.0	15	3.5
合計	81	100.0	105	100.0	182	100.0	59	100.0	3	100.0	430	100.0	
医師の経験 や知識量	満足	51	63.0	70	67.3	101	56.1	36	62.1	3	100.0	261	61.3
	どちらかと言えば満足	20	24.7	27	26.0	58	32.2	20	34.5	0	0.0	125	29.3
	どちらかと言えば不満	3	3.7	3	2.9	9	5.0	0	0.0	0	0.0	15	3.5
	不満	0	0.0	0	0.0	1	0.6	0	0.0	0	0.0	1	0.2
	どちらとも言えない	7	8.6	4	3.8	11	6.1	2	3.4	0	0.0	24	5.6
合計	81	100.0	104	100.0	180	100.0	58	100.0	3	100.0	426	100.0	

表 1-13 年代別、女性専用外来を初めて受診した際の満足度(続き)

区 分	10～30 歳代		40 歳代		50 歳代		60 歳代		無回答		合計		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
医師の説明 のしかた	満足	56	69.1	72	68.6	108	59.3	41	70.7	3	100.0	280	65.3
	どちらかと言えば満足	19	23.5	26	24.8	59	32.4	15	25.9	0	0.0	119	27.7
	どちらかと言えば不満	2	2.5	6	5.7	8	4.4	0	0.0	0	0.0	16	3.7
	不満	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	どちらとも言えない	4	4.9	1	1.0	7	3.8	2	3.4	0	0.0	14	3.3
合計	81	100.0	105	100.0	182	100.0	58	100.0	3	100.0	429	100.0	
診察時間	満足	44	54.3	60	58.3	102	56.4	34	60.7	3	100.0	243	57.3
	どちらかと言えば満足	27	33.3	33	32.0	55	30.4	17	30.4	0	0.0	132	31.1
	どちらかと言えば不満	3	3.7	3	2.9	6	3.3	3	5.4	0	0.0	15	3.5
	不満	2	2.5	1	1.0	5	2.8	1	1.8	0	0.0	9	2.1
	どちらとも言えない	5	6.2	6	5.8	13	7.2	1	1.8	0	0.0	25	5.9
合計	81	100.0	103	100.0	181	100.0	56	100.0	3	100.0	424	100.0	
医師以外の スタッフ の対応	満足	41	50.6	57	55.3	76	42.5	26	46.4	2	66.7	202	47.9
	どちらかと言えば満足	28	34.6	33	32.0	78	43.6	25	44.6	1	33.3	165	39.1
	どちらかと言えば不満	0	0.0	1	1.0	7	3.9	1	1.8	0	0.0	9	2.1
	不満	2	2.5	0	0.0	4	2.2	0	0.0	0	0.0	6	1.4
	どちらとも言えない	10	12.3	12	11.7	14	7.8	4	7.1	0	0.0	40	9.5
合計	81	100.0	103	100.0	179	100.0	56	100.0	3	100.0	422	100.0	
他の診療科 との連携	満足	26	32.9	29	29.3	55	32.7	24	45.3	1	33.3	135	33.6
	どちらかと言えば満足	21	26.6	39	39.4	59	35.1	16	30.2	1	33.3	136	33.8
	どちらかと言えば不満	2	2.5	3	3.0	19	11.3	3	5.7	0	0.0	27	6.7
	不満	2	2.5	3	3.0	2	1.2	0	0.0	1	33.3	8	2.0
	どちらとも言えない	28	35.4	25	25.3	33	19.6	10	18.9	0	0.0	96	23.9
合計	79	100.0	99	100.0	168	100.0	53	100.0	3	100.0	402	100.0	
5) 会計 診察室から 会計までの 案内	満足	34	43.0	40	39.2	66	36.7	24	44.4	2	66.7	166	39.7
	どちらかと言えば満足	28	35.4	42	41.2	76	42.2	22	40.7	1	33.3	169	40.4
	どちらかと言えば不満	3	3.8	3	2.9	11	6.1	0	0.0	0	0.0	17	4.1
	不満	1	1.3	0	0.0	5	2.8	0	0.0	0	0.0	6	1.4
	どちらとも言えない	13	16.5	17	16.7	22	12.2	8	14.8	0	0.0	60	14.4
合計	79	100.0	102	100.0	180	100.0	54	100.0	3	100.0	418	100.0	
会計スタッ フの対応	満足	28	35.0	25	24.3	63	35.4	24	42.1	2	66.7	142	33.7
	どちらかと言えば満足	33	41.3	52	50.5	78	43.8	23	40.4	1	33.3	187	44.4
	どちらかと言えば不満	7	8.8	9	8.7	9	5.1	2	3.5	0	0.0	27	6.4
	不満	1	1.3	1	1.0	4	2.2	0	0.0	0	0.0	6	1.4
	どちらとも言えない	11	13.8	16	15.5	24	13.5	8	14.0	0	0.0	59	14.0
合計	80	100.0	103	100.0	178	100.0	57	100.0	3	100.0	421	100.0	
支払いまで の待ち時間	満足	27	34.2	20	19.2	47	26.0	22	38.6	2	66.7	118	27.8
	どちらかと言えば満足	31	39.2	47	45.2	78	43.1	18	31.6	0	0.0	174	41.0
	どちらかと言えば不満	8	10.1	24	23.1	30	16.6	7	12.3	1	33.3	70	16.5
	不満	4	5.1	4	3.8	10	5.5	1	1.8	0	0.0	19	4.5
	どちらとも言えない	9	11.4	9	8.7	16	8.8	9	15.8	0	0.0	43	10.1
合計	79	100.0	104	100.0	181	100.0	57	100.0	3	100.0	424	100.0	
処方箋受 け取りの 手間・時間	満足	25	31.6	23	23.2	54	30.5	24	43.6	2	66.7	128	31.0
	どちらかと言えば満足	23	29.1	48	48.5	70	39.5	18	32.7	1	33.3	160	38.7
	どちらかと言えば不満	10	12.7	14	14.1	27	15.3	2	3.6	0	0.0	53	12.8
	不満	7	8.9	4	4.0	7	4.0	0	0.0	0	0.0	18	4.4
	どちらとも言えない	14	17.7	10	10.1	19	10.7	11	20.0	0	0.0	54	13.1
合計	79	100.0	99	100.0	177	100.0	55	100.0	3	100.0	413	100.0	

表 1-13 年代別、女性専用外来を初めて受診した際の満足度(続き)

区 分	10～30歳代		40歳代		50歳代		60歳以上		無回答		合計		
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	
支払った 医療費	満足	26	32.5	26	25.5	54	30.3	22	37.9	2	66.7	130	30.9
	どちらかと言えば満足	26	32.5	51	50.0	68	38.2	18	31.0	0	0.0	163	38.7
	どちらかと言えば不満	8	10.0	11	10.8	18	10.1	5	8.6	1	33.3	43	10.2
	不満	2	2.5	0	0.0	8	4.5	1	1.7	0	0.0	11	2.6
	どちらとも言えない	18	22.5	14	13.7	30	16.9	12	20.7	0	0.0	74	17.6
合計	80	100.0	102	100.0	178	100.0	58	100.0	3	100.0	421	100.0	
6) その他 病院の施 設・設備	満足	26	32.1	26	24.8	40	22.2	15	25.9	0	0.0	107	25.1
	どちらかと言えば満足	26	32.1	50	47.6	65	36.1	27	46.6	2	66.7	170	39.8
	どちらかと言えば不満	7	8.6	12	11.4	29	16.1	5	8.6	0	0.0	53	12.4
	不満	5	6.2	3	2.9	14	7.8	1	1.7	1	33.3	24	5.6
	どちらとも言えない	17	21.0	14	13.3	32	17.8	10	17.2	0	0.0	73	17.1
合計	81	100.0	105	100.0	180	100.0	58	100.0	3	100.0	427	100.0	
7) 総合 女性専用 外来全体	満足	36	44.4	54	51.4	78	43.1	23	39.7	1	33.3	192	44.9
	どちらかと言えば満足	37	45.7	38	36.2	80	44.2	23	39.7	2	66.7	180	42.1
	どちらかと言えば不満	3	3.7	3	2.9	10	5.5	2	3.4	0	0.0	18	4.2
	不満	0	0.0	1	1.0	3	1.7	0	0.0	0	0.0	4	0.9
	どちらとも言えない	5	6.2	9	8.6	10	5.5	10	17.2	0	0.0	34	7.9
合計	81	100.0	105	100.0	181	100.0	58	100.0	3	100.0	428	100.0	

初診と再診で女性専用外来を初めて受診した際の満足度を各項目別に比べると、スタッフの対応や各案内、ロビー・待合室・診察室の雰囲気については初診より再診の方が満足と回答した者の割合が低く、「病院の施設・設備」は不満と回答した者の割合が初診に比べ再診の方が10ポイント以上高くなっている。また、「女性専用外来全体」も初診に比べ再診の方が「どちらとも言えない」「どちらかと言えば不満、不満」が多かった。

初診と再診で「初診時の満足度」の回答が異なった理由は明確ではない。しかし、再診者の方が検査等で病院内の施設や設備を利用の利用率が多いこと、受付、待合室、診察、会計などの満足度は初診時の印象を思い出す際に現在の印象が影響を与えている可能性があること、疾患が完治せずに治療が続いていることに対して不満等の感情を持っていることなどが、再診者の回答に影響を与え、「初診時に感じた満足度」が初診者よりも低かった可能性も考えられた。

表 1-14 初診・再診別、女性専用外来を初めて受診した際の満足度

区 分	初診		再診		合計		
	度数	%	度数	%	度数	%	
1) 電話予約 電話受付スタッフ対応	どちらかと言えば満足・満足	72	88.9	296	87.6	368	87.8
	どちらとも言えない	5	6.2	22	6.5	27	6.4
	どちらかと言えば不満・不満	4	4.9	20	5.9	24	5.7
	合計	81	100.0	338	100.0	419	100.0
予約から診療までの期間	どちらかと言えば満足・満足	32	42.1	156	46.3	188	45.5
	どちらとも言えない	3	3.9	19	5.6	22	5.3
	どちらかと言えば不満・不満	41	53.9	162	48.1	203	49.2
	合計	76	100.0	337	100.0	413	100.0

表 1-14 初診・再診別、女性専用外来を初めて受診した際の満足度(続き)

区 分	初診		再診		合計		
	度数	%	度数	%	度数	%	
2) 受付							
ロビーの雰囲気	どちらかと言えば満足・満足	62	78.5	232	68.2	294	70.2
	どちらとも言えない	10	12.7	60	17.6	70	16.7
	どちらかと言えば不満・不満	7	8.9	48	14.1	55	13.1
	合計	79	100.0	340	100.0	419	100.0
受付スタッフの対応	どちらかと言えば満足・満足	72	92.3	292	84.4	364	85.8
	どちらとも言えない	6	7.7	36	10.4	42	9.9
	どちらかと言えば不満・不満	0	0.0	18	5.2	18	4.2
	合計	78	100.0	346	100.0	424	100.0
受付から待合室までの案内	どちらかと言えば満足・満足	66	84.6	257	75.6	323	77.3
	どちらとも言えない	7	9.0	56	16.5	63	15.1
	どちらかと言えば不満・不満	5	6.4	27	7.9	32	7.7
	合計	78	100.0	340	100.0	418	100.0
3) 待合室							
待合室の雰囲気	どちらかと言えば満足・満足	59	72.8	214	62.8	273	64.7
	どちらとも言えない	12	14.8	65	19.1	77	18.2
	どちらかと言えば不満・不満	10	12.3	62	18.2	72	17.1
	合計	81	100.0	341	100.0	422	100.0
待合室スタッフの対応	どちらかと言えば満足・満足	73	91.3	278	82.0	351	83.8
	どちらとも言えない	6	7.5	40	11.8	46	11.0
	どちらかと言えば不満・不満	1	1.3	21	6.2	22	5.3
	合計	80	100.0	339	100.0	419	100.0
診察までの待ち時間	どちらかと言えば満足・満足	60	75.0	162	47.1	222	52.4
	どちらとも言えない	5	6.3	28	8.1	33	7.8
	どちらかと言えば不満・不満	15	18.8	154	44.8	169	39.9
	合計	80	100.0	344	100.0	424	100.0
4) 診察							
診察室の雰囲気	どちらかと言えば満足・満足	73	90.1	299	86.7	372	87.3
	どちらとも言えない	5	6.2	33	9.6	38	8.9
	どちらかと言えば不満・不満	3	3.7	13	3.8	16	3.8
	合計	81	100.0	345	100.0	426	100.0
プライバシー配慮	どちらかと言えば満足・満足	70	87.5	296	86.3	366	86.5
	どちらとも言えない	7	8.8	29	8.5	36	8.5
	どちらかと言えば不満・不満	3	3.8	18	5.2	21	5.0
	合計	80	100.0	343	100.0	423	100.0
医師の話を聞く姿勢	どちらかと言えば満足・満足	79	97.5	328	94.0	407	94.7
	どちらとも言えない	1	1.2	14	4.0	15	3.5
	どちらかと言えば不満・不満	1	1.2	7	2.0	8	1.9
	合計	81	100.0	349	100.0	430	100.0
医師の経験や知識量	どちらかと言えば満足・満足	74	92.5	312	90.2	386	90.6
	どちらとも言えない	3	3.8	21	6.1	24	5.6
	どちらかと言えば不満・不満	3	3.8	13	3.8	16	3.8
	合計	80	100.0	346	100.0	426	100.0
医師の説明のしかた	どちらかと言えば満足・満足	75	93.8	324	92.8	399	93.0
	どちらとも言えない	1	1.3	13	3.7	14	3.3
	どちらかと言えば不満・不満	4	5.0	12	3.4	16	3.7
	合計	80	100.0	349	100.0	429	100.0

表 1-14 初診・再診別、女性専用外来を初めて受診した際の満足度(続き)

区 分		初診		再診		合計	
		度数	%	度数	%	度数	%
診察時間	どちらかと言えば満足・満足	72	91.1	303	87.8	375	88.4
	どちらとも言えない	4	5.1	21	6.1	25	5.9
	どちらかと言えば不満・不満	3	3.8	21	6.1	24	5.7
	合計	79	100.0	345	100.0	424	100.0
医師以外のスタッフの 対応	どちらかと言えば満足・満足	73	92.4	294	85.7	367	87.0
	どちらとも言えない	5	6.3	35	10.2	40	9.5
	どちらかと言えば不満・不満	1	1.3	14	4.1	15	3.6
	合計	79	100.0	343	100.0	422	100.0
他の診療科との連携	どちらかと言えば満足・満足	45	64.3	226	68.1	271	67.4
	どちらとも言えない	22	31.4	74	22.3	96	23.9
	どちらかと言えば不満・不満	3	4.3	32	9.6	35	8.7
	合計	70	100.0	332	100.0	402	100.0
5) 会計							
診察室から会計までの 案内	どちらかと言えば満足・満足	68	88.3	267	78.3	335	80.1
	どちらとも言えない	7	9.1	53	15.5	60	14.4
	どちらかと言えば不満・不満	2	2.6	21	6.2	23	5.5
	合計	77	100.0	341	100.0	418	100.0
会計スタッフの対応	どちらかと言えば満足・満足	66	83.5	263	76.9	329	78.1
	どちらとも言えない	10	12.7	49	14.3	59	14.0
	どちらかと言えば不満・不満	3	3.8	30	8.8	33	7.8
	合計	79	100.0	342	100.0	421	100.0
支払いまでの待ち時間	どちらかと言えば満足・満足	61	77.2	231	67.0	292	68.9
	どちらとも言えない	8	10.1	35	10.1	43	10.1
	どちらかと言えば不満・不満	10	12.7	79	22.9	89	21.0
	合計	79	100.0	345	100.0	424	100.0
処方箋受け取りの 手間・時間	どちらかと言えば満足・満足	48	67.6	240	70.2	288	69.7
	どちらとも言えない	13	18.3	41	12.0	54	13.1
	どちらかと言えば不満・不満	10	14.1	61	17.8	71	17.2
	合計	71	100.0	342	100.0	413	100.0
支払った医療費	どちらかと言えば満足・満足	56	72.7	237	68.9	293	69.6
	どちらとも言えない	17	22.1	57	16.6	74	17.6
	どちらかと言えば不満・不満	4	5.2	50	14.5	54	12.8
	合計	77	100.0	344	100.0	421	100.0
6) その他							
病院の施設・設備	どちらかと言えば満足・満足	63	77.8	214	61.8	277	64.9
	どちらとも言えない	11	13.6	62	17.9	73	17.1
	どちらかと言えば不満・不満	7	8.6	70	20.2	77	18.0
	合計	81	100.0	346	100.0	427	100.0
7) 総合							
女性専用外来全体	どちらかと言えば満足・満足	75	92.6	297	85.6	372	86.9
	どちらとも言えない	4	4.9	30	8.6	34	7.9
	どちらかと言えば不満・不満	2	2.5	20	5.8	22	5.1
	合計	81	100.0	347	100.0	428	100.0

(5) - 1 初診時の女性専用外来全体に対する満足度と主な相談内容との関連

初診時の女性専用外来全体に対する満足度は、年齢や初診・再診の別だけではなく、受診した医療機関や主な相談内容なども関連していることが予測される。そこで、主な相談内容との関連を多変量解析により検討した。

分析にあたり、女性専用外来全体に対する満足度の回答を、満足 = +2、どちらかと言えば満足 = +1、どちらかと言えば不満足 = -1、不満 = -2、どちらとも言えない = 0 として得点化した。また、主な相談内容は重複回答が多かったので、A : 「婦人科系(月経、更年期、性生活)のみ」を選択、B : 「精神系のみ」を選択、C : 「何の診療かを受診したらよいかわからない身体の不調のみ」を選択、D : 「からだのこと」を選択し左記以外の診療科を1つ回答、E : 「からだのこと」以外が主な相談内容または「からだのこと」で複数の診療科を回答の5つに再分類した。

被験者間効果の分析結果では、「医療機関」($p < 0.001$)、「主な相談内容」($p < 0.05$)の効果が有意であり、「年齢」「初診・再診」は女性専用外来満足度と有意な関連はなかった。共変量の値を調整した、主な相談内容別の女性専用外来満足度得点みると、婦人科(更年期)の得点が最も低く、その他の診療科、複数回答または「からだ」以外の理由の群との差は有意だった。すなわち、婦人科(更年期)が主な理由で受診した人たちの「女性専用外来全体の満足度」は、精神科や受診科不明以外の理由で受診した人に比べて低いことが明らかになった。

表 1-15 主な相談内容別、初診時の女性専用外来全体の満足度得点 (調整前・調整後)

主な相談内容再分類	N	調整前			調整後		
		平均値	標準偏差	p	平均値	標準偏差	p
複数回答または・体以外の理由	62	1.468	0.646	a	1.464	0.105	a
婦人科(更年期)	105	1.057	0.979		1.051	0.081	
精神系	57	1.316	0.848		1.305	0.110	
身体不調	71	1.183	0.931		1.198	0.098	
その他診療科	133	1.331	0.736		1.334	0.072	b

調整：一変量による一般線形モデルにより医療機関、年齢、初診・再診について、全体の平均値で調整

a : $p < 0.05$ vs 婦人科(更年期) b : $p < 0.05$ vs 婦人科(更年期)

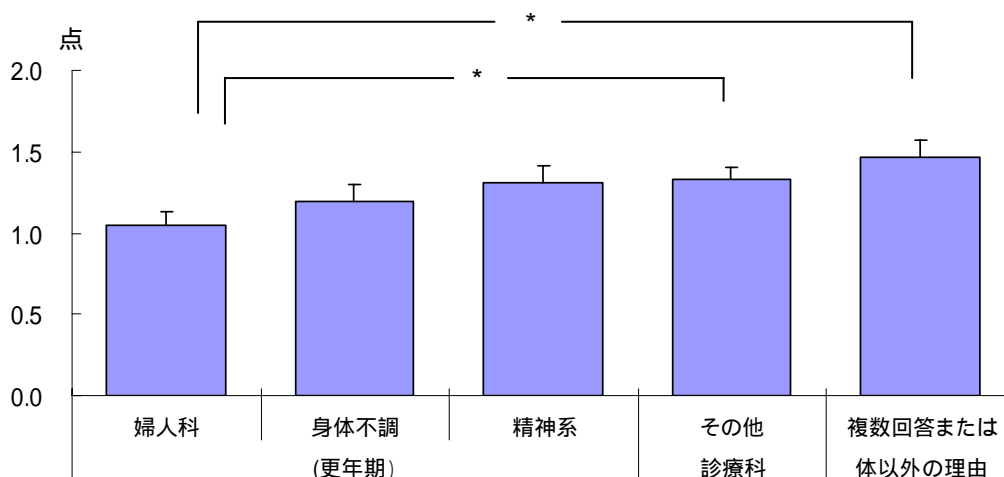


図 1-5 医療機関、年齢、初診・再診別を調整した主な相談内容別、初診時の女性専用外来全体の満足度得点 (*: $p < 0.05$, 1点 = やや満足, 2点 = 満足)

(5) - 2 初診時の女性専用外来全体に対する満足度と受診時の各項目の満足度との関連

各項目の満足度はそれぞれ、満足 = +2、どちらかと言えば満足 = +1、どちらかと言えば不満足 = -1、不満 = -2、どちらとも言えない = 0 として得点化し、女性専用外来全体の満足度を「満足・やや満足」「どちらとも言えない」「不満・やや不満」の3群に分け、各項目の満足度得点を比較した。

「電話受付スタッフの対応」「診察までの期間」を除く全項目で「満足・やや満足」に対し「不満・やや不満」の満足度得点が有意に低かった。

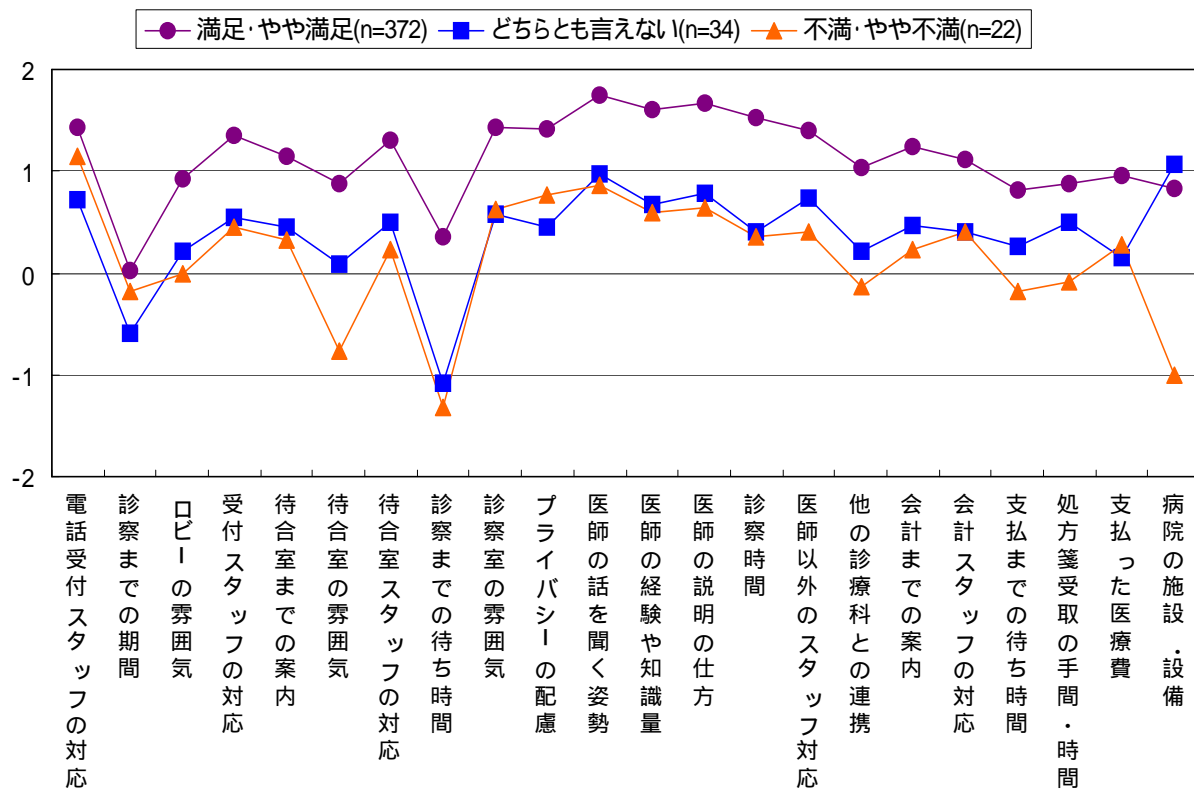


図 1-6 女性専用外来全体の満足度別、受診時各項目の満足度得点

女性専用外来全体に対する満足度と、電話予約から会計までの一連の項目および病院の施設・設備への満足度との関連を重回帰分析（ステップワイズ法）により検討した。その結果、「医師の経験や知識量」「診察時間」「診察の雰囲気」「プライバシー配慮」「病院の設備・施設」が有意であり、女性専用外来全体の満足度の決定には「診療」の要因が強く関わっていることが明らかになった。

表 1-16 女性専用外来全体の満足度に有意に関連する受診に関わる項目の重回帰分析結果

	非標準化係数		標準化係数 ベータ	p	B の 95% 信頼区間	
	B	標準誤差			下限	上限
医師の経験や知識量	0.250	0.053	0.230	0.000	0.146	0.355
病院の施設・設備	0.192	0.037	0.256	0.000	0.120	0.264
診察時間	0.163	0.046	0.174	0.001	0.072	0.254
診察室の雰囲気	0.136	0.037	0.188	0.000	0.064	0.208
プライバシーの配慮	0.129	0.048	0.129	0.007	0.035	0.222

$R^2 = 0.482$

(6) 女性専用外来への再受診の意向とその理由

「次に体の具合が悪くなった場合、女性専用外来をまた受診したいと思いますか」という設問には97.9%が「はい」と回答し、再受診の意向は非常に高かった。年代別、初診・再診別にみても回答に大きな違いはなく、どのカテゴリーにおいても再受診意向は96%以上だった。

初診時の女性専用外来全体の満足度と再受診意向の関連をみると、初診時の満足度が高いことと再受診の意向の間には有意な関連がみられた。

表1-17 初診時の女性専用外来全体の満足度別、再受診意向（無回答を除いて表記）

再受診意向	満足		どちらかと言えば満足		どちらかと言えば不満		不満		どちらとも言えない		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
はい	190	45.7	174	41.8	17	4.1	2	0.5	33	7.9	416	100.0
いいえ	1	11.1	4	44.4	1	11.1	2	22.2	1	11.1	9	100.0
合計	191	44.9	178	41.9	18	4.2	4	0.9	34	8.0	425	100.0

「体の不調や悩み等の問題は解決したか」という設問への回答と再受診意向との関連は有意ではなかったが、解決した方が再受診意向は強い傾向が見られた。

表1-18 体の不調や悩み等の問題の解決別、再受診意向

再受診意向	はい		いいえ		無回答		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
はい	316	75.6	87	20.8	15	3.6	418	100.0
いいえ	4	44.4	4	44.4	1	11.1	9	100.0
無回答	2	9.5	1	4.8	18	85.7	21	100.0
合計	322	71.9	92	20.5	34	7.6	448	100.0

受診したい理由の設問は複数に回答した者が多かったので、複数回答として扱って集計をした結果、全体では「話を良く聞いてくれたから」33.7%、「体や心の悩みごとを一緒にみてもらった」26.3%、「性差医療の専門医であったから」26.3%の順で回答が多かった。

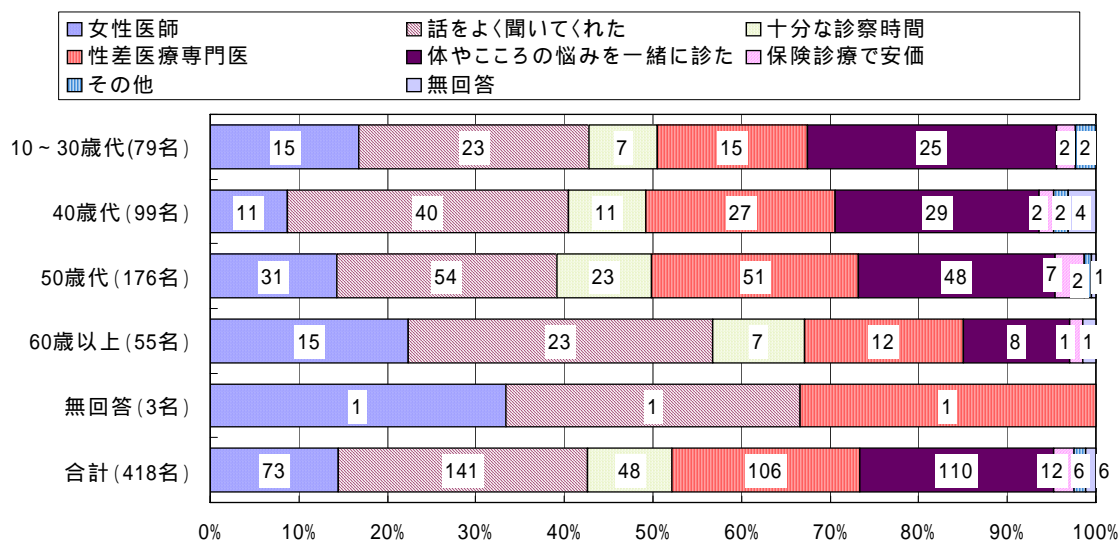


図1-7 年代別、また受診したい理由(複数回答扱い)

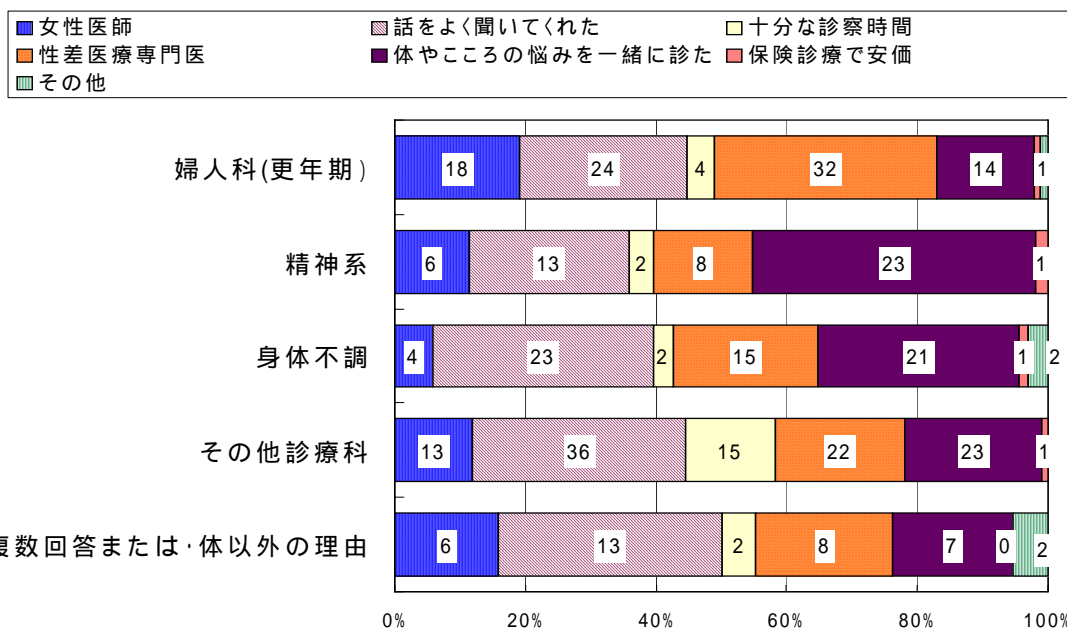
年代別で見ると、「女性医師だから」は60歳以上に多く、「話をよく聞いてくれたから」は40歳代と60歳代以上、「性差医療の専門医だから」は40歳代、50歳代、「体やこころの悩みを一緒にみてもらった」は10～30歳代、40歳代、50歳代に多く、年代による違いがみられた。

また、再診で比べると、「話をよく聞いてくれた」「性差医療の専門医」は初診が再診より多く、「体やこころの悩みを一緒にみてもらったから」は再診で多かった。

表 1-19 初診・再診別、また受診したい理由(複数回答扱い)

区分	初診		再診		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
女性医師	13	16.7	60	17.3	73	17.5
話をよく聞いてくれた	34	43.6	107	30.9	141	33.7
十分な診察時間	12	15.4	36	10.4	48	11.5
性差医療専門医	20	25.6	86	24.9	106	25.4
体やこころの悩みを一緒に診た	16	20.5	94	27.2	110	26.3
保険診療で安価	1	1.3	11	3.2	12	2.9
その他	1	1.3	5	1.4	6	1.4
無回答	1	1.3	5	1.4	6	1.4
合計	78	100.0	346	100.0	418	100.0

再受診をしたい理由を1つだけ選択していた363名について、相談内容との関連を検討した。各相談内容別に最も多かった再受診の理由をみると、「婦人科(更年期)」では「性差医療の専門医だから」、「精神系」では「体やこころの悩みごとを一緒にみてもらったから」、「何の診療科を受診したらよいかわからない身体の不調」、「その他の診療科」、「複数回答またはからだのこと以外の理由」では「話をよく聞いてくれたから」であり、主な相談内容によって再受診の理由は異なっていた。



	婦人科(更年期)	精神系	身体不調	その他診療科	複数回答または・体以外の理由
対象数	94	53	68	110	38

図 1-8 主な相談内容別、また受診したい理由 (単一回答者 n=363 のみ)

(6) - 1 再受診の理由と初診時の女性専用外来満足度との関連

再受診をしたい理由を1つだけ選択していた363名のうちデータに欠損がなかった346名について、初診時の女性専用外来満足度と再受診したい理由との関連を多変量解析により検討した。

被験者間効果の分析結果では、「医療機関」(p<0.001)、「再受診の理由」(p<0.01)の効果が有意であり、「年齢」「主な相談内容」「初診・再診」は女性専用外来満足度と有意な関連はなかった。

共変量の値を調整した、再受診の理由別の女性専用外来満足度得点みると、「保険診療で費用が安かったから」の満足度得点は、他の全ての項目の満足度得点よりも有意に低かった。また、「性差医療の専門医だから」に比べ「体や心の悩み事を一緒にみてもらったから」の得点は有意に高かった。再受診の理由が「保険診療で費用が安かったこと」の人数は少なかったが、これを再受診の理由とする人たちの女性専用外来への満足度はかなり低いことが明らかになった。

表 1-20 主な相談内容別、初診時の女性専用外来全体の満足度得点 (調整前・調整後)

区 分	N	調整前			調整後		
		平均値	S.D	p	平均値	S.D	p
a) 女性医師だから	45	1.178	0.912		1.157	0.116	
b) 話をよく聞いてくれたから	103	1.350	0.789		1.337	0.076	
c) 十分な診察時間だったから	21	1.286	0.561		1.263	0.171	
d) 性差医療の専門医だから	83	1.120	0.787		1.137	0.085	
e) 体や心の悩みごとを一緒にみてもらったから	86	1.395	0.830	d	1.395	0.084	d
f) 保険診療で費用が安かったから	4	-0.250	0.957	a,b,c,d,e,g	-0.187	0.386	a,b,c,d,e,g
g) その他	4	1.500	1.000		1.784	0.393	

a : p<0.05 vs 女性医師, b : p<0.05 vs 話をよく聞いてくれた, c : p<0.05 vs 十分な診察時間

d : p<0.05 vs 性差医療の専門医,

e : p<0.05 vs 体や心の悩みごとを一緒にみてもらった

g : p<0.05 vs その他

調整：一変量の一般線形モデルにより年代、医療機関、初診・再診、主な相談内容、受診して体の不調や悩み等の問題が解決したかを共変量として調整

(7) 女性専用外来による問題の解決と対応

「女性専用外来を受診して、体の不調や悩み等の問題は解決しましたか」に対する回答では、全体の71.9%が「はい」と回答していた。

年代別にみると40歳代では「いいえ」の回答が他の年代より高かったが、有意差はなかった。

初診と再診で比べると、では、「問題が解決した」割合は初診が68.9%、再診が79.7%（無回答者を除く）であり、再診者では「問題が解決した」割合が有意に高かった。これは、再診者は診断がついて通院している者が多いため、「問題が解決した」と感じているものと思われる。

表 1-21 年代別、女性専用外来を受診による体の不調や悩み等の問題が解決したか

	10～30歳代		40歳代		50歳代		60歳以上		無回答		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
はい	58	70.7	74	67.3	143	75.3	44	69.8	3	100.0	322	71.9
いいえ	18	22.0	28	25.5	34	17.9	12	19.0	0	0.0	92	20.5
無回答	6	7.3	8	7.3	13	6.8	7	11.1	0	0.0	34	7.6
合計	82	100.0	110	100.0	190	100.0	63	100.0	3	100.0	448	100.0

問題が解決しなかった者に「問題解決のために、その後どのようにされましたか」と質問した。回答は複数選択した者が多かったので、複数回答として集計した。

全体では「何もしなかったので問題解決していない」32.6%、「他の医療機関を受診したが問題解決していない」28.3%あり、「他の医療機関を受診して問題解決した」は少なかった。しかし、無回答が38%を占めており、設問への回答が難しかったことがうかがわれた。

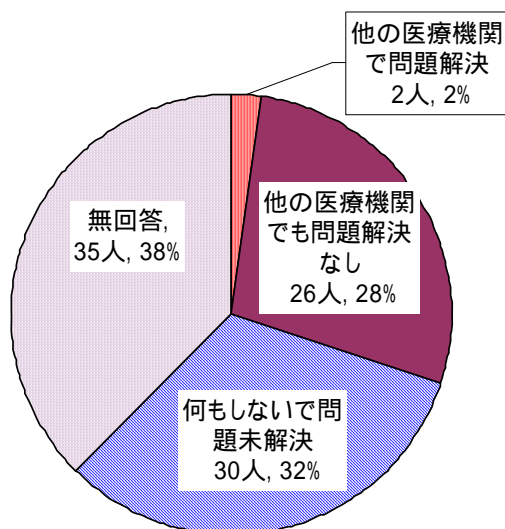


図 1-9 受診後に体の不調や悩み等の問題解決のために行ったこと (n=92)

初診と再診で比べると、初診では「無回答」が約半数であり、次いで「何もしなかったので問題解決していない」が約4割であった。一方、再診では「他の医療機関を受診したが問題解決していない」「何もしなかったので問題解決していない」「無回答」がほぼ同数であった。初診で「無回答」や「何もしなかったので問題解決していない」が多いのは、初めて診察を受けた後で調査票を受取っているため、問題を解決するための行動を起こす前に調査票に回答をしていることの影響も考えられた。

表 1-22 初診・再診別、受診後に体の不調や悩み等の問題解決のために行ったこと

	初診		再診		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
他の医療機関で問題解決	0	0.0	2	2.9	2	2.2
他の医療機関でも問題解決なし	3	13.0	23	33.3	26	28.3
何もしないで問題解決	0	0.0	0	0.0	0	0.0
何もしないで問題未解決	9	39.1	21	30.4	30	32.6
無回答	11	47.8	24	34.8	35	38.0
回答対象数	23	100.0	69	100.0	92	100.0

5) 女性専用外来及び健康や医療に関する千葉県の政策に関する意見・感想

女性専用外来に関する意見・感想等には335名、千葉県の健康や医療に関する政策については262名より回答があった。その中から主なものを抜粋し、年代別に別表1に示した。

別表 1

女性専用外来受診者満足度調査 自由記入欄 ～主な意見を抜粋～

年齢	女性専用外来への意見・感想
20代	今まで、婦人科の病気が気になっていたが、なかなか勇気が出なくて行かれなかったので、女性医師による女性専用外来は有難いです。又、気になっていることを何でも相談できたので良かった。今後、女性専門外来が増え、もっと充実していくと良いと思う。
20代	女性が色々相談できる医療機関が身近にあることは、とてもよいことだと思います。男性医師だと聞きづらいことでも、女性医師なら、自分が聞きたいことをじっくりと聞けるとと思います。今後女性のための医療機関が増えるとうよいと思います。
20代	女性には特有の病気が多くあります。今後も女性が気軽に相談できる女性外来の開設を望みます。ハード面だけでなく、診察内容の更なる充実も期待します。
20代	女性のための医療を充実させて頂けたらと思います。特に働いている女性はなかなか病院に行くことも時間的に難しいことも多いので、夜に受診できるとよいと思います。
20代	女性専用という環境なので落ち着く事が出来た。また、医師、看護師共に穏やかに話してくれるので患者の心の不安を少し和らげてくれた。診察時間についても短い時間で多くの患者を診察するといった医師がせかす構えではないので安心して診察できる
20代	他の診療科より、充分な診察時間があり、先生もよく話を聞いてくれたり、いろいろとアドバイスしてくれたのでよかったです。
20代	年齢的にも婦人科に行くというのは少し抵抗があった。正直行きにくいというのがあったが、女性専用外来というのを知って初めて行こうと思った。診察を受ける前に色々聞くことができるから良かったと思います。
20代	病院のインターネットで初めて女性専用外来があるのを知った。もっと早く知っていたら良かったと思った。女性専用外来があるっていうのをもっと多くの人に知らせた方が(知ってもらった方が)良いと思います。少しでも多くの病院で女性専用外来が増えればと思っています。
20代	健康診断は、もっと若い世代から受けられるようにして欲しい。
20代	予約制で良いが行けなくなってしまった場合次の予約がかなり先になってしまうので…。受診の内容によると思うのですがゆっくり話ができるという感じではない。
30代	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと受診しやすくしてほしい。(医師の数、時間を増やしてほしい。) ・医師のカウンセリング力を養ってほしい。
30代	<ul style="list-style-type: none"> ・予約制で十分な問診時間で満足しているのですが、予約日の前に変調があった時にも、対応してくれるとありがたいと思う。 ・色々な病院で女性専用外来が増えてくれたら…と思います。
30代	かねてから、婦人科系の検診等も女性医師の方が気兼ねせずに行きやすいと感じていた。女性だけでなく、男性にも総合外来的にふり分けられる「科」があれば受診もスムーズなのは?そのような意味でも、総合的に見てもらえる「女性外来」は良い事だと思います。
30代	もっと女性専用外来を増やせばよいと思います。女性医師、スタッフで話もしやすかったし、こちらの話もしっかり聞いてもらえました。普通の診察では時間も限られてしまい、思うような話も説明もできていない気がします。
30代	検査の際、研究のための検査と定期的な検査の費用の説明をもう少しきちんとしてほしい。そのつど言ってもらわないと、わかりにくい場合がある。
30代	自分が一番つらい時に、今の先生に逢え、ラッキーだったと思っています。女性ならではの意見もして下さり、共感していただけたりと先生の前ではいろいろな悩みをお話する事ができます。時間もかけて下さり、質問も丁寧に答えて下さいます。体や心の悩み事、友人、親にも言えない事を安心して話せます。今の私にとっては、安心できる場所になっています。もっと他の人にもわかりやすい様に、抵抗なく行ける場所なんだと他の人に紹介していただけたらと思います。
30代	女性外来の医師が少ないのか患者数が多いのかが原因だと思いますが、最初に予約をした時、電話した日から1ヵ月位先でした。女性特有の症状などをわかりやすく説明して頂いたのももっと気軽に受診できるとうれしいです。

30代	女性外来の件もマスコミ（TVや新聞）で知りましたが、県や市町村の媒体では目につきにくいように思います。また、女性外来のある医療機関以外にも広く情報周知していただけたら、より早く、より多くの女性がラクになるかも...と感じています。
30代	女性外来の充実ももとよりですが、小児医療の充実もはかっていただきたいです。
30代	女性外来を設置して下さった事にはとても感謝しています。私はこの何ヶ月でいろいろな体験をしましたが、その都度、相談の電話などをいろいろな窓口にさせてもらいとても助かったと思っています。私はたまたまここに電話したらよいか、知る事ができましたが、知らないでいろいろなやみ、どこにどう相談したらいいのかわからない人もいます。もっとポスターとか、いろいろな事わかりやすい様に表示したらどうでしょうか？お願い致します。
30代	女性専用外来から、他の科に回されるのが、イヤだ。（何かを調べる場合）専門の医師にと言うのは、わかるが女性の先生でなくほとんどが男性医師になってしまう。婦人科系の内診を女性外来で、見てくれればと思う。
30代	女性専用外来だけでなく、男性専用外来等県民の為の政策をお願いします。
30代	女性専用外来は仕事をする、子育てをする悩める女性の救いの場だと思います。そのためもっと多くの女性に知ってもらい、受診してもらうことができるように是非環境をととのえていっていただけることをお願いいたします。同時に女性に限らず総合的・横断的に診察してもらえる科を多くの病院に設置して、多くの人々がムダな時間とお金を病院に支払うことのないようにしていただきたいと思います。健康と医療で千葉県は日本一と評価されるように期待しています。
30代	女性専用外来は内科医のみだったが、産婦人科や乳腺外科などの医師もこれから担当してもらえたら、もっとうれしい。
30代	心身両方の不調（体全体の変化）を訴えても、色々な診療科を回されて検査ばかりされ、あまり改善されなかったが女性専用外来に巡り合えて、今はだいぶ体調も良くなった。女性特有の問題に取り組む科が産婦人科と別にあるのはとてもありがたい。
30代	先生、看護師スタッフのみなさんとても感じが良くすばしかったです。ただ体の不調の原因がハッキリしない事と薬の量が多すぎます。はじめて服用する薬なのに2ヶ月分処方されたりします。結局薬があわなくて1ヶ月半分ぐらい服用しないまま別の薬に変更になったりします。薬の量はもう少し考えてほしいです
30代	先生はよく話を聞いてくれて診療の後は気分的に少しスッキリするが次回の診療までが長すぎる。もっと担当医を増やしてほしい。多くの人々が診療を受けたいため予約がずっと先まで埋まってしまっている。
30代	総合病院に女性専用外来があるのはとても良いと思う。何故なら、心身のダメージが大きい時に診療すべき科を探して何ヶ所も医院をまわるのは不可能だし、入口にタクシーが待っていてくれるのも助かる。（これがないと、ある意味元気でなければ通えない。）レストランがあるのも良い。
30代	体調が悪い時、すぐ受診できなかったのが不満でした。予約が1ヶ月半も先になってしまうのは、それまで本当に不安でした。その為、他の医療機関に頼らざるを得なくて、予約の日にはだいぶ良くなっていました。
30代	中学2年頃から月経痛になやまされ、その度男性医師の診察で色々聞きづらい面もあり涙を流した事もありました。今日38才までの間に色々な病気をして悩み苦しめ、自分でどうしたらいいのかわからなくなっていた時に、新聞で女性専用外来を知り受診しました。まだ完全には治っていませんが、以前より気持ちも楽になり本当にいい先生に出会えたと思います。
30代	同性として立場や気持ちを理解していただけるのでとても信頼できる。理由のわからない不調が多く、総合的に考えていただけるのもうれしい。思いがけず別の病気も発見してもらうことができた。
30代	良い先生に出会えてよかったです。内科と婦人科のカルテをみながら話しをするので、たすかります。先生の人柄が良く、心が楽になります。受診できてラッキーだったと思っています。
40代	女性同志なので大変良く聞いてくれる。医師も経験している様なので小さい事や質問にもしっかりと答えを出してくれるので安心しています。何か不安がとれる様な気がします。
40代	私は体の不調をおぼえ婦人科、精神科などに行きましたが、分断したそれぞれの科では治りませんでした。女性外来に受診して全体的な診断をされ、それにあった診察により体の不調もとても良くなりました。
40代	・専門医が毎週金曜日のみの為予約がむずかしい。もっと診療日を増やしてほしいです。 ・医師以外のスタッフ（受付看護師）の対応が非常に良かった。
40代	・予約の時間がすぎても呼ばれない事が多かった。・待合室といっても廊下に椅子がおいてあってそこで待っている状態なので（それと、すぐ脇に女子トイレがあり...）とても落ち着かないです。（人の往来が多い） ・診療の内容、医師等の姿勢はよいです。

40代	こういう、医療機関が政策として設置されているという事は、多くの女性の救いだと思います。
40代	このような女性専用の医療機関に分かる事が出来て本当によかったと思います。更年期という女性特有の症状に対して、定期的に相談出来るという事は安心してこの時期を乗り越えられるかなという気持ちです。今後もより良い政策を期待しております。
40代	とても今まで受診した所と同じ「医療機関」と思えない程安心して通院しています。こちらが理解できるまで説明してくれるし、こちらが納得するまで話を十分聞いてくれるからです。少しでもこれらが不安な事なら、解決しよう、という姿勢がとてもありがたいです。
40代	もっと気軽に受診出来る様にして欲しいです。病気の時等車で行きたくても駐車場もない病院が多いです。近くに公営駐車場があれば行き易くなると思います。大きな病院は待ち時間が長いですし、急救時も専門医がいらない事も多いです。
40代	もっと設備を万全にし、あらゆる検査ができるよう、そしてその場で検査できるようにしてほしい。女性専用外来らしく設置する場所やBGMなどまっている時の（待ち時間が長い為）雰囲気づくり、雑誌など行きやすい所にする
40代	もっと他の診療科との連携をとって欲しい。話を聞く相談室で終わっては病院で開設しているという意味がない。
40代	外来日を増やしてもらいたい。受付、待合室、診察室を内科とは別の場所にしてほしい。
40代	更年期障害のみではなく、総合的に相談に乗って頂き、他科に検査のオーダーもスムーズに出してくれてとてもありがたいです。
40代	最初に受診した時、かなりの量の問診表への記入にびっくりし、十分な診察時間をかけて、話を良く聞いてくれた事に感動して帰りました。そして、女性医師だからこそ、気軽に今後の治療方法などの相談ができて良かったと思っています。保険診療で費用が安いのも助かっています。
40代	私の場合、閉経の疑いと乳ガンの疑いが同時期にあり、各々婦人科と外科と別々に診てもらっていて、乳ガンになる率が高くなるかもしれない。女性ホルモン剤を補充した方がいいと婦人科の男性医師に言われた為、各科を総合的に診てわかる女性医師に診てもらいたいと思うようになって受診した。とても親身になって、一緒に考えて頂き、心が楽になりました。
40代	初診時の予約が2～3ヶ月先状況であったので今すぐ診察してほしいという希望は優先されず、他の医療機関へ2ヶ所、行った。最初から診察してもらえたら、他の病院に行かずに、適切な治療が受けられたと思うので、それがとても残念だった。
40代	初日のみ問診で良く話を聞いていただけ。実際診察では、予約患者が多すぎる為（予約時間でもすぐ待たされるので）事情は解るが納得のいく話ができない。時間をかけ話をきいて下さる所が実際にはできていないようです。
40代	女性外来が医療政策で置かれているとは知りませんでした。まだまだ浸透していないのでしょうか。知らない人も多いようです。婦人科系の症状以外でも、まずは「女性外来」というようになればうれしいですね！！
40代	是非とも、女性外来の窓口を増やして下さい。この門をくぐることを少し恥ずかしく思い遠慮している人もいます。でも、いつも予約がいっぱいで需要は高まっていることは確か。予約がとりづらいので外来の日にも増やしていただければと思っています。
40代	性差医療はあって当然だと思う。精神的な心療内科的な要素も併せもった診察を受けたいと思っていたので、ニーズにかなうのは女性専用外来だけだった。もっと多くの人にアピールしてもよいと思う。
40代	窓口で紹介されて受診することになったのですが、予約が取れず1カ月ほど待ちました。初診でもすぐ受診できる体制であってほしいと思います。現在、医師が1人で診察しているのですが、お互いの相性など考えると、数人の医師が必要と思います。（私は満足してます）。こみ入った話が多いと思うので...
40代	他の科へ行くのではなく、そのまま同じ先生に見てほしい。
40代	体だけでなく、心の健康を必要としているのは、女性だけでなく男性も同じだと思います。女性専用外来と同じように男性専用外来が、もっとたくさんふえると、救われる人も多いと思います。男性専用外来は、あまりにも少なすぎるように思います。男性の更年期で悩んでいる方もあるとききます。男性も女性もそれぞれ専用外来があるような病院を、1つでも多く増やしてほしいと心から思います。
40代	体のことを総合的に相談できるので、有難い。私の場合、現在、内科と婦人科を受診しているが、相互に連携した診療をしてくれないので、困っていた。
40代	待合室で待っている間前の方の話し声がきこえてくる。自分の声も外へ聞えているのかと思うと話しくくなる。
40代	地域の格差是正を期待します。

40代	恥ずかしくて誰にも相談できないでいたので、診察が終り症状もよくなり生活に不安がなくなりとてもうれしかった。精神的にとってもいい科だと思います。
40代	中途半端な気がします。私が要求することが大きすぎ（多すぎ）るのかも知れませんが。女性専用外来というのは婦人科がメインなのか、他の部分はあまりないような気がします。例えば気になる症状を伝えても他の病院を紹介してくれる（といっても、こういう所に行ったらいいというアドバイス）だけ、行く病院が増えるばかり。トータルで診てくれるという感じではないのですが、トータルで診てもらえると思っていました。
40代	夜間の医療体制が充実していないと思う。とくに、保健センターの夜間診療は、“何でこのくらいの事で来たの”という態度で不安が大きくなった。夜間専門の病院などは、出来ないのかと思う。
40代	予約して受診したにもかかわらず待ち時間が長いのが困りますが医師が話をよく聞いてくれ体や心の悩みごとと一緒にみてもらったから大変感謝しています。ありがとうございます。女性専用外来の窓口をもっとふやしてほしいです。
50代	体の具合が悪くなってから、予約をお願いしたのですが、3ヶ月後の予約との事。医師が少ないのかも知れませんが、不安が増すばかりでした。即、対応して下さる体制をお願いします。
50代	治療診療から予防診療に方向転換している近頃の流れでは働きながらという状態が多く平日の一日を休診にしても、土、日のいずれかを開業して欲しいと思います。1～2ヶ月前に予約をしても、平日では、仕事の予定が入ると、どうしても断れない状況があったりします。
50代	・アンケートの内容を読むと、外の科と診察待合室が違うように書かれているが、そうではないので、男性がその場にいるのが少しイヤであった。・みてもらいたいと電話してから、見てもらうまで2か月先というのは、ちょっと長すぎる。すぐ予約がとれるようにしてほしい。（手あてが手おくれになる場合もある。） ・自分の体を総合的に調べてくれ、他の科にも予約がとれたのはとても嬉しかった。
50代	・カウンセリングや食生活の指導があるとよいと思います。 ・更年期に対する問題・家族の取組方等の講習会を受けれるシステムが有るとうれしい。
50代	経験豊富な専用外来の医師（男性でも可）を増やして、気軽に（病院保健センター）等に相談に行けたり、診察してもらえるといいです。希望（夢）は歩いていける距離に欲しいです。今は医師が少ない為、医師自身がストレスや疲れにより、患者が医師の疲れている様子を見ると相談しにくい時があるから
50代	・女性専用外来同様、男性専用外来も開設してはどうか？ ・人は年令・性別に関係なく心身健康が一番。大掛かりな医療とち密な医療を常に並行して取り組んでほしい。
50代	50歳代の医師が良いと思った。医師が疲れている感じがした。
50代	女性専用外来のようなところがあることをもっと早く調べればよかったと思うほど、すばらしい診療内容だと思います。もっと増やして、何ヶ月も待たなくても診ていただけたらよいと思います。私のような方はたくさんいらっしゃると思います。でも、3ヶ月待った甲斐がありました。
50代	スタートして間が無い為、データ等が乏しく、先生も手探り状態であると思います。尚一層の向上の為に頑張ってくださいと切に希望致します。
50代	私が一番聞いて答えてほしかったことを、どこ(他の)病院でもわからなかったようで、ここへ来て答えてもらうことができて、涙が出るほどうれしかった。どうなるかわからないが、トンネルの向こうが見えたような気がした。ありがとうございます。
50代	健康診断等病気の早期発見、予防等は大変必要だと思います。現代は心の病気の多い時代だと思います。（時代の不安定さによる）体、心が元気に生活できる様な千葉県作りをして欲しいと思います。
50代	更年期で悩んでいます。初めて受診し、患者の心情をくみとりながらおだやかに話をきいて頂き、気持ち少し軽くなりました。女性外来は患者とのコミュニケーションのあり方がとても重要だと思います。今回この外来のあることを初めて知りました。ありがとうございます。今後、アピールと数を増やすことを願っています。
50代	更年期になりはじめてわかりました。終産期・妊娠等、大切な時期に政策として、検診や調義（メンタル等）必修として、無料で受診等の検討を是非、実施してほしい。これからの人に明るい更年期をむかえられるよう、早期実施を県に政策としてとり入れてほしいです。周産期の大切さと無料によるケアを。
50代	今まで何件かの婦人科へ通いましたが、こちら側の悩みを深く聞こうとせず不安でいっぱいでしたが女性外来ができて医師を信頼することができました。薬代が毎月1万ぐらしかかるので（5千円～1万円です）もう少し安くなれば良いと思います。
50代	最初、更年期症状がでた頃、通常の婦人科にいましたが、薬も処方されず、病年扱いにされなかった感があった。それから、更年期外来をさがし始めましたが、どこにするか、迷いました。もっと、いろいろ情報がほしいです。

50代	十分な診察時間で話をよく聞いて下さりありがたかった。血液検査等、くわしい項目まで調べてくれたので、他の病気の事もわかりましたので、よかったです。もう少し先生にみて頂きたかったのですが、まだ、待っている方がたくさんいますのでと言われ、後の方の事を考えてずっとみて頂くわけにはいまいかと感じ、他の近くの病院に紹介状を頂きました。
50代	私はH17.1月に乳ガンの手術を受け、現在ホルモン抑制剤で治療中です。その影響か更年期障害の様な症常があり女性外来をすすめられ漢方薬をいただきました。雰囲気がとても明るくやさしくて非常に感謝しております。私は20代の頃より乳腺症があり昔は女性外来もなくすべて男性医師、技師の方で恥ずかしさが強く、受診をついためらいがちでした。でも不安なので40代から女性の産婦人科医で婦人科も乳ガンの検診をしてくれる医院があったので年に1回必ず検診していたのですが数年前その先生が急にお亡くなりになり、女性医師で乳ガン検診をしていただける所を探していたのですが見つからず・・・。他の検診はしていたのに乳ガンだけは数年自己検診のみになっていました。自分で見つけたのですがマンモグラフィー検診を毎年していればもっと早期の段階で発見出来て術後の再発の不安ももっと少なくてすんだのに...と思います。回りの女性に聞いても乳腺&婦人科は羞恥心が先に立ち受診をついためらう方も多いです。アメリカのように20代からすべての方に女性スタッフによる乳ガン、婦人科系ガンの検診をしていただければ、少なくとも女性ガンは確実に減っていくと思います。もっと気軽に婦人科系の病気の発見につながるよう女性医師とスタッフによる女性専用外来そして女性専用ガン検診の充実を願ってやみません。
50代	女性専用外来が有ることはありがたいのですが、医師が専任でないのが残念です。女性専用外来の日は2週間に1度なので、途中で受診したくても担当医師が、他の診療の為できないので不便に思います。
50代	千葉県に住んで良かった。環境も医療施設も充実してめぐまれていると思いました。
50代	全体に若い女医さんでしたのでちょっと不安はありますが話をよく聞いて下さい(どこまで理解しているか年令的に)ます。もう少し公私共に自分達と重なる部分がある先生が見て下さるともっと安心なのですが。
50代	他科の一般外来の受診、問診内容とは違い、一人の人間の身体全体をみてもらえる事に安心感を感じました。看護師の対応が良い(気配り)
50代	体の不調があった時に検査又は専門医になり結果が出るまで時間がかかりすぎる。患者は今、体が不調なので早く体が快適になりたいです。又、診察室に物が(書類等)かたづけられないまま雑然と置かれている。体調が悪く受診しているので、あれを見るとガッカリします。お花の1本も飾ってあったほうが良いのではないのでしょうか?医師ではなく病院側にもう少し配慮があってもいいのでは?
50代	体の不調はいろいろなところに現れます。総合的な判断が得られることが必要です。それを早く的確にさせていただくことが、健康・医療への信頼、医療費の節約などに結びつくと思います。
50代	男性医師では話にくい体の事だけだと思っていたが、心の悩みも聞いてくれて安心しました。
50代	長い期間、内科と婦人科にかかってもなかなか良くならなかったが、受診して改善でき、本当によかったと思っている。同性であり、細かな事も聞く事ができ、検査で解決できる事はすぐに対応していただい、不用な心配をせずにすむ。
50代	通院時間が車が空いても50分程かかり、とても具合が悪い時は大変です。もっと数を増やして欲しい事と今後も経験豊かな(医師としても女性としても)先生を配慮して頂きたいと思います。体だけではなく心の診察も重要と思います。現在は診察時間・内容共満足しています。
50代	特に女性の場合更年期と重なるとすべて更年期のせいとされ納得がいかない。十分な時間の中で問題点を先生が見つけてくれて問題解決に向かえるだけでも元気に前向きになれる。女性専用外来はとても良いと思った。救われました。
50代	年をとると医者通いが増え薬代がけっこうかかる。医療費をもっと安くしてほしい。病院のいろいろな費用の額を明解に表示してほしい(病院のしくみがわからないから)
50代	病院が大きくて何科にいったらいいのかわからなくまち時間がとても長かったので女性外来になってよく話をきいてくれて時間ありとてもよいと思いました。私の場合体の悩みもそうなんですが、心のイライラの方が強く、話を聞いてもらえただけでよかったです。
50代	薬を受けとった時薬局で聞いても飲み合わせ(他の薬との)など...まったく答えてくれないので医師は受診した時しか聞くことが出来ず大変忙しくしていらっやと思うのでセカンドアドバイザーのような方がいたらと思います。
50代	話をよく聞いてくれて、安心感があります。特に、先生の診察がやわらかくて接しやすく、私のような病の人には助かります。説明もよくしてくれます。おかげさまで体調もよくなりました。

60代	女性専門の病気とは、すぐに解決がある訳ではないので、なかなか、すっきりした感じはない。でもお話を聞いてもらったり、方向先を教えて頂いたので安心感が少し出てきて身体の具合の方にも良い結果が出てくるとよいと思います。
60代	検査をすると1ヶ月の薬とで15000円位かかるのはちょっと大変
60代	ホームドクターとして大変実力の有る信頼出来る医師を8～9年前に亡くなられてからというもの、検査結果を正しく判断出来る、実力の有る医師にめぐりあえず。泣きの涙と苦しみ、不調の連続でした。比の度“女性用外来”と云うだけでなく、それに関係される先生の情報を知り誠実に、従来有るべきすばらしい先生にお会い出来るとピーンと確信を持ち診察を受け、まさにもったいない様な先生にめぐり会う事が出来私のこれからの人生を救われた感じが致しておりますし、事実、心身共に無事に安定した生活を頂きました。お礼の申し上げようもありません。
60代	県の女性専用外来は全国的に有名であり誇りに思っています。これからも更に充実していただけたら助かります。宜しくお願いします。
60代	一人の患者に対して時間をかけ、ゆっくり話を聞いていただき、病気の事だけでなく、心の方にも感じる説明でとても元気づけられ、大変満足しました。
60代	診察して解決出来ないと、先迄予約を入れてくれない。そこでハイ終了、後は自分で何とかしろという素人にはそこが困る。
60代	情報が不足しているように思う。東京の場合には、雑誌等にも取り上げられているので、病院等選びやすい。
60代	年令が高くなって来たので負担金が少なくてすむ様をお願いします。
60代	・女性医師が私の体を少しでも直そうと良く話をききながら、対処してくれて有難く思っています。 ・保険診療はこれからも続けて下さい。
60代	病院で未病や病気予防についての指導等を積極的にやってほしい。
70代	こちらには2回通院しただけで、あまりくわしい事は存じませんが、何となく医療に前回で細かいご政策をお持ちになっていると感じました。病気になったから、それに対する処置や治療するだけにとどまらず、これからは、難しい事かもしれませんが、例えば、予防学等にも意識を向けていただければと願っております。
70代	受診時間30分以内では短かいと思いますが？

2. 女性専用外来の医療従事者（医師）への調査

（1）回答状況と回答者の属性

10 病院 23 名の女性医師に配布し、14 名からの回答を得た（回答率 60.9%）。病院別の回答数では、1 名が 5 病院、2 名が 4 病院、病院名無記入が 1 名であった。回答者の平均年齢（標準偏差）は 45.7（12.2）歳、年齢構成は 30 歳代 6 名、40 歳代 3 名、50 歳代 3 名、60 歳代 1 名、無回答 1 名であった。専門領域は、産婦人科 4 名、内科 4 名、精神科 2 名、小児科 2 名、放射線科 1 名であり、女性専用外来への勤務は専任が 3 名、兼務が 10 名、無回答 1 名と兼務が多く、従事年数は平均で 1 年 9 ヶ月（標準偏差 12 ヶ月）、1 年未満が 4 名、1～2 年 3 名、2～3 年 4 名、3 年以上 3 名であった。

（2）学会・研修会への参加

女性専用外来に関連する学会等に参加している者は 10 名（71%）、千葉県が開催する女性専用外来担当者研修会や関連する研修会に参加したことがある者は 9 名（64.3%）であった。参加した研修会の内容に対する満足度は、「満足」4 名、「どちらかと言えば満足」2 名、「どちらかと言えば不満」2 名、「どちらとも言えない」1 名であり、「不満」と回答した者はいなかった。

「どちらかと言えば不満・不満」の回答者にその理由を聞いたところ、「どちらとも言えない」の回答者も含め、3 名より以下の意見が出された。

漢方の勉強会：効果に関する evidence がなかった。
千葉女性医療を考える会では、それぞれの施設での試行錯誤がよくわかって、はげまされました。
日時が平日が多く、都合が悪い（仕事を休まなければならない）
講師のレベルが低いわけではないだろうが、女性からの質問に対する解答が十分でない。 おそらくふだんから質問に対する答えを持たず、問題意識が低いためと思われる。 女性と男性の関心をもつ領域は異なると思う。男性講師には女性の関心の的をもっと知ってもらいたい。

（3）当該医療機関の女性専用外来について

回答者の医療機関の女性専用外来の形態は、「初診のみで振り分け外来」が 2 名、「初診と再診を行っている」が 12 名であり、初診と再診を行っている医療機関からの回答が多かった。

他の診療科との連携では、「よい」13 名（10 病院と病院不明）、「うまくいっていない」0 名、「今までに事例がない」1 名であり、同一医療機関内の他診療科との連携は比較的うまくいっているようであった。

他の医療機関との連携では、「よい」10 名（8 病院）、「うまくいっていない」0 名、「今までに事例がない」4 名であり、同一医療機関内の他の診療科との連携に比べると他の医療機関との連携は「事例がない」との回答が多かった。

健康福祉センター（保健所）との連携では、「よい」4 名（3 病院）、「うまくいっていない」0 名、「今までに事例がない」10 名であり、健康福祉センターとの連携は十分に機能していない可能性も考えられた。

（4）他の診療科からの女性専用外来部門への評価

他の診療科からの評価は、「高い」0 名、「どちらかと言えば高い」2 名、「普通」8 名、「どちらか

と云えば低い」2名、「低い」1名、「無回答」1名であり、「普通」の回答が多かった。「高いと評価されている理由」では、知名度が高い、院内で受診している患者様の精神的ケア（を実施している） 総合的に観察をしている、等の記載があった。

（5）女性専用外来に従事していることの満足度

女性専用外来に従事していることの満足度では、「満足」4名、「どちらかと言えば満足」7名、「どちらかと言えば不満」2名、「不満」0名、「どちらとも言えない」1名であり、「満足・どちらかと言えば満足」が11名（79%）であった。

「どちらかと言えば不満」の回答者からは、その理由として以下の記載があった。

兼務のため負担が大きい。精神的ケアを求めておられる患者が多いため、難しい。
精神科であるため、特に女性外来に従事している意義をあまり感じられない（当該医療機関に精神科をまず設置すべき）。但、患者様が受診しやすいというメリットのあるようですが、でも精神科を受診しづらいことの方が問題なので。

また、「満足」「どちらかと言えば満足」の回答者からも記載があったので、以下に示す。

満足はしていますが、これでいいのかという不満／不安は常にあります。
患者の求めているものが何なのか、時にわからなくなることがあり、又、感情的愛着（陽性転移）で受診する方もあり、医師として（科学的なもの）これでいいのかと思うこともあります。
患者の中には“満足した”と言ってくれる人がいること。他の診療科でのやりとりを聞きながら病気を考えていくことができること。（「どちらかと言えば満足」と回答）

（6）担当した女性専用外来初診患者における診断確定状況

平成13年度から16年度まで、各年度別に診断確定ができた初診患者数と疾患の内訳を尋ねたが、未記入の回答も多く見られた。そこで、疾患名が記載されていた人数を疾患ごとに集計し、その総和を診断確定合計とした。確定した診断名では、多い順に「更年期障害」34.9%、「産婦人科疾患」24.8%、「精神疾患」27.0%であり、この3疾患で全体の87%を占めていた。

表2-1 診断が確定した疾患とその割合

	悪性 新生物	骨代謝 疾患	自己免 疫疾患	消化器 疾患	循環器 疾患	生活 習慣病	内分泌 疾患	更年期 障害	産婦人 科疾患	精神 疾患	筋・神 経疾患	診断確 定合計
計	12	25	4	9	14	60	15	419	298	324	21	1201
%	1.0	2.1	0.3	0.7	1.2	5.0	1.2	34.9	24.8	27.0	1.7	100.0

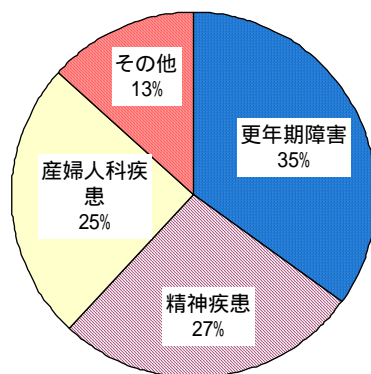


図2-1 診断が確定した疾患とその割合

(7) 診療科を選択するときの重要度

11項目について診療科を選択する際の重要度について質問した。全項目について全員から回答が得られた。重要とする回答が多かったのは、「患者・疾患への関心」「学術的好奇心」「チームの質の高さ」(各8名)であり、「患者からの評価」も7名が重要と回答していた。一方、「社会からの評価」「自分に与えられる権限の水準」「報酬水準」は比較的重要度が低かった。

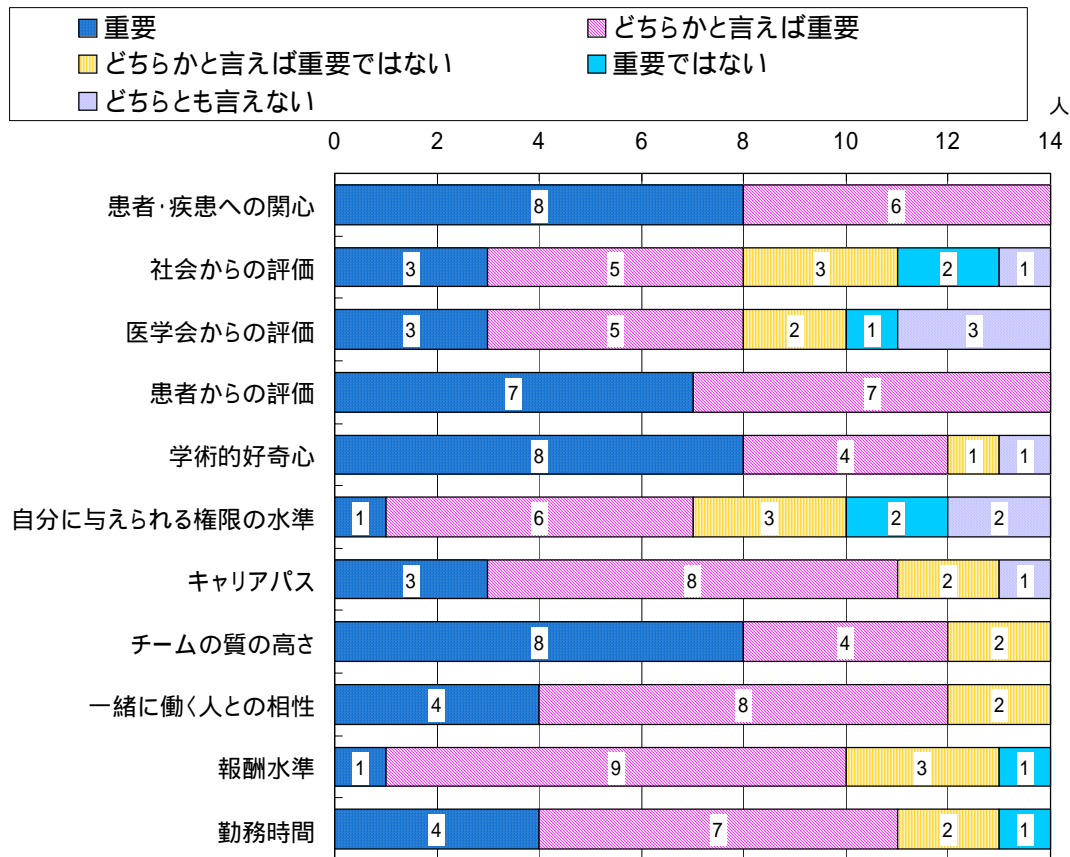


図2-2 診療科を選択する時の選択項目別の重要度

(8) 診療科選択項目に対する、現在の女性専用外来での満足度

診療科を選択する項目と同じ項目について、現在の女性専用外来部門での満足度について質問した。「満足」の回答が多かったのは、「一緒に働く人との相性」6名、「チームの質の高さ」「患者・疾患への関心」各5名であった。「どちらかと言えば満足」の回答が多いのは、「患者からの評価」9名、「自分に与えられる権限の水準」「キャリアパス」「チームの質の高さ」「一緒に働く人との相性」8名であり、「一緒に働く人との相性」は回答者全員が「満足」または「どちらかと言えば満足」と回答していた。満足度が低いのは「医学会からの評価」「学術的好奇心」「キャリアパス」「報酬水準」であり、女性専用外来部門の学術的評価や専門診療科としての評価に対して不満が高いと考えられた。

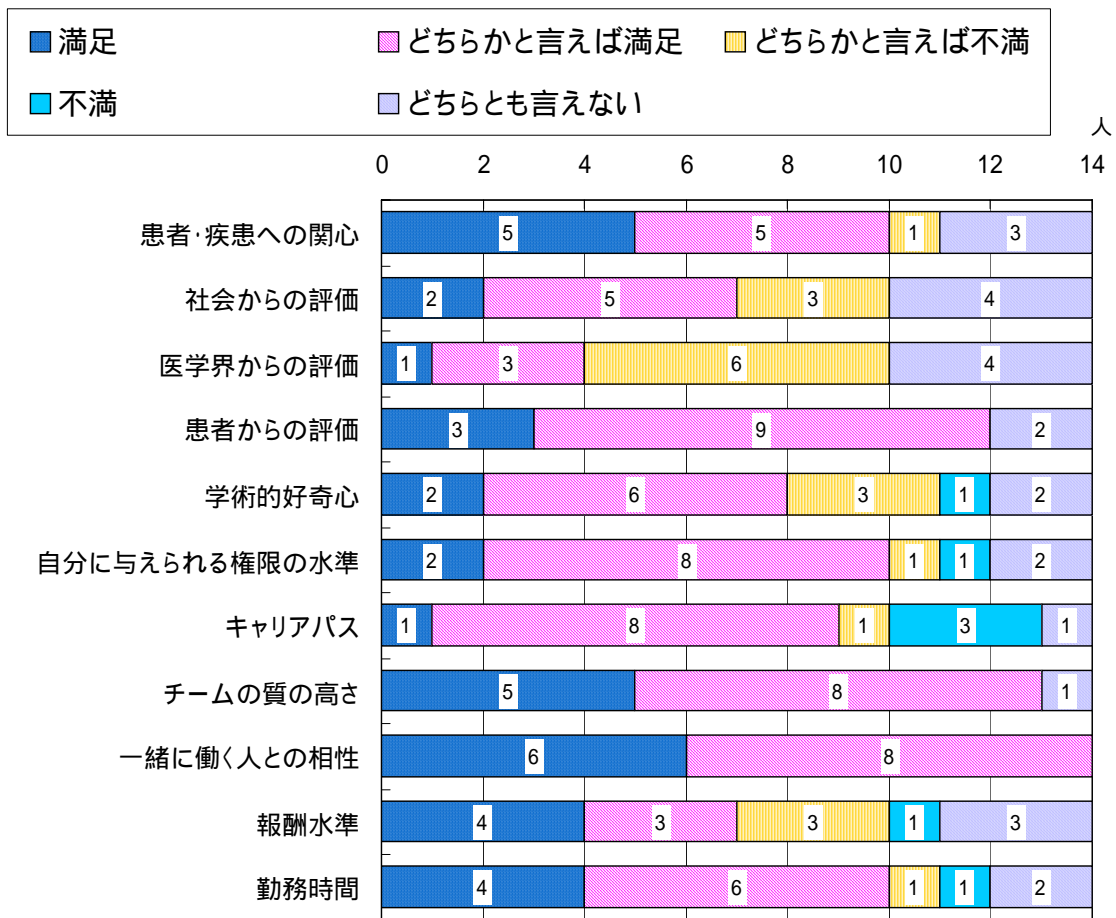


図 2-3 診療科を選択する時の選択項目別、現在の女性専用外来部門での満足度

(9) 診療科を選択する時の重要度と現在の満足度

診療科を選択する時に検討する項目について、「重要」「どちらかと言えば重要」と回答した者の数と、現在の女性専用外来部門において各項目について「満足」「どちらかと言えば満足」と回答した者の数を比較した。

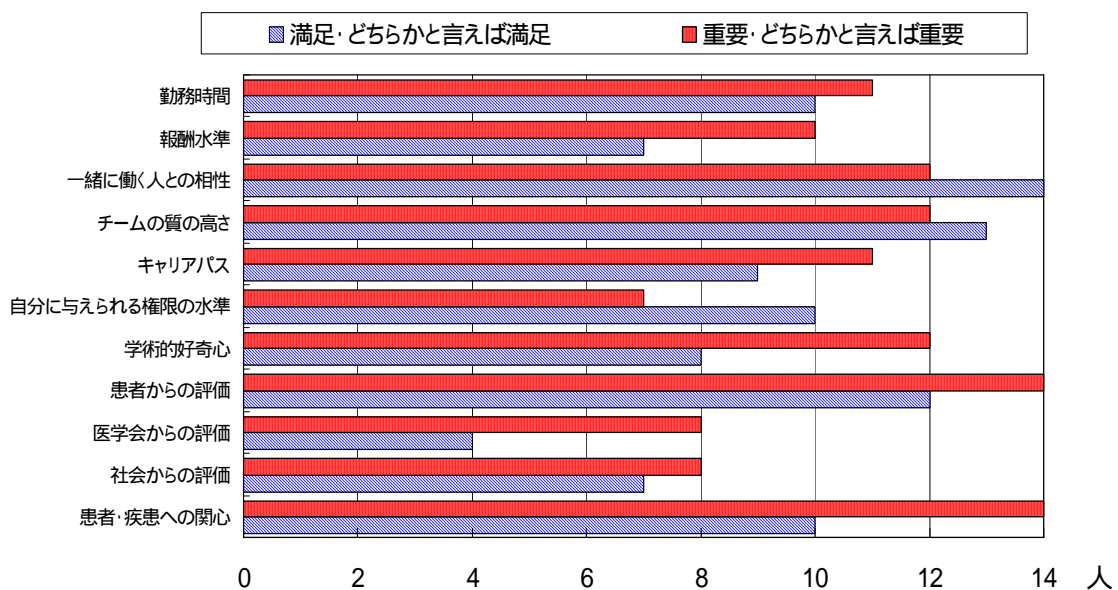


図 2-4 診療科の選択要素について、現在の女性専用外来部門での満足度

「重要・どちらかと言えば重要」の選択者数よりも「満足・どちらかと言えば満足」の人数が下回っていたのは、「患者・疾患への関心」「患者からの評価」「学術的好奇心」「勤務時間」「キャリアパス」「報酬水準」「社会からの評価」「医学会からの評価」であり、「患者・疾患への関心」「学術的好奇心」「医学会からの評価」は重要と回答した人数と満足と回答した人数の差が4名と最も大きかった。

一緒に働く人やチームについては重要とする人の人数より満足とする人の数が多く、女性専用外来部門のスタッフ間のコミュニケーションがよく取れていることがうかがわれた。

(10) 女性専用外来を向上するための課題

女性専用外来を向上するための課題が「ある」と12名が回答していた。課題の内訳(複数回答)は、医療従事者の増員7名、医師を含む医療従事者の専門性の向上11名、他の診療科との連携9名、機器の充実1名、その他4名であった。その他の内容では、患者の自己判断力の向上、常勤医の設置、他施設との連携が挙げられていた。

また、選んだ課題の中で最も優先されるものは、医療従事者の増員4名、医師を含む医療従事者の専門性の向上4名、他の診療科との連携2名、その他1名であり、医療従事者の増員や専門性の向上が優先課題となっていた。

(11) 女性専用外来に今後も従事する意欲

今後も女性専用外来に従事する意欲については、「従事したい」6名、「どちらかと言えば従事したい」4名、「どちらかと言えば従事したくない」4名、「従事したくない」0名、「どちらでもよい」0名であり、従事に対して前向きな意欲を持っている者が多かった。

「従事したくない理由」については以下の回答が出された。

患者の力になれたと感じることは多く、役に立てていると思うが兼務であるため、女性外来専門の勉強を充分することができないギャップがある。主科が多忙である。
解決できない問題も多く、自分が追いつめられる。
女性学、性差学として進歩させるより、従来の診療科の中で性差をきわめていく方が、効率的で成果があがる。精神科がない医療機関での女性外来での精神科医としての立場が難しい。元々精神科があったとしても、精神科の治療は患者さん“個人”を考えた診療を行っているので、特に性差をうちだすのが難しいと思います。

(12) 女性専用外来に対し、今後、県としてどのような取組みをすることが望ましいか

今後の県の取組みに対しては、7名より意見が出された。

やはりまだ試行錯誤の時期なのかもしれませんが、EBMとしての女性外来を確立することが重要と思います。そのためには、人材確保のための資金や育成のためのシステムが大切と考えます。
医師でなくても、カウンセリングや相談でも良いケースが多いので、市町村レベルの保健師さん達による相談窓口を増やしても良い印象があります。
医師以外の人に“相談外来”をやらせてほしい。そうした人たちの向上に医師が活躍した方が、効率的である。
今後もこの様な取組への支持を続けて戴きたいと思います。
女性専用外来というだけでは限界があるのでは。女性医師による乳腺外来、婦人科外来、泌尿器科外来、更年期外来、漢方外来と目的をはっきりさせた方が良い気がします。また、コストパフォーマンスも考えていかないと、どこかで限界がきてしまうのではないかと考えます。

女性専用外来の質の向上と普及、そして性差医療という観点から男性専用外来の開設を。

専門性の向上のために、これからも定期的な勉強会を継続してほしい。

(13) 健康や医療に関する千葉県の政策についての意見・感想

6名より意見が出された。

アンケート項目の意味のわかりづらいところが多く、また確定診断の項目分けが女性外来の内容を知る上で適当でなかった(その他が多くなってしまふ)と思われます。意義あるアンケート統計を集めるためにあらかじめ、女性外来担当医と内容についてご相談いただけたらよかったですと思います。今後も連携をとって千葉県の医療向上に努力したいと思っております。

患者様を総合的に時間をかけて診るという医療行為に行政からのバックアップが欲しい。(女性専用外来を受診した患者様の多くは、時間をかけて総合的に診察し治療をするという点を評価している)

健康ちば21、結構だと思います。健診の質についてのチェックや、住民のニード(例えば市民講座など、月曜AMにやっても人はこない)に対応することが必要ではないでしょうか。

行政と医療現場が“運命共同体”となることが必要。そのためには職種の壁をとりのぞくこと。

今後は、オーダーメイド医療になり、性差を含め個体差がどんどん重視されていくと思います。その時、性差の位置づけがどうなっていくか考えておいた方がよいと思います。また、経済格差が広がっていくと自費診療の面が増えていくと思われますので、県としては最低限で受けられる医療の質をどこまであげていけるかが課題ではないでしょうか。健康や医療面にどこまで予算を使えるかということになってくるのでは。

男性よりも、女性の方が健康問題が多い現在、女性の健康について意欲的な取組をされているので女性にとり有難いと思います。

3. 女性専用外来の医療従事者（看護職員）への調査

(1) 回答状況と回答者の属性

10 病院 48 名の看護職員に配布し、30 名からの回答を得た（回答率 62.5%）。病院別の回答数では、1 名が 2 病院、2 名が 4 病院、3 名、5 名、7 名が各 1 病院、病院名無記入が 5 名であった。回答者の平均年齢（標準偏差）は 34.9（7.7）歳、年齢構成は 20 歳代 2 名、30 歳代 12 名、40 歳代 12 名、50 歳代 3 名、無回答 1 名であった。女性専用外来への兼務が 28 名、無回答 2 名と兼務が多く、従事年数は平均で 3 年 3 ヶ月（標準偏差 61 ヶ月）、1 年未満が 4 名、1～2 年 6 名、2～3 年 8 名、3～4 年 5 名、4～5 年 1 名、5 年以上 2 名、無回答 4 名であった。

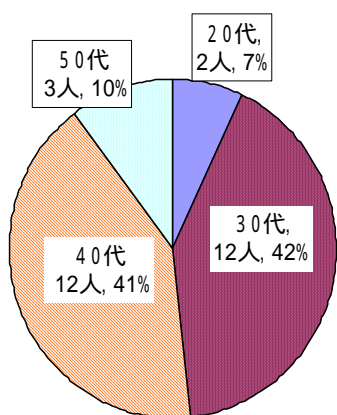


図 3-1 回答者の年齢構成

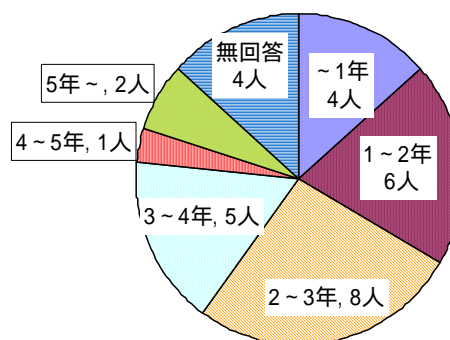


図 3-2 回答者の勤続年数

(2) 学会・研修会への参加

女性専用外来に関連する学会等に参加している者は 7 名（24%）、千葉県が開催する女性専用外来担当者研修会や関連する研修会に参加したことがある者は 10 名（33.3%）であった。参加した研修会の内容に対する満足度は、「満足」2 名、「どちらかと言えば満足」5 名、「どちらとも言えない」3 名であり、「どちらかと言えば不満」「不満」と回答した者はいなかった。

「どちらかと言えば不満・不満」の理由では、「どちらとも言えない」の回答者 1 名から、「外来での活用の仕方がよくわからなかった」という意見が出されていた。

(3) 当該医療機関の女性専用外来について

回答者の医療機関の女性専用外来の形態は、「初診のみで振り分け外来」が 2 名、「初診と再診を行っている」が 28 名であり、初診と再診を行っている医療機関からの回答が多かった。

他の診療科との連携では、「よい」22 名（8 病院）、「うまくいっていない」4 名、「今までに事例がない」1 名、無回答 3 名であり、同一医療機関内の他診療科との連携は比較的うまくいっているようであった。

他の医療機関との連携では、「よい」18 名（8 病院）、「うまくいっていない」3 名、「今までに事例がない」4 名、無回答 5 名であり、同一医療機関内の他の診療科との連携と同様の結果であった。

健康福祉センター（保健所）との連携では、「よい」6名(3病院)、「うまくいっていない」2名、「今までに事例がない」19名、無回答3名であり、医師の回答と同様に、健康福祉センターとの連携は十分に機能していない可能性も考えられた。

(4) 他の診療科からの女性専用外来部門への評価

他の診療科からの評価は、「高い」2名、「どちらかと言えば高い」4名、「普通」14名、「どちらかと言えば低い」8名、「低い」1名、「無回答」1名であり、「普通」の回答が多かった。

「高いと評価されている理由」では6名が記載し、その内容は下記の通りであった。

(院内で実施している) アンケートに、よい評価がかかっているため。再来を希望される方も多い。
女性のみなので相談しやすいと言われている。科にこだわらなくて、広く全体をみてもらえる。
心身両面から、ある程度時間をかけて診療しており、特徴的であることではないかと思う。
他科より依頼の患者様も多い。
乳腺外科、婦人科は男性医師が当院では担当しているが、更年期および閉経後の女性はいろんな問題をかかえている(社会的に)場合もある。また女性特有の疾病だけではなく成人病も多くなる年齢にあるが、内科、婦人科において更年期と片付けられてしまうことが多い。これに対しては、女性外来では1人1人の生活を聞くことにより、その人の問題や疾病への対策(治療)を他科と協力し行っている。
不定愁訴の40~50代の女性の診察依頼が多く、受診後は患者様の満足度も高く、ひき続き受診される患者様が多いです。

(5) 女性専用外来に従事していることの満足度

女性専用外来に従事していることの満足度では、「満足」5名、「どちらかと言えば満足」8名、「どちらかと言えば不満」4名、「不満」1名、「どちらとも言えない」12名であり、「満足・どちらかと言えば満足」の合計数は「どちらとも言えない」と同数であった。

「どちらかと言えば不満・不満」の回答者のうち4名が、「その理由」を記載しており、内容は以下の通りであった。

もっと患者さんとの関わりがもてたらと思う。
隔週1回の診察、1回30分の診療(心療内科かと思うような)必ずしも当センターに必要なのが疑問。産婦人科のある病院等に依頼した方が患者も抵抗なく受診し、相談できたのではないかと思う。
事務的な対応の連続のため、やりがいを感じない。魅力がない。
不定愁訴の訴えに対して、心療内科を勧めたい位ですが、女性外来という科なので受診しやすいと思いますが、ストレスを訴える患者さんが多いと思います。

(6) 勤務場所を選択するときの重要度

11項目について勤務場所を選択する際の重要度について質問した。「重要」の回答が多かったのは、「一緒に働く人との相性」20名、「患者からの評価」17名、「チームの質の高さ」「勤務時間」各16名であった。一方、「社会からの評価」「自分に与えられる権限の水準」「医学会からの評価」は比較的重要度が低かった。

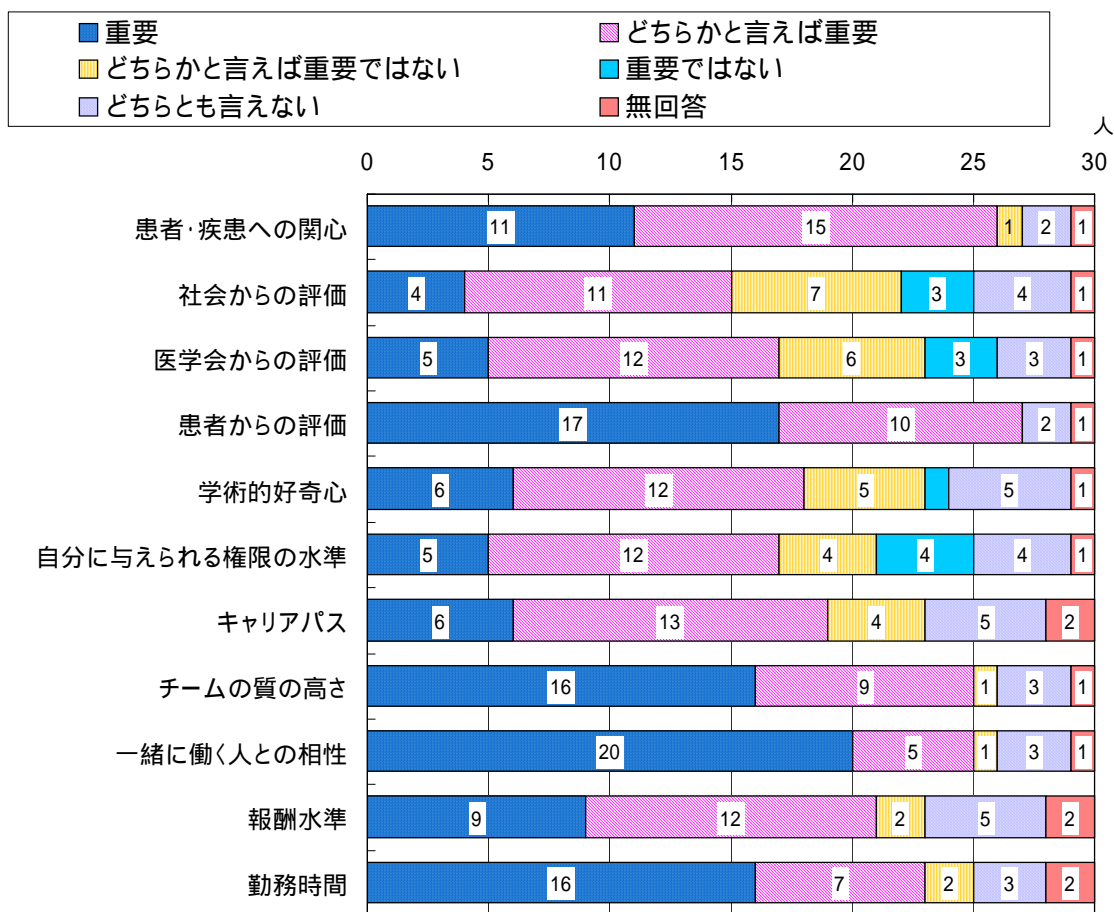


図 3-3 勤務場所を選択する時の選択項目別の重要度

(7) 勤務場所選択項目に対する、現在の女性専用外来での満足度

診療科を選択する項目と同じ項目について、現在の女性専用外来部門での満足度について質問した。「満足」の回答が多かったのは、「一緒に働く人との相性」「チームの質の高さ」各 10 名、「患者からの評価」「学術的好奇心」各 5 名であった。「どちらかと言えば満足」の回答が多いのは、「患者からの評価」15 名、「患者・疾患への関心」13 名、「自分に与えられる権限の水準」「キャリアパス」各 12 名であった。満足度が低い（どちらかと言えば不満、不満の人数が多い）のは「患者・疾患への関心」「報酬水準」各 10 名、「社会からの評価」9 名、「自分に与えられる権限の水準」「勤務水準」「医学会からの評価」各 8 名であった。

医師では、チームの質の高さや一緒に働く人との相性はかなり満足をしていたが、看護職員のほうが満足度が低かった。

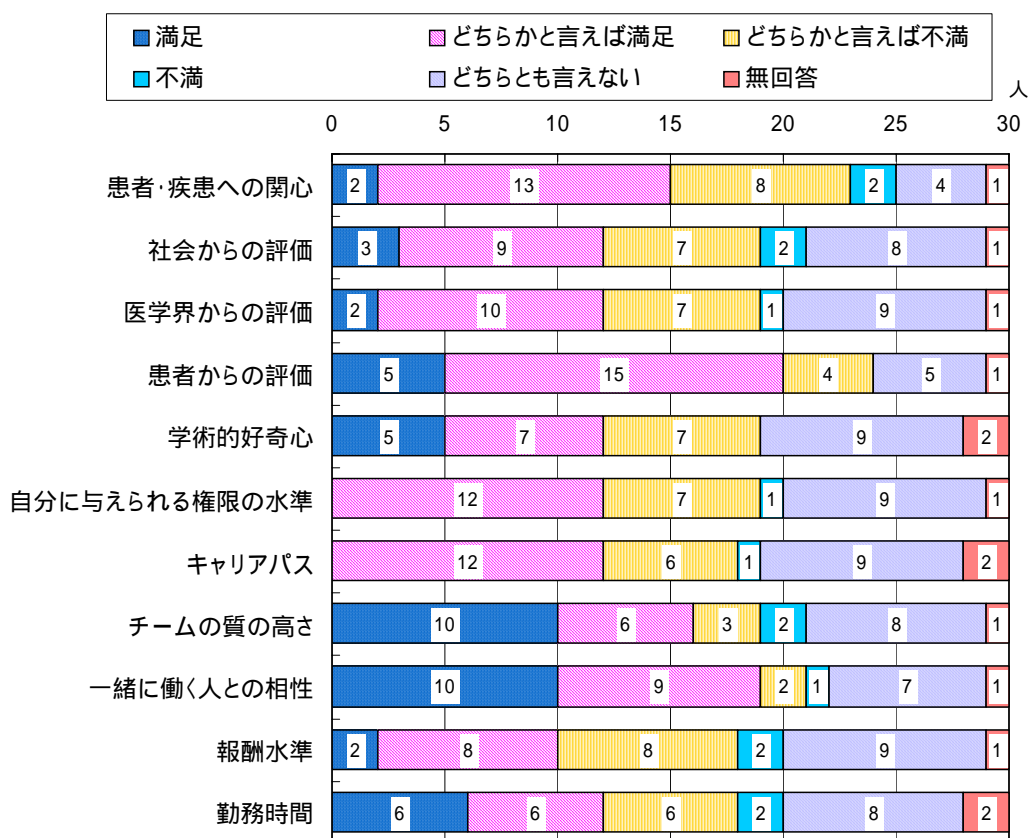


図3-4 勤務場所を選択する時の選択項目別の、現在の満足度

(8) 勤務場所を選択する時の重要度と現在の満足度

勤務場所を選択する時に検討する項目について、「重要」「どちらかと言えば重要」と回答した者と、各項目について現在の満足度が「満足」「どちらかと言えば満足」と回答した者の数を比較した。「重要・どちらかと言えば重要」の選択者数よりも「満足・どちらかと言えば満足」の人数が全ての項目で下回り、重要と考えている要因に対する満足度が低いことが考えられた。

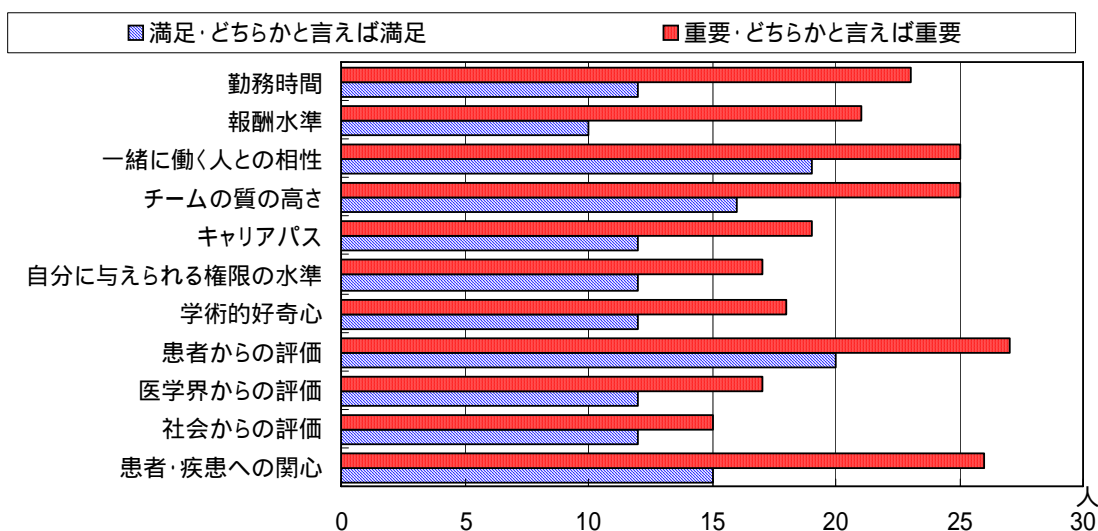


図3-5 勤務場所を選択する時の選択項目別の重要度と現在の満足度の状況

(9) 女性専用外来を向上するための課題

女性専用外来を向上するための課題が「ある」と回答したのは26名、「なし」は2名、無回答が2名だった。課題の内訳(複数回答)は、医療従事者の増員17名、医師を含む医療従事者の専門性の向上20名、他の診療科との連携18名、機器の充実2名、その他3名であった。その他の内容は下記の通りであった。

女性専用外来の医師が常勤でない為か他の医師との交流がない。連携しているが数少なく、まだ互いにコミュニケーションの場もない状態。
心療内科を併設している施設があれば良いと思う。
当センターに必要性あるのか疑問

また、選んだ課題の中で最も優先されるものは、医療従事者の増員8名、医師を含む医療従事者の専門性の向上11名、他の診療科との連携5名、その他1名であり、医師と同様に医療従事者の増員や専門性の向上が優先課題となっていた。

(10) 女性専用外来に今後も従事する意欲

今後も女性専用外来に従事する意欲については、「従事したい」8名、「どちらかと言えば従事したい」9名、「どちらかと言えば従事したくない」5名、「従事したくない」0名、「どちらでもよい」8名であり、過半数は従事に対して前向きな意欲を持っていた。

「どちらかと言えば従事したくない」と回答した者の理由は下記の通りであり、女性専用外来担当医師の専門分野と患者の需要が合わない点に不満や疑問を感じていることが推察された。

事務的な対応の連続のため、やりがいを感じない。魅力がない。
女性外来のキャパが明確でないため、診療内科的なもの、更年期が多いこと、他の科とどのように連携していくのかが不明。
女性専門外来でなくてもよい場合がほとんどである。当病院ではあまり必要性を感じない。婦人科のある病院に女性専門外来がある方がよいと思う。
心療内科のような内容、家のグチ、嫁のグチ、夫のグチを言いに来ているような診察です。又、電話受けは看護師ですが、産婦人科・女性の乳房専門医もいないのに、当センターに必要なのか疑問。

(11) 女性専用外来に対して、今後、県としてどのような取組みをすることが望ましいか

今後の県の取組みに対しては、20名より意見が出された。

カウンセラー等、ストレス社会に対する対策
このような外来は、継続していただきたい。
もっと数を増やす(施設数や医師数)
医師、スタッフの確保
医師は他の科と兼任していることが多いので、できれば女性専用外来専門がよいと思う。他の科に振り分けでも結局そこがあわないのかまたすぐもどって来てしまうので、需要にあってない気がする。
県として、女性の産婦人科医や乳腺外来を持つ医療施設に依頼したらいかがでしょうか。赤字で経営も危うい県立病院で優雅に診療している意味があるのでしょうか。コストは30分に見合うだけ多くとれるの？
県内女性専用外来の数をもう少し増やす。

現在、内科医と放射線医の2人で診療しており、もっと女性外来に関心をもって診療できる女医さんを増やしてほしい。
更年期後の女性の体の変化や悩みについて、(県民に知識を)広める。男性にも理解してもらえるような働きかけ。
週1回の女性外来では専用としての役割は出来ていない。毎日、午前中(土・日を除く)だけでも診療できるように人員増をして女性特有の疾病を女性が診察出来るようにしてほしい。
女性はもちろん専用外来があることで救われると思いますが、男性から男性外来はないですかと言われると女性だけが優遇されているのかといった思いはあります。
女性外来の従事者を専門職とする人を育てる。
女性外来を開いている施設の情報がわかりやすくなればいい。
女性外来を開設された病院では医師の充実確保に努め、継続をお願いしたい。(当該病院の努力のみではなく...県として。)
女性専用外来のキャパを明確にしていき、他科との連携をスムーズにできるよう組んでいく必要あり。なぜ(患者が)女性医師を好んで来院するのかを考えると、フォローしていく医師も女性で組んでいくチームを作る必要あり。
女性専用外来専門医の不足により診察予約が長期に渡っています。医師の育成と医師同士が各施設で定期的に外来診療が実施できると効果的だと思います。(例えば予定外来日以外、他の施設で外来を行うなど...)
他院の情報、取り組んでいる事など知りたい。良いところは学びたいので。
他病院での取組ももっと必要だと思います。
婦人科・心療内科のある病院に女性専用外来をおいてはどうか。ゆっくり話を聞くことを前提としている外来はよいと思う。男性専門外来もあってもよいと思う。
本来の意味の性差医療についてのエビデンスの集約結果を勉強会等で知らせてほしい。

(12) 健康や医療に関する千葉県の政策についての意見・感想

12名より意見が出された。

マンパワーが不足して、質の確保が困難な状況になっています。かなり危機感があります。長期的なビジョンをしめして、そこにきちんとむかえるよう人の確保や人材育成してほしい。
頑張ってもらいたい。
県立病院だからこそできる医療だと思います。女性外来は患者の人数も増え、拡充が求められるとは思いますが、カウンセリングの技術も必要だと思います。
公共病院の医師、看護師の人員確保に努めていただきたい。現場は、休憩時間もスムーズに取れていない状況です。
子供と女性に優しい医療であってほしい。
女性の健康に関する取り組みは今後もずっと続けて欲しい。
女性外来の方向性が見えにくい。世間の評価もわかりにくい。
小児医療の充実、子育て支援(子育てを女性同志で協力しあう環境作り、中・高齢者の協力)、出産しても働ける環境作りが女性の悩みを減らせると思う。子供が少ない今、産み育てる支援こそが超高齢化社会では必要と思う。
知事のおかげで、女性の健康について支援活動が活発になっていると思います。これからも今以上の発展を期待しています。

働き盛りの年代の人達がメンタルヘルスに問題をかかえて受診されることが多いが、皆一様に心療内科をとの要望です。男性も精神科の中にたとえば男性外来のような受診窓口があれば良いのかなあと思います。

茂原で交通事故に合い骨折と脳挫傷があった場合どこに運ばれるのですか？知っていますか？当センターでは、整外は診察できません。鴨川まで数時間かかって運ばれる（という）現状のようです。重度の後遺症又は死を覚悟して運転している日々です。同じ千葉県に住んで命の重さに差があるのはいかがなものでしょうか。女性外来に力を入れて男女差別に重点を置くよりも、人ひとりの命の重さをもっと考えてほしい。県の病院でなければできないことなので

老人医療に力を入れていると思いますがまだまだ女性、小児に関する医療従事者が少ないこと。女性の立場、職業を持つ女性の為の医療、福祉も含めて押し進めて欲しい。

4. 病院長への調査

(1) 回答のあった病院の背景

県立病院3病院及び県が補助金を交付している7病院に独自に女性専用外来を設置している8病院を加えた18病院の病院長に調査票を送付し、県立病院及び補助金交付病院のうち9病院、独自設置病院のうち4病院から回答を得た。

女性専用外来を開設した年次は、県立病院及び補助金交付病院は平成13年から15年であったが、独自開設病院は平成15年から17年であった。

表4-1 女性専用外来開設年次

区 分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
県立病院及び補助金交付病院	1	4	4	0	0
独自開設病院	0	0	2	1	1

(2) 女性専用外来の受診者数

受診者数に関しては県立病院及び補助金交付病院では「予想より多い」2病院、「予想通り」7病院であったが、独自開設病院では「予想より多い」との回答はなく、2病院が「予想より少ない」と回答していた。

表4-2 受診者数の見込みと現実

区 分	予想より多い	予想通り	予想より少ない
県立病院及び補助金交付病院	2	7	0
独自開設病院	0	2	2

(3) 女性専用外来部門の資質

女性専用外来部門の資質は県立病院及び補助金交付病院では「高い・どちらかと言えば高い」が5病院、「普通」3病院、「どちらかと言えば低い」1病院と回答がばらついてきたが、独自開設病院は全て「普通」と回答していた。

表4-3 女性専用外来部門の資質

区 分	どちらかと言えば高い		普通	どちらかと言えば低い	
	高い	低い		高い	低い
県立病院及び補助金交付病院	3	2	3	1	0
独自開設病院	0	0	4	0	0

「高い・どちらかと言えば高い」と回答した病院から、「その理由」として以下の回答があった。

女性外来(内科系)として総合内科、内分泌代謝内科および東洋医学の統合の上に立つ新たな医療サービスを提供する人材のチームが育ちつつある点が高く評価できる。
婦人科医、内科医、精神科医(心療内科)、外科医、東洋医学等が一体となり連携を取り診療に当たっており、単なる振り分け外来ではない。
更年期疾患等、女性特有の疾病に対応できる女性医師のため心の内を相談し易い環境がある。
担当医師の評判が良い。
産婦人科と心療内科を専門にしている医師が担当しているから

(4) 女性専用外来を存続するための課題

女性専用外来の課題の有無については、全ての病院が「課題がある」と回答していた。その内容を県立病院及び補助金交付病院と独自開設病院に分けてみると、県立病院及び補助金交付病院では「女性医師の確保」が8病院と最も多く、次いで「収益性の向上」6病院、「医師を含む医療従事者の専門性の向上」5病院であった。独自開設病院では、「収益性の向上」「他の診療科との連携」を4病院全てが選択していた。また、県立病院及び補助金交付病院では「患者数の確保」を挙げた病院は9病院中2病院であったが、独自開設病院では4病院中2病院が「課題」としていた。

課題の「その他」の内容は、研修プログラムが整備途中である、特に保険上の裏付けがないこと、女性専用外来に対応できる幅広い能力を持った女性医師の育成、診療内容の充実を図るであった。

表 4-4 女性専用外来を存続するための課題の内容

区 分	患者数の確保	女性医師の確保	医療従事者の増員	医師を含む医療従事者の専門性の向上	他の診療科との連携	機器の充実	収益性の向上	その他
県立病院及び補助金交付病院	2	8	2	5	1	1	6	3
独自開設病院	2	2	1	2	4	1	4	1

課題の内容の中で最も優先されるものについては、県立病院及び補助金交付病院では「女性医師の確保」が最も多く、次いで「医師を含む医療従事者の専門性の向上」であったが、独自開設病院では病院により最優先の課題は異なっていた。

表 4-5 女性専用外来を存続するための最優先課題

区 分	患者数の確保	女性医師の確保	医療従事者の増員	医師を含む医療従事者の専門性の向上	他の診療科との連携	機器の充実	収益性の向上	その他
県立病院及び補助金交付病院	0	6	0	2	0	0	0	1
独自開設病院	0	1	1	0	1	0	1	0

(5) 女性専用外来を存続する必要性

存続の必要性については、県立病院及び補助金交付病院では9病院中7病院が「必要である」と回答し、2病院が「どちらともいえない」と回答していた。独自開設病院では、「必要である」2病院、「どちらともいえない」1病院、「無回答」1病院であった。

「必要である」と回答した病院から出された、「今後更に女性専用外来を充実していく内容」については下記の通りであった。

人材育成のプログラム作りと実践 治療マニュアルによる標準化 学会専門医制度と連動したレジデント制度の確立
今後の女性医師の増加に伴い、それぞれの女性医師の専門性を基礎とした様々な女性患者さまのニーズに応えられる医師教育プログラムを構築していく予定。
医師の増員、予約待ち患者減少への対応が課題となっている。
予約患者の待ち日数は平均すると1ヶ月位であり、女性専用外来を必要とする患者の需要は高いと考えております。しかしながら、一人の患者に約30分をかけた診察していることから、診療報酬の面で採算に合わず、この制度を続けて行くなれば、県補助金等の増額が必要である。

患者の多くは産婦人科領域の心身症が多いため、この分野に秀でた人材を教育する必要がある。また、DX A等機器の整備、充実が望まれる。
外来診療ワクを広げられれば、思春期への対応や、カウンセリングのケースも増加する。
女性医師の確保と専門性の向上　ともすれば再診患者が多く、新患をみることが出来ない場合が多い。
他科医師との連携。専属ナースの育成。カウンセラーの常設。定期的な勉強会・研修会の開催。
完全電話予約制を導入しており、現在、3か月程先の予約となっているため、市民の要望に対処できていない。水曜日午前からのみの診療であるため、この増を図りたい。

また、「どちらともいえない」「無回答」の病院からは以下の意見が出された。

女性医師の確保、女性病棟・女性外来専用フロアの確保
受診をためらっていた女性の方への早期受診を促したと思っておりますが。現状は主にカウンセリング・専門科への紹介ですが、さらに女性特有の検診へも展開していきたい。
開設後、実質的にはまだ1年に満たない状況です。したがって未だ、健診機関にとって必要外来なのか十分な検証がされておりませんので将来展望を見極めつつ設置について更に検討してまいりたいと思います。

(6) 女性専用外来に対して、今後、県としてどのような取り組みをすることが望ましいか
県の取り組みについては、以下の要望が出された。

【県立病院及び補助金交付病院】

平成13年「健康ちば21」で明らかにされた千葉県の女性の健康と医療にかかわる4つの課題が、どのような方策(施策)により、どのように改善されたかの客観的な評価が不可欠である。平成18年時点での課題を再点検することも併せて必要である。
1. 人材の育成 2. 女性専用医療の診療体系の確立(専門性を高めること) 3. 診療報酬を得るための保険の改定要求
経済的支援
ジェンダー医療の充実及び医師を含めたスタッフの育成に対する助成。
女性専用クリニックの県民への広報と保健所相談活動の連携強化による女性専用外来の充実を推進してほしい。
病院経営が非常に厳しいなか、女性専用外来を継続していくためには、県の取り組みとして、県補助金の増額が必要不可欠です。
現状では崩壊している外来も少なくないと聞えます。早急に現状を把握して質の高い医療を提供できる体制作りが望まれます。
女性外来の出来る、漢方療法に詳しい医師の育成と確保。収益性は望みにくい為政策医療としての助成金を望みます。

【独自開設病院】

千葉県内の「女性専用外来」への取り組み状況等を県民にさらに啓発・推進する。
東葛北部には類似の医療機関が少なく、毎年、受診者は増加してきておりニーズはあると思われま。当院は地域の救患も一手に担う基幹病院であり、院内には、他に外科の女性医師・小児科の女医が常勤であります。経済的なバックアップがあれば、充実した女性外来が展開できると思われま。一般病院ではありますが、県立病院に準じた支援がいただければ、地域医療に大きな貢献が可能と考えま。

女性特有のさまざまなことについてその窓口を設けることは大変良いことであるしこのことが時代の要請でもあると思います。したがって窓口を設ける機関に過大な負担がかからない方策が必要と思います。事業を縮小させないためにも、民間医療機関に対しての補助金等の金銭的なバックアップを行っていくことが望ましい。

(7) 女性専用外来の運営状況

診療日数を開設年次別にみると、初年度に比べて1~2年次は大きく増加し、その後も増加を続ける傾向が見られた。平成16年度の診療日数は13病院のうち、隔週に1日程度が2病院、週1日程度が6病院、週2日程度が4病院、週3日以上が1病院であった。

表4-6 開設からの年次別、平均診療日数

区分		開設初年度	1年~2年	2年~3年	3年~4年
県立病院及び補助金交付病院	報告数	8	8	6(5)	1
	平均(日)	28.6	56.8	95.2(60.3)	252.0
	標準偏差	13.6	21.0	75.5(23.8)	
独自開設病院	報告数	4	2	2	0
	平均(日)	28.5	35.0	36.0	
	標準偏差	19.6	18.4	14.1	

* 県立病院及び補助金交付病院の()は診療日が最も多い1病院を除いた値

患者数は病院間の差が大きいが、総数で見ると設置病院数が増えるにしたがい増加していた。患者数は初診と再診をあわせて年間100人未満が1病院、100~199人が2病院、200~299人が3病院、300~499病院が3病院、500~999人が3病院、1000人以上が1病院であった。

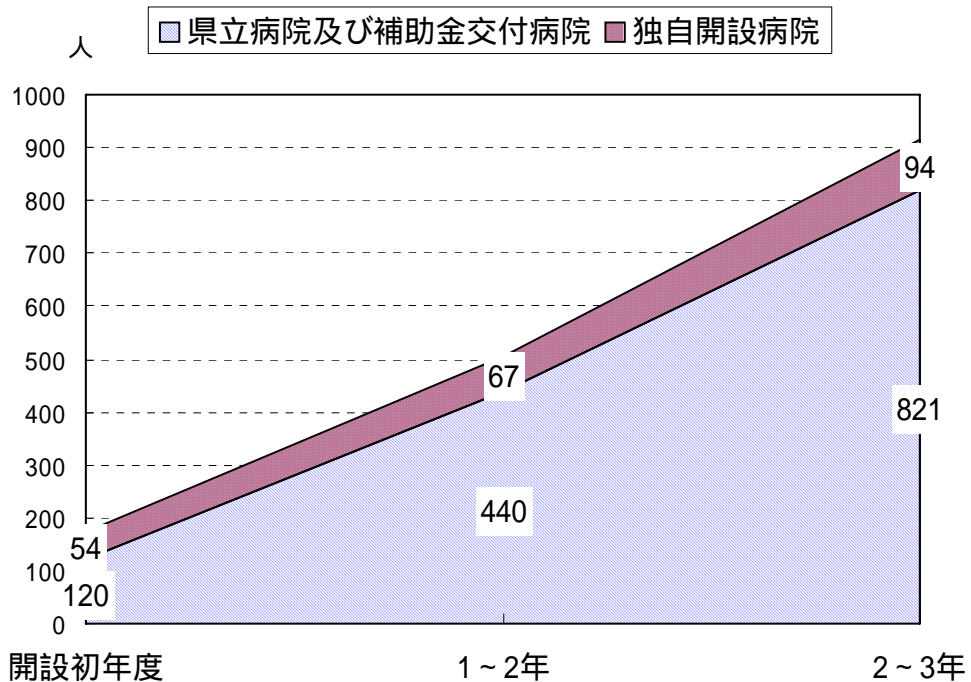


図4-1 開設後の年数別、平均患者数

表 4-7 開設後の年数別、平均患者数

区 分		開設初年度	1年～2年	2年～3年	3年～4年
県立病院及び補助金交付病院	報告数	8	8	6	1
	平均(人)	28.6	56.8	95.2	252.0
	標準偏差	13.6	21.0	75.5	
独自開設病院	報告数	4	2	2	0
	平均(人)	28.5	35	36	
	標準偏差	19.6	18.4	14.1	

開設後3年以上を経ている県立病院及び補助金交付病院の初診、最新の患者数の平均値は、平成15年度が初診134名、再診454名、平成16年度は初診171名、再診615名であり、1年間に初診で約40名、再診では160名増加していた。

表 4-8 患者数の推移

区 分		初診患者数				再診患者数			
		H13	H14	H15	H16	H13	H14	H15	H16
県立病院及び 補助金交付病院	人数	143	855	1202	1541	215	1855	4090	5539
	報告数	1	6	9	9	1	6	9	9
独自開設病院	人数	0	49	86	210	0	65	134	340
	報告数	0	2	2	4	0	2	2	4

診療報酬は病院により大きく異なっていた。県立病院及び補助金交付病院の平成16年度の平均は52万点であり、患者平均総数(786人)で割ると平均668点であった。また、全体でみると、平成16年度の診療報酬は年に10万点未満が2病院、10万～50万点が5病院、50万点～100万点が3病院、100万点以上が1病院であった。

表 4-9 開設後の年数別、平均診療報酬得点

区 分		H13	H14	H15	H16
県立病院及び 補助金交付病院	報告数	0	5	9	9
	平均(点)		202162	394883	524676
	標準偏差		183356	450382	643684
独自開設病院	報告数	0	1	1	2
	平均(点)		5311	23257	383008
	標準偏差				521197

医師、看護師について専任、兼務別および常勤、非常勤の別を尋ねた。平成16年度の状況では専任、兼任を併せ、医師が1人が7病院、2人が4病院、5人が2病院であった。医師は専任の常勤が3病院、専任の非常勤が9病院、兼務の常勤4病院、兼務の非常勤が1病院であった。看護師は専任常勤が1病院、兼務常勤が10病院であった。

平成15年度と16年度で医師数、看護師数を比較すると、平成16年度に医師が増員となったのは1病院(2名)であり、3病院で医師数が1名減少していた。看護職については1病院で1名の減員となっていた。

(8) マンモグラフィと骨密度測定装置

マンモグラフィ X 線撮影装置の使用状況は、県立病院及び補助金交付病院と独自開設病院では大きく異なっていた。県立病院及び補助金交付病院では女性専用外来の患者にも使用していることが報告されていたが、独自開設病院では女性専用外来患者への使用報告はなかった。

表 4-10 マンモグラフィ X 線装置の使用状況

区 分		検査総数				女性専用外来			
		H13	H14	H15	H16	H13	H14	H15	H16
県立病院及び 補助金交付病院	件数	4425	7738	12250	13179	0	251	308	332
	報告数	3	6	7	7	0	6	7	7
独自開設病院	件数	0	973	1952	2342	0	0	0	0
	報告数	0	1	3	4	0	1	1	2

骨密度測定装置の使用状況についてもマンモグラフィ X 線装置と同様であり、独自開設病院では女性専用外来患者への使用報告が少なかった。

表 4-11 骨密度測定装置の使用状況

区 分		検査総数				女性専用外来			
		H13	H14	H15	H16	H13	H14	H15	H16
県立病院及び 補助金交付病院	件数	1407	3166	4456	5070	0	247	367	395
	報告数	1	4	7	7	0	4	7	6
独自開設病院	件数	0	1491	2171	2575	0	0	0	10
	報告数	0	1	2	2	0	0	0	1

(9) 健康や医療に関する千葉県の政策についての意見・感想

各病院長より出された意見は以下の通りであった。

ヘルスリサーチの視点と手法の導入が不可欠で、現状のままでは急激に進む医療提供システムの変革や疾病構造の変化に追いついていけず、早晚、本県の医療は全国最悪となる可能性がある。危機感を持って対応することが不可欠である。
質問が漠然としていて答えようがないが、千葉県の特徴を生かした健康政策とは何かということなら答えられる。3方を海に囲まれ、他県にない穏やかな気候、高い山や大河がなく移動の楽な本県では、健康作りも、自ずと自然に親しみながら行うのが最良と考える。
医療機関の前向きな取り組みに対する規制緩和と、国民に対する情報公開の促進を希望する。
地域連携バスの推進と、地域医療における各病院の機能分化を明確にして医療政策を推進してほしい。
県民にとって最も必要なものは、病気になった時の医療である。しかしながら、県は救急に対する補助金を減らすなど、医療に対する政策が徐々に後退している。医療を充実させるためにも、各種医療に係る補助金の増額をお願いしたい。
より地域に密着した広報活動が必要であると考えます。「健康ちば21」の思想が末端まで届いていないように思われます
医療事務の効率化を図るため、公費負担(特定疾患等)の受給券の交付期間の短縮に努めていただきたい。

5 考察

(1) 女性専用外来の周知

本調査の結果、女性専用外来は10歳代から60歳以上までの幅広い年代層が受診をしているが、その中心は40歳、50歳代であること、受診者の多くは更年期症状や精神科系の受診希望者またはどの診療科にかかったら良いかわからない者であることが明らかになった。

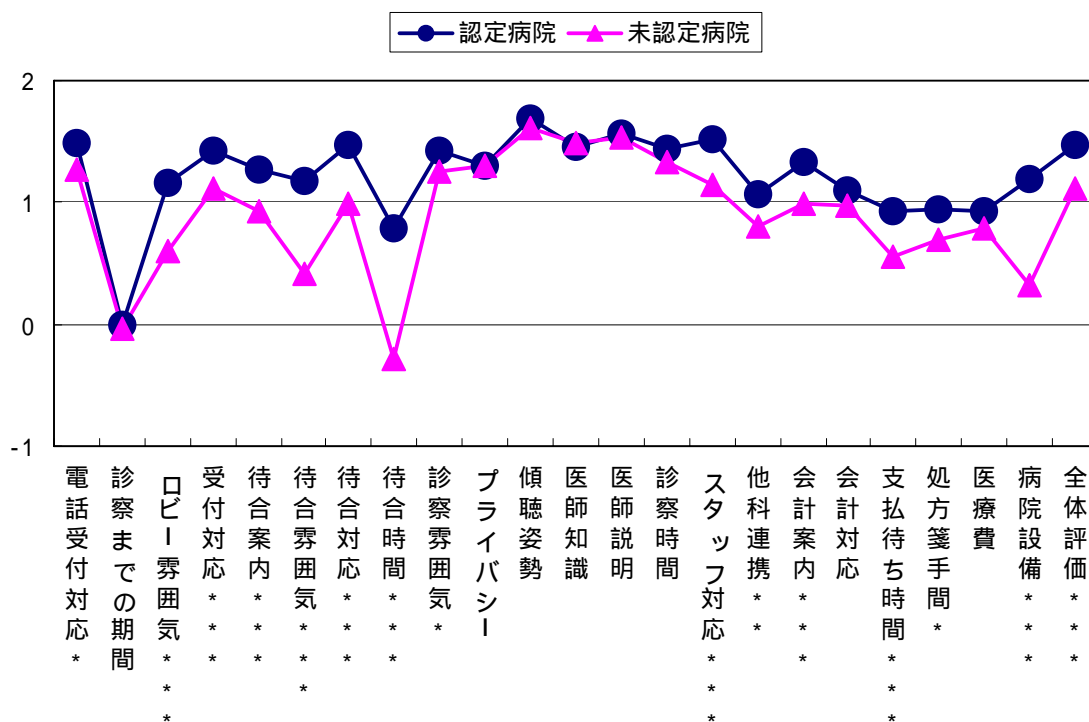
女性専用外来を知ったのは、マスコミに良く取り上げられている1病院を除くと知人や友人からの紹介や同じ医療機関の他科からの紹介、インターネットが多く、口コミや女性専用外来を設置している各病院の広報や院内診療科の連携によるところが大きかった。県では女性の健康支援事業として健康福祉センターに「女性のための健康相談窓口」を開設し、パンフレットでは女性専用外来の設置されている医療機関名の紹介も行っているが、健康福祉センターやリーフレットにより女性専用外来を知ったという回答は5%未満であった。このことは、リーフレット等を県で作成して県民に配布するだけでは必要な人に必要な情報が届いていないことを示唆していた。今後、県として女性専用外来の周知を図っていくためには、医療機関との連携による積極的な広報の展開策を検討していく必要があると考えられた。

(2) 受診者満足度の向上

87%の受診者は女性専用外来を受診したことについて「満足・やや満足」と回答し、再受診の意向も高かった。全体の7割が当該女性専用外来を受診する前に他の医療機関や他の診療科を受診していたこと、初診者の約7割、再診者の約8割が「受診により問題が解決した」と回答していたことを考え併せると、総合診療である女性専用外来を受診し「他で診断がつかなかったが、女性専用外来で何かしらの診断がついた」という経験は、受診した診療科や担当医への信頼を高め、「次回も診てほしい」という気持ちにつながっていると考えられた。

満足度に関連する要因を分析した結果、初診時の女性専用外来全体の満足度には、医師の知識や経験、診察時間という医師の問題と、病院の施設・設備、プライバシー保護、診察室の雰囲気という施設側の問題が関与していることが明らかになった。通院患者の満足度を規定する要因は「医師の技術・姿勢」「医師の説明・コミュニケーション力」「看護師の技術・態度」「院内の環境」「窓口業務」「通院の利便性」であり、このうち「医師の技術・姿勢」「医師の説明・コミュニケーション力」の影響が大きいと報告されている（NTT データシステム化学研究所ライフサイエンス推進室：2004年「患者の主体性と医療への満足度についての調査報告」）。したがって、医師や施設・設備が満足度に関与していたという結果は、女性専用外来の受診者に限定した結果ではないと考えられた。

近年、日本医療機能評価機構による病院機能評価を受け、一定水準以上の医療機関であるという認定を受ける病院も増加している。日本医療機能評価機構による病院機能評価の調査項目には「患者による医療機関満足度調査の実施」が含まれているため、認定医療機関では「患者満足度」の向上に日々、努めていることが予測される。そこで、今回の対象となった医療機関について病院機能評価の認定を受けているかを調べ、認定の有無と各項目における受診者の満足度を比較した。図に示すように、医師の診察に係る要因以外はほとんど全ての項目で認定病院の方が非認定病院よりも満足度得点が有意に高かった。このことは、医師に関する要因の満足度の向上は医師の個人努力によるところが大きいが、その他の要因に関しては病院が組織として取り組むことにより向上することを示唆していた。



項目の下の*は有意差を示す。* : p<0.05、** : p<0.01、*** : p <0.001

図 病院機能評価認定の有無と各項目の受診者満足度得点

(3) 担当医師における女性専用外来の課題

担当医師は女性専用外来に従事することに対して満足し、今後も従事することに肯定的な者が多かったが、「医師を含む医療従事者の専門性の向上」が課題であると大部分(12名中11名)が回答しており、受診者の満足度を決定する要因として「医師の経験や知識量」が重要な点とする回答と一致した。医師の大部分は女性専用外来に関連する学会や研究会に参加して日々、研鑽を積んでいたが、日々の診療で様々な患者を診る中で、「もっと勉強したい・専門性を高めたい」と感じていることが伺われた。医師が診療科を選択する時には、「患者・疾患への関心」「患者からの評価」「学術的好奇心」が重要な要素であったが、現在の診療の中では重要とする人数より満足とする人数は少なく、特に「患者・疾患への関心」「学術的好奇心」が重要とする者と満足とする者の選択者数の差が大きかった。これは、非常勤医師が多く、日常診療中心の勤務であるために、研究や研修の時間が十分に取れないという現状を反映している結果とも考えられた。特に非常勤という勤務形態では、臨床研究の実施や研修の参加に病院からの金銭的な支援等が受けにくいことも考えられる。

専門性の向上以外の重要な課題として、医療従事者の増員も挙げられていた。自分の専門領域を持ちつつ、診療科を問わない女性専用外来における診察も行うことに加え、大部分の病院では担当医師は1名であり、たとえ週1回の診療であっても、医師の心身の負担はかなり大きいことが予測される。自由記載の中に「自分が追い詰められる」「主科が多忙」という意見がみられたが、医師がよりよい診療を続けるためにも、女性専用外来のあり方を病院全体として考えていくことが必要と思われる。

(4) 担当看護職における女性専用外来の課題

看護職員の大部分は女性専用外来の他に担当部門を持っている兼務者であった。診療科の選択に関する項目の重要度に比べて、女性専用外来部門を担当することで得られる満足度は全体に低かった。その理由として、兼務であるため女性専用外来部門に十分にエネルギーを注げない、専門科の外来と女性専用外来の住み分けに疑問を感じるなどの現状が影響していると、自由記載の内容などから考えられた。

課題では、「医療従事者の増員」「医療従事者の専門性の向上」が挙げられており、医師と同様であった。自由記載の内容では医師の増員を求める声が多かったが、担当看護職が1名の場合は受診者の対応にかなり忙しいことが推察され、看護職の増員も必要と感じていると思われた。「医療従事者の専門性の向上」には学会や研究会等への参加が必要と考えられるが、看護職員の学会や研究会への参加状況を見ると、「勉強したい」「専門性を高めたい」と思っているが、なかなか外に出て研修等を受ける機会は得られないことが推察された。看護職員の専門性向上には、院内での研究会・研修会など、看護職員が参加しやすい形態を考えていく必要があると思われる。

(5) 病院にとっての女性専用外来

病院長の調査からは、女性専用外来の運営を継続していく上では「女性医師の確保」「医師を含む医療従事者の専門性の向上」「収益性の向上」が大きな課題であることが明らかになった。受診者の満足度には医師の要因が大きく寄与していることから、医師の確保およびその質の向上は女性専用外来の運営上の戦略としても重要なことと考えられる。病院長の回答の中にも、教育・研修プログラムを整備していくということが書かれていた。女性専用外来の受診者の特性は病院により異なる面もあるが、千葉県的女性専用外来は全国に先駆けて開設されており、開設後数年を経ている医療機関も多いため、共通するコア部分に関しては関係病院で連携をして女性専用外来担当医師やスタッフの教育・研修プログラムを開発していくことも重要であろう。

収益性に関しては、初診が一人30分ということや、一人当たりの診療報酬額から考えると収益性が高いとは言い難い。また、病院によっては「患者数の確保」が課題というところもあり、患者のニーズに対応しつつ収益性を確保していくための方策の検討が急務となっている。限られた医療スタッフでの対応を考えると、他診療科との連携はもちろん、地域の健康相談機関（健康福祉センター等）とのネットワークの推進や、ホームページを活用した効果的な広報など工夫が期待されるところである。

(6) 政策としての女性専用外来

千葉県が政策として女性専用外来に取り組むことについては、受診者、医療機関ともに「必要」と感じている。しかし、今後の継続について「要検討」と回答した独自開設病院もあり、県が女性専用外来の普及と質の向上に政策としてどのように取り組むかは、補助金のあり方も含めて今後の検討課題である。

なお、今回の調査対象となった18病院以外にも、女性専用外来を実施している医療機関は県内に多数存在する。400人を超える待機者数や増設を望む女性のニーズに応えるためにも、女性専用外来開設医療機関や相談機関の把握と適切な情報提供が不可欠である。

女性と医療

女性と医療

～調査を振り返って～

千葉県衛生研究所長・千葉県立東金病院副院長 天野 恵子

〈背景〉

千葉県は、平成14年2月に健康日本21の都道府県計画として「健康ちば21」を公表しました。その作成に当たり、データを性別や年齢別に詳細に分析した結果、千葉県の女性を取り巻く健康課題が明らかになりました。

例えば、

65歳未満の女性の死亡の半数ががんであるのに対して、65歳以上では心臓病・脳卒中を合わせた動脈硬化性疾患が多くなるなど、閉経を境に女性の疾病構造が大きく変わること、若年層を襲うがんについては、千葉県の乳がんによる死亡率は全国的にみても非常に高いこと、血管の老化・動脈硬化症につながる高コレステロール血症が閉経後に急増することなどです。

この計画の策定を通じて、女性と男性では、思春期以降、女性ホルモンないしは男性ホルモンの影響を受け、両性の罹患する疾病の発症、進展に大きな差が存在していること、対応すべき健康課題が異なることが明白となったのです。

〈女性専用外来の成り立ち〉

平成13年9月、知事の明確なリーダーシップのもとに、性差を踏まえた保健医療の実践の場として、千葉県立東金病院に自治体立病院としては全国で初めての女性専用外来が設置されました。

その後も現在までに、女性専用外来設置促進を支援する補助制度を活用する形で、県立および公立・民間病院をあわせて10病院に女性専用外来が設置されました。

更に、平成15年4月、県庁健康福祉部健康増進課（現健康づくり支援課）に、女性の健康支援策を推進するための「女性の健康支援室」が設置されました。

県が行う女性の健康支援に関する施策は、従来やり方では、母子保健や思春期対策は児童家庭課、女性専用外来は県立病院課および医療整備課、ドメスティック・バイオレンスは男女共同参画課と、複数の課が分担して対応するようになっていましたが、平成15年以降は、健康増進課女性の健康支援室が核となって、各課が共通認識のもとに女性の健康づくりを進めてきました。

健康増進課女性の健康支援室では、女性専用外来の全県的展開、健康福祉センター（保健所）における女性のための健康相談事業、保健医療従事者の研修、根拠に基づいた医療と施策展開のための疫学調査の実施など、様々な千葉県の女性の健康支援を、総合的・体系的に推進するための幅広い事業を展開してきたのです。

〈現状〉

県が支援している女性専用外来の特徴は、開設当初から「初診は30分」「主訴・症状は問わない」「女性医師が担当」「紹介状は不要」を掲げ、傾聴並びに患者への説明に大きな時間を割くなど、女性のニーズを考慮した対応をしていることです。

県立東金病院の女性専用外来には、開設直後から、県内のみならず近県からも予約が集中してお

り、開設以来、全国から多くの女性が受診されました。

平成18年3月末現在の調べでは、県の補助制度を活用して女性専用外来を開設している10病院全体で平成13年9月～平成18年3月末までの延べ受診者数は24,351人で、待機者数は468人です。

既存の女性専用外来だけでは対応しきれない現状に対し、県では平成14年度から県内の各健康福祉センター（保健所）における女性医師による女性の健康相談窓口を、地区医師会の協力により開始しました。

〈これまでの調査〉

新しい事業は、常に、事業は順調に進行しているか？効果は十分に上っているか？今後も継続すべきか？改善すべき課題は何か？などを検証しながら、前へ進むことが必要です。

そこで、千葉県では、性差を踏まえた保健医療推進のための基礎データ収集を目的として、平成14年度に女性の健康に関する疫学調査検討会を設置し、女性の健康支援に関する各種疫学調査研究項目についての検討を重ねてきました。

平成14年に千葉県衛生研究所が、女性専用外来及び保健所における「女性のための健康相談」における健康ニーズに関する調査を実施し、平成16年2月には、千葉県立衛生研究所、千葉県立東金病院、東京大学先端科学技術センターが、今回の女性専用外来評価事業の実態調査に先立ち、厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業としての共同研究「東金病院の女性外来に通院する患者における満足度調査」を実施しました。

この調査の質問項目は、

現在の健康状態	現在通院中かどうか
女性外来の受診内容	女性外来受診で問題は解決したかどうか
女性外来の受診理由	女性外来の満足度
女性外来をまた利用したいか	女性外来に更に必要なサービス

についてです。

また、この調査では、調査への協力を得られた対象者のうち30名には直接インタビューも行いました。

その結果、患者は、性差医療による専門的な治療を求めている群と、必ずしも専門的な性差医療を必要とせず、女性医師との信頼関係を中心に求めている群とに分けられました。

また、後者の満足度は非常に高いのに対し、前者の満足度は医師によりばらつきが大きいことも分かりました。女性専用外来の患者満足度は概ね高いと言えたのですが、「待ち時間が長すぎる」「設備が充実していない」「他科との連携が良くない」「医師の知識量が少ない」「医師の説明が不十分」などの問題点を指摘する声も見られました。

〈新たな課題〉

千葉県が女性の健康支援に取り組み始めて早4年、女性専用外来担当医師の研修の場も立ち上げられ（性差医療情報ネットワーク：<http://www.nahw.org>）健康福祉センターとのネットワークなども徐々に進みつつあります。

しかし、その進展度には地域差が見られ、女性専用外来設立当初から危惧されていたことですが、「女性医師の確保」「女性専用外来の採算性」が課題として出てきております。

開設当時の女性専用外来担当医師に異動があった際に、後任を確保することは今なお困難な状況が続いています。採算性については、いまだ明らかにされていません。

今後、女性の健康支援制度をしっかりと根付かせる為には、

健康福祉センターにおける女性のための健康相談窓口での相談者や女性専用外来の受診者の健康問題は、相談や女性専用外来を受診することにより十分に解決されているのか、生活の質の向上はどの程度図られたのか

医師と保健師・看護師、薬剤師、栄養士、臨床心理士などのコメディカルスタッフ等の専門の垣根を越えた連携体制は構築されているか

健康福祉センターの健康相談窓口と女性専用外来との連携や、女性専用外来と地域の専門医との連携が密に図られ、相談事業から医療へと継続的にケアが可能なシステムの構築がなされているか

また、これらの事業を通して、千葉県の総合的な健康づくりを展開する指標として策定した「健康ちば21」の健康課題の解決のためにどのような効果を果たしているか、などの事業の客観的な評価を行う必要があります。

〈実態の把握〉

今回の調査は、千葉県衛生研究所が県内の女性専用外来受診者（初診・再診）を対象に、担当医師が調査票を直接手渡しする形で行った「女性専用外来受診者満足度調査」、女性専用外来を設置している病院の病院長を対象に、経営者から見た評価と問題点などを調査する「女性専用外来を設置する病院長への調査」、女性専用外来の医療従事者（担当医師ならびに看護職員）を対象に、女性専用外来の評価と今後のあり方を調査する「女性専用外来の医療従事者への調査」から成っています。

この調査を行うことにより、女性専用外来の稼働環境、患者並びに病院長、看護職員、担当医師からの女性専用外来に対する評価や今後の課題が明らかになります。

女性専用外来は、「疾病や臓器だけでなく、社会・経済的な背景も含め、総合的に患者・相談者を診る」医療を目指すものですが、現状や課題を知ることにより、県民が求める医療・保健サービスへの理解が深まり、今後の千葉県の女性専用外来や性差医療の更なる向上や改善が可能になります。

〈今後の女性医療のために〉

千葉県が政策的に支援している女性専用外来（女性医療）への取り組みは、県内外に大きな影響を与え、県内では、各自治体や公立の医療機関において女性の健康支援が進んでいるほか、助産師外来の開設、地区薬剤師会による薬局における健康相談の充実、看護協会によるまちの保健室事業での女性の健康相談の実施など、行政の取り組みに刺激されるかたちで各職能団体の自主的な取り組みが始まり、県医師会にも女性医師部会が立ち上がりました。

全国での女性専用外来の開設も、次々と続いています。

平成15年8月に厚生労働省が公表した「医療提供体制の改革のビジョン」において、当面進めるべき施策の一つに「女性専門外来を設置し、更に、女性の健康問題に係わる調査研究などを推進し、女性の患者の視点を尊重しながら地域における必要な医療が充実される体制の確保に取り組む」という一項目が明記されました。

千葉県の女性医療への取り組みが、性差に配慮した一人ひとりのオーダーメイド医療の提供につながることを願っております。

調查票

女性専用外来受診者満足度調査

この調査は、「女性専用外来」を受診された患者さまの満足度等についておたずねし、女性専用外来の資質の向上を図るための資料とさせていただきます。調査です。

回答いただいた資料は、今後の女性専用外来の資質の向上を検討するために、活用させていただき、他の目的には使用しません。

(記入上のお願い)

お答えは、あてはまるものの番号に をつけるか、または()に記入してください。

ご記入は、黒か青のボールペンをお使いください。

お名前やご住所は記入する必要はありません。

Q1 現在の(平成17年10月1日)のあなたの年代は?(はひとつ)

10歳代 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代 70歳以上

Q2 あなたのお住まいは?

()都道府県()市町村

Q3 調査票を受け取った医療機関名は?(はひとつ)

千葉県立東金病院 千葉県立循環器病センター 千葉県立佐原病院
 国保君津中央病院 国保君津中央病院大佐和分院 亀田クリニック
 旭中央病院 順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院
 東京歯科大学市川総合病院 東京慈恵会医科大学附属柏病院
 船橋市立医療センター

Q4 ご自宅から女性専用外来を受診している(した)当該医療機関までの所要時間?

()時間()分

Q5 女性専用外来を初めて受診した時期は?

平成()年()月

Q6 女性専用外来を何回受診しましたか?

年 度	受診した回数
平成13年度	回
平成14年度	回
平成15年度	回
平成16年度	回
平成17年度	回

【1. 千葉県における女性専用外来について】

問1 千葉県は政策として女性専用外来を設置しています。あなたはこのことをご存知ですか。(はひとつ)

1 はい 2 いいえ

問1-1にお進みください。

問1-1 あなたはこのことを何で知りましたか。(はひとつ)

1 新聞・雑誌・テレビ 2 インターネット
 3 医療機関で聞いた 4 リーフレット
 5 健康福祉センター(保健所)で聞いた
 6 その他()

問2 千葉県が政策として女性専用外来を設置することをどのようにお考えですか。(はひとつ)

1 必要 2 不要 3 どちらとも言えない

問3 千葉県が政策として設置している女性専用外来について、今後どのようにすべきとお考えですか。(はひとつ)

1 今のままでよい 2 女性専用外来の内容を充実すべき
 3 女性専用外来の数を増やすべき 4 どちらとも言えない

【2. 受診した女性専用外来について】

問4 受診した医療機関が女性専用外来を設置していることをどこで知りましたか。(はひとつ)

1 新聞・雑誌・テレビ 2 インターネット
 3 同じ医療機関の他の診療科で紹介された 4 他の医療機関で紹介された
 5 健康福祉センター(保健所)で紹介された 6 リーフレット
 7 その他()

問5 他の診療科でなく、女性専用外来を選んだ理由をお聞きます。(はいくつでも)

- 1 男性医師でなく、女性医師に相談したかった
- 2 気軽に話を聞いてくれそうだった
- 3 他の診療科に比べ、十分診療時間をとってくれそうだった
- 4 女性特有の様々な症状(月経、妊娠・出産、閉経、更年期、乳房・子宮・卵巣等)の専門家や性差医療の専門家に診てもらいたかった
- 5 体や心の悩みごとを一緒に相談したかった
- 6 女性専用外来の担当者が全て女性と思った
- 7 保険診療で費用が安いと思った
- 8 その他()

問6 女性専用外来を受診するまで、同じ症状や悩みで他の診療科や医療機関を受診していましたか。(はひとつ)

- 1 はい
- 2 いいえ

問7 女性専用外来を受診した主な相談内容をお聞きます。

(1~5で はひとつ、1か2に の場合はそれぞれカタカナの中から ひとつ)

- 1 医療のこと
 - ア 家庭医・かかりつけ医がほしい
 - イ セカンドオピニオン(現在、他の医療機関で受けている治療に関する相談)
- 2 からだのこと
 - ア 内分泌・代謝系(やせ、肥満、甲状腺、糖尿病等)
 - イ 循環器系(胸の痛み、息苦しい等)
 - ウ 消化器系(過食、食欲不振、便秘等)
 - エ 呼吸器系(ぜん息、アレルギー-鼻炎等)
 - オ 泌尿器系(尿もれ等)
 - カ 皮膚科系(にきび、シミ、シワ等)
 - キ 眼科系(目のかわき、視力の低下等)
 - ク 口腔系(口の渇き、顎関節痛等)
 - ケ 耳鼻科系(めまい、耳鳴り、聞こえにくい等)
 - コ 脳神経系(頭痛、物忘れ等)
 - サ 筋・骨系(関節の痛み、体の痛み等)
 - シ 産科系(妊娠・出産、産後の不調等)
 - ス 婦人科系(子宮・卵巣、性器の病気等)
 - セ 婦人科系(月経、更年期、性生活等)
 - ソ 乳房系(乳房のしこり、分泌物等)
 - タ 性感染症(STD)
 - チ 精神系(イライラ、不安、不眠、疲れやすい等)
 - ツ 何の診療科を受診したらよいかわからない身体の不調
- 3 こころの悩み
- 4 生活(福祉に関する事、配偶者の暴力、家庭内暴力等)に関する事
- 5 その他()

問8 女性専用外来を初めて受診した際の満足度についてお聞きます。(項目毎の にレ点ひとつ)

項目	満足	どちらかと言えれば満足	どちらかと言えれば不満	不満	どちらとも言えない
電話予約	電話受付スタッフの対応 予約から診療までの期間				
受付	ロビーの雰囲気 受付スタッフの対応 受付から待合室までの案内				
待合室	待合室の雰囲気 待合室スタッフの対応 診察までの待ち時間				

診 察	診察室の雰囲気 プライバシーの配慮 医師に関して 話を聞く姿勢 経験や知識量 説明の仕方 診察時間 医師以外のスタッフの対応 他の診療科との連携
会 計	診察室から会計までの案内 会計スタッフの対応 支払いまでの待ち時間 処方せん受取りの手間・時間 支払った医療費
そ の 他	病院の施設・設備
総 合	女性専用外来全体

問9 次に体の具合が悪くなった場合、女性専用外来をまた受診したいと思いますか。(はひとつ)

1 はい	2 いいえ
------	-------

問9 - 1にお進みください。

問9 - 1 また受診したい理由をお聞きます。(はひとつ)

1 女性医師だから
2 話をよく聞いてくれたから
3 十分な診察時間であったから
4 性差医療の専門医(女性の立場や特徴を理解してくれる医師)であったから
5 体や心の悩みごとを一緒にみてもらったから
6 保険診療で費用が安かったから
7 その他()

問10 女性専用外来を受診して、体の不調や悩み等の問題は解決しましたか。(はひとつ)

1 はい	2 いいえ
------	-------

問10 - 1にお進みください。

問10 - 1 問題解決のために、その後どのようにされましたか。(はひとつ)

1 他の医療機関を受診して問題解決した
2 他の医療機関を受診したが問題解決していない
3 何もしなかったが問題解決した
4 何もしなかったので問題解決していない

問11 女性専用外来に関して、ご意見・ご感想等をお聞かせください。

--

問12 健康や医療に関する千葉県の政策について、ご意見・ご感想等をお聞かせください。

--

ご協力ありがとうございました。
返信用封筒に入れて、ご返送ください。

女性専用外来の医療従事者（医師用）への調査

この調査は、「女性専用外来」に従事する医療関係者に、女性専用外来の現状等についておたずねし、女性専用外来の資質の向上を図るための資料とさせていただきます。調査です。

回答いただいた資料は、今後の女性専用外来の資質の向上を検討するために、活用させていただき、他の目的には使用しません。

（記入上のお願い）

お答えは、あてはまるものの番号に をつけるか、または（ ）に記入してください。

ご記入は、黒か青のボールペンをお使いください。

Q1 女性専用外来を設置する医療機関名？ ()

Q2 あなたの年齢（平成17年10月1日現在）・性は？ 年齢（ ）歳 性（男・女）

Q3 あなたの専門診療科名は？ ()

Q4 女性専用外来に従事している専従・年数（平成17年10月1日現在）は？
（ 専 任 ・ 兼 務 ） 従事年数（ ）年（ ）月

問1 あなたは、女性専用外来に関連する学会等に参加していますか。（はひとつ）

1 はい 2 いいえ

問2 千葉県が開催する女性専用外来担当者研修会や関係する研修会に参加したことがありますか。（はひとつ）

1 はい 2 いいえ

問2 - 1にお進みください。

問2 - 1 参加した研修会の内容についてお聞きします。（はひとつ）

1 満足 2 どちらかと言えば満足 3 どちらかと言えば不満
4 不満 5 どちらとも言えない

3又は4に回答 問2 - 2にお進みください。

問2 - 2 不満であった理由をお聞きします。

問3 当該医療機関の女性専用外来についてお聞きします。（はひとつ）

ア 女性専用外来のやり方

1 初診のみで振りわけ外来 2 初診と再診を行っている

イ 他の診療科との連携

1 よい 2 うまくいっていない 3 今までに事例がない

ウ 他の医療機関との連携

1 よい 2 うまくいっていない 3 今までに事例がない

エ 健康福祉センター（保健所）との連携

1 よい 2 うまくいっていない 3 今までに事例がない

問4 他の診療科からの女性専用外来部門の評価についてお聞きします。（はひとつ）

1 高い 2 どちらかと言えば高い 3 普通
4 どちらかと言えば低い 5 低い

1又は2に回答 問4 - 1にお進みください。

問4 - 1 高いと評価されている理由をお聞きます。

問5 女性専用外来に従事していることの満足度についてお聞きます。(はひとつ)

1 満足	2 どちらかと言えば満足	3 どちらかと言えば不満
4 不満	5 どちらとも言えない	

3又4に回答 問5 - 1にお進みください。

問5 - 1 不満の理由をお聞きます。

問6 あなたが担当した女性専用外来初診患者における診断確定の状況についてお聞かせください。

項 目	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
診断確定ができた初診患者数(人)				
(1)悪性新生物				
(2)骨代謝疾患				
(3)自己免疫疾患				
(4)消化器疾患				
(5)循環器疾患				
(6)生活習慣病				
(7)内分泌疾患				
(8)更年期障害				
(9)産婦人科疾患				
(10)精神疾患				
(11)筋・神経疾患				

問7 あなたが診療科を選択するにあたって、次の項目の重要度についてお聞きます。(項目毎の にレ点ひとつ)

重要 どちらかと どちらかと言え 重要で どちらとも
 言え重要 ば重要でない ない 言えない

診療科で扱う患者・疾患への関心	()
女性専用外来の社会からの評価	()
女性専用外来の医学界からの評価	()
実際に受診する患者からの評価	()
医学分野への学術的な知的好奇心	()
自分に与えられる権限の水準	()
中長期的なキャリアパスの見通し	()
所属するチームの質の高さ	()
一緒に働く人々との相性	()
報酬水準	()
勤務時間	()
その他重要な要素	()

女性専用外来の医療従事者（看護職員用）への調査

この調査は、「女性専用外来」に従事する医療関係者に、女性専用外来の現状等についておたずねし、女性専用外来の資質の向上を図るための資料とさせていただきます。調査です。

回答いただいた資料は、今後の女性専用外来の資質の向上を検討するために、活用させていただき、他の目的には使用しません。

（記入上のお願ひ）

お答えは、あてはまるものの番号に をつけるか、または（ ）に記入してください。

ご記入は、黒か青のボールペンをお使いください。

- Q1 女性専用外来を設置する医療機関名？ ()
Q2 あなたの年齢（平成17年10月1日現在）・性は？ 年齢（ ）歳 性（男・女）
Q3 女性専用外来に従事している専従・年数（平成17年10月1日現在）は？
（専任・兼務） 従事年数（ ）年（ ）月

問1 あなたは、女性専用外来に関連する学会等に参加していますか。（はひとつ）

1 はい 2 いいえ

問2 千葉県が開催する女性専用外来担当者研修会や関係する研修会に参加したことがありますか。（はひとつ）

1 はい 2 いいえ

問2 - 1にお進みください。

問2 - 1 参加した研修会の内容についてお聞きします。（はひとつ）

1 満足 2 どちらかと言えば満足 3 どちらかと言えば不満 4 不満
5 どちらとも言えない

3又は4に回答 問2 - 2にお進みください。

問2 - 2 不満であった理由をお聞きします。

問3 当該医療機関の女性専用外来についてお聞きします。（はひとつ）

ア 女性専用外来のやり方

1 初診のみで振りわけ外来 2 初診と再診を行っている

イ 他の診療科との連携

1 よい 2 うまくいっていない 3 今までに事例がない

ウ 他の医療機関の連携

1 よい 2 うまくいっていない 3 今までに事例がない

エ 健康福祉センター（保健所）との連携

1 よい 2 うまくいっていない 3 今までに事例がない

問4 他の診療科からの女性専用外来部門の評価についてお聞きします。（はひとつ）

1 高い 2 どちらかと言えば高い 3 普通
4 どちらかと言えば低い 5 低い

1又は2に回答 問4 - 1にお進みください。

問4 - 1 高いと評価されている理由をお聞きします。

問5 女性専用外来に従事していることの満足度についてお聞きします。（はひとつ）

1 満足 2 どちらかと言えば満足 3 どちらかと言えば不満
4 不満 5 どちらとも言えない

3又は4に回答 問5 - 1にお進みください。

問5 - 1 不満の理由をお聞きします。

問6 あなたが勤務場所を選択するにあたって、次の項目の重要度についてお聞きします。（項目毎の にレ点ひとつ）

	重要	どちらかといえ ば重要	どちらかと言え ば重要でない	重要で ない	どちらとも いえない
女性専用外来の患者・疾患への関心					
女性専用外来の社会からの評価					
女性専用外来の医学界からの評価					
実際に受診する患者からの評価					
医学分野への学術的な知的好奇心					
自分に与えられる権限の水準					
中長期的なキャリアパスの見通し					
所属するチームの質の高さ					
一緒に働く人々との相性					
報酬水準					
勤務時間					
その他重要な要素					

問7 それぞれの要素について、現在の女性専用外来部門での満足度についてお聞きします。

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかと言え ば不満	不満	どちらとも いえない
診療科で扱う患者・疾患への関心					
女性専用外来の社会からの評価					
女性専用外来の医学界からの評価					
実際に受診する患者からの評価					
医学分野への学術的な知的好奇心					
自分に与えられる権限の水準					
中長期的なキャリアパスの見通し					
所属するチームの質の高さ					
一緒に働く人々との相性					
報酬水準					
勤務時間					
その他重要な要素					

問8 当該医療機関の女性専用外来を向上するための課題についてお聞きします。(はひとつ)

1 課題がある	2 課題はない
---------	---------

問8 - 1にお進みください。

問8 - 1 その課題の内容についてお聞きします。(はいくつでも)

1 医療従事者の増員	2 医師を含む医療従事者の専門性の向上	3 他の診療科との連携
4 機器の充実	5 その他()	

問8 - 2 選んだ中で最も優先されるものは何ですか。

()番

問9 女性専用外来に今後も従事する意欲についてお聞きします。(はひとつ)

1 従事したい	2 どちらかといえば従事したい	3 どちらかといえば従事したくない
4 従事したくない	5 とちらでもよい	

3又は4に回答 問10 - 1にお進みください。

問9 - 1 従事したくない理由をお聞きします。

()

問10 女性専用外来に関して、今後、県としてのどのような取り組みをすることが望ましいとお考えですか。

()

問11 健康や医療に関する千葉県の政策について、ご意見・ご感想等をお聞かせください。

()

ご協力ありがとうございました。
返信用封筒に入れて、ご返送ください。

女性専用外来を設置する病院長への調査

この調査は、「女性専用外来」を設置する病院長に、女性専用外来の評価や運営状況等についておたずねし、女性専用外来の資質の向上を図るための資料とさせていただきます調査です。

回答いただいた資料は、今後の女性専用外来の資質の向上を検討するために、活用させていただき、他の目的には使用しません。

(記入上のお願)

お答えは、あてはまるものの番号に をつけるか、または()に記入してください。
ご記入は、黒か青のボールペンをお使いください。

Q1 女性専用外来を設置する医療機関名? ()

Q2 女性専用外来を設置された年月は? 平成()年()月

問1 女性専用外来の受診者数は、当初の予想に対してどの程度ですか。(はひとつ)

1 予想より多い 2 予想どおり 3 予想より少ない

問2 当該医療機関の女性専用外来部門の資質を、どのように評価されていますか。(はひとつ)

1 高い 2 どちらかと言えば高い 3 普通
4 どちらかと言えば低い 5 低い

1又は2と回答 問2 - 1にお進みください。

問2 - 1 高いと評価される理由をお聞きます。

問3 当該医療機関が女性専用外来を存続するための課題についてお聞きます。(はひとつ)

1 課題がある 2 課題はない ()

問3 - 1にお進みください。

問3 - 1 その課題の内容についてお聞きます。(はいくつでも)

1 患者数の確保 2 女性医師の確保
3 医療従事者の増員 4 医師を含む医療従事者の専門性の向上
5 他の診療科との連携 6 機器の充実
7 収益性の向上
8 その他 ()

問3 - 2 選んだ中で最も優先されるものは何ですか。

()番

問4 当該医療機関が女性専用外来を存続する必要性についてお聞きます。(はひとつ)

1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない

問4 - 2にお進みください。

問4 - 1にお進みください。

問4 - 1 千葉県政策として「千葉県女性専用外来」の開設を先駆的に実施して

いただいているところですが、今後、更に貴女性専用外来を充実していく内容についてお聞きます。

--

問4 - 2 不要である理由をお聞きします。

--

問5 女性専用外来に関して、今後、県としてのどのような取組みをすることが望ましいとお考えですか。

--

問6 女性専用外来の運営状況をお聞かせください。

項 目		平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	
1	診療日数(日)					
2	患者数(人)					
	(1)初診					
	(2)再診					
3	診療報酬(点)					
4	医療従事者(人)	専任	常勤			
			非常勤			
	兼務	常勤				
		非常勤				
	(1)医師	専任	常勤			
			非常勤			
		兼務	常勤			
			非常勤			
(2)看護師	専任	常勤				
		非常勤				
	兼務	常勤				
		非常勤				

問7 マンモグラフィX線撮影装置及び骨密度測定装置の使用状況についてお聞かせください。

問7 - 1 マンモグラフィX線撮影装置の使用状況

項 目		平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
医療機関における検査総数(件)					
	(内)女性専用外来				

問7 - 2 骨密度測定装置の使用状況

項 目		平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
医療機関における検査総数(件)					
	(内)女性専用外来				

問8 健康や医療に関する千葉県の政策について、ご意見・ご感想をお聞かせください。

--

ご協力ありがとうございました。
返信用封筒に入れて、ご返送ください。

女性専用外来を設置する病院長への調査（独自開設病院用）

この調査は、「女性専用外来」を設置する病院長に、女性専用外来の評価や運営状況等についておたずねし、女性専用外来の資質の向上を図るための資料とさせていただきます調査です。

回答いただいた資料は、今後の女性専用外来の資質の向上を検討するために、活用させていただき、他の目的には使用しません。

（記入上のお願）

お答えは、あてはまるものの番号に をつけるか、または（ ）に記入してください。

ご記入は、黒か青のボールペンをお使いください。

Q1 女性専用外来を設置する医療機関名？ ()

Q2 女性専用外来を設置された年月は？ 平成()年()月

問1 女性専用外来の受診者数は、当初の予想に対してどの程度ですか。(はひとつ)

1 予想より多い 2 予想どおり 3 予想より少ない

問2 当該医療機関の女性専用外来部門の資質を、どのように評価されていますか。(はひとつ)

1 高い 2 どちらかと言えば高い 3 普通
4 どちらかと言えば低い 5 低い

1又は2と回答 問2 - 1にお進みください。

問2 - 1 高いと評価される理由をお聞きます。

問3 当該医療機関が女性専用外来を存続するための課題についてお聞きます。(はひとつ)

1 課題がある 2 課題はない ()

問3 - 1にお進みください。

問3 - 1 その課題の内容についてお聞きます。(はいくつでも)

1 患者数の確保 2 女性医師の確保
3 医療従事者の増員 4 医師を含む医療従事者の専門性の向上
5 他の診療科との連携 6 機器の充実
7 収益性の向上
8 その他 ()

問3 - 2 選んだ中で最も優先されるものは何ですか。

()番

問4 当該医療機関が女性専用外来を存続する必要性についてお聞きます。(はひとつ)

1 必要である 2 不要である 3 どちらともいえない

問4 - 2にお進みください。

問4 - 1にお進みください。

問4 - 1 今後、更に貴女性専用外来を充実していく内容についてお聞きます。

--

問4 - 2 不要である理由をお聞きします。

--

問5 女性専用外来に関して、今後、県としてのどのような取組みをすることが望ましいとお考えですか。

--

問6 女性専用外来の運営状況をお聞かせください。

項 目		平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	
1	診療日数(日)					
2	患者数(人)					
	(1)初診					
	(2)再診					
3	診療報酬(点)					
4	医療従事者(人)	専任	常勤			
			非常勤			
	兼務	常勤				
		非常勤				
	(1)医師	専任	常勤			
			非常勤			
		兼務	常勤			
			非常勤			
(2)看護師	専任	常勤				
		非常勤				
	兼務	常勤				
		非常勤				

問7 マンモグラフィX線撮影装置及び骨密度測定装置の使用状況についてお聞かせください。

問7 - 1 マンモグラフィX線撮影装置の使用状況

項 目		平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
医療機関における検査総数(件)					
	(内)女性専用外来				

問7 - 2 骨密度測定装置の使用状況

項 目		平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
医療機関における検査総数(件)					
	(内)女性専用外来				

問8 健康や医療に関する千葉県の政策について、ご意見・ご感想をお聞かせください。

--

ご協力ありがとうございました。
返信用封筒に入れて、ご返送ください。

《參考資料》

【女性専用外来の状況】

資料 2

1. 千葉県における女性専用外来受診者数の推移

(1) 県立病院分

実施医療機関名	県立病院		
	東金病院	循環器病センター	佐原病院
開始年月	H13.9	H14.6	H15.2
13年度	358人	358	-
14年度	2,162人	1,876	279
15年度	3,498人	2,596	609
16年度	4,346人	3,280	597
17年度	3,786人	3,135	136
合計	14,150人	11,245	1,621

(1) 県立 + (2) その他 総計
358
3,013
5,651
7,636
7,693
24,351

各年度末の状況

… 図 1 参照

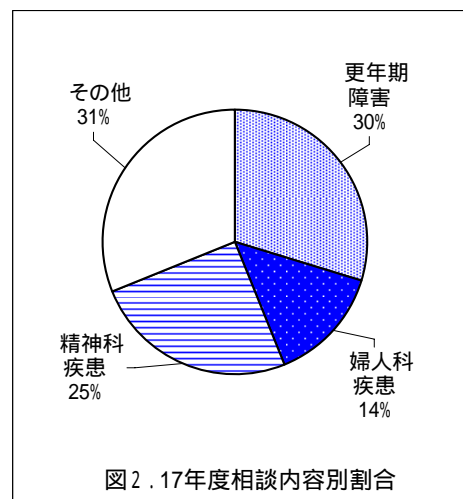
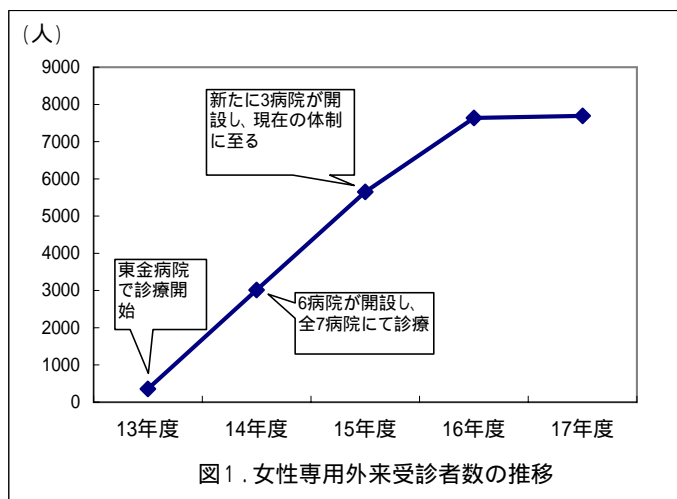
(2) 公立・民間で県の補助を受けて開設した7病院

実施医療機関名	県立以外の実施医療機関							
	君津中央病院		亀田クリニック	国保旭中央病院	順天堂浦安病院	東京歯科大市川総合病院	東京慈恵会柏病院	船橋市立医療センター
	本院	大佐和分院						
開始年月	H14.4		H14.6	H14.9	H14.11	H15.6	H15.9	H15.10
13年度	0人		-	-	-	-	-	-
14年度	851人		197	106	314	120	114	-
15年度	2,153人		261	104	386	322	676	114
16年度	3,290人		337	236	513	433	892	190
17年度	3,907人		526	241	655	416	1,203	148
合計	10,201人		1,321	687	1,868	1,291	2,885	452

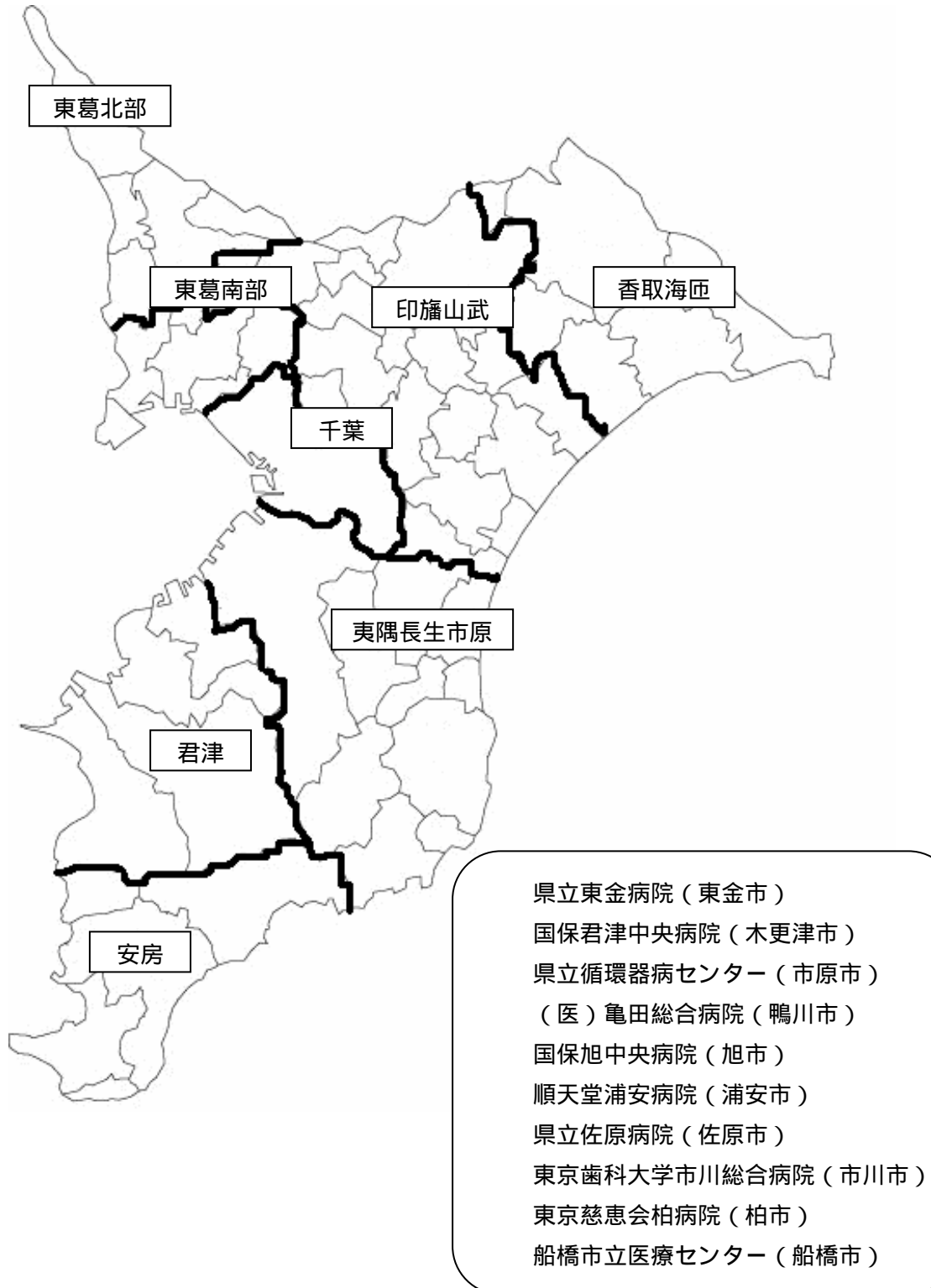
2. 女性専用外来受診時の主な訴え

疾患別分類	H17年度		H16年度	
	(人)	(%)	(人)	(%)
更年期障害(のぼせ、ほてり、頭痛、肩こり、動悸等)	2,294	29.8	2,523	33.0
婦人科疾患(月経不順、子宮内膜炎、不妊等)	1,091	14.2	1,146	15.0
精神科疾患(不安、不眠、うつ状態等)	1,919	24.9	1,608	21.1
その他(高脂血症、骨粗鬆症、分類不可の不定愁訴等)	2,389	31.1	2,359	30.9
計	7,693		7,636	

… 図 2 参照



千葉県における女性専用外来実施医療機関
(県立病院と県の補助を受けて開設している医療機関)



【健康福祉センターにおける女性のための健康相談窓口の状況】

資料 3

1. 健康福祉センターにおける女性のための健康相談窓口相談状況

	相談者数	内訳			健康福祉センター数
		面接相談	再掲： コメディカル	電話相談	
14年度	1,389	582	-	768	15
15年度	1,355	577	75	778	14
16年度	1,197	478	81	719	14
17年度	1,411	565	171	846	14

各年度末の状況

…図 3 参照

注) 千葉県保健所・船橋市保健所(平成15年度～)実施分は実績に含まれていない。
千葉県・船橋市は政令市・中核市のため市独自で相談を実施している。

2. 健康福祉センター女性のための健康相談窓口相談時の主訴

疾患別分類	H17年度		H16年度	
	(人)	(%)	(人)	(%)
更年期症状に関すること	164	12%	158	13%
月経・妊娠・不妊等産婦人科的訴えに関すること	535	38%	342	29%
精神的訴えに関すること	301	21%	340	28%
その他(生活習慣病、尿失禁、分類不可の不定愁訴等)	411	29%	357	30%
計	1,411		1,197	

…図 4 参照

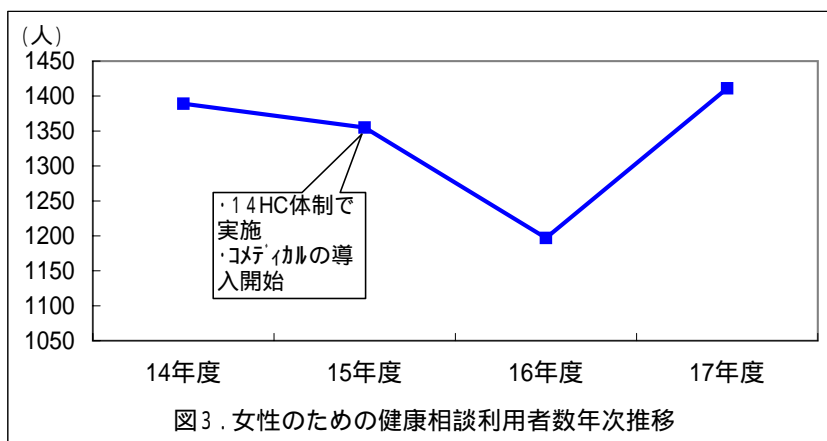


図 3. 女性のための健康相談利用者数年次推移

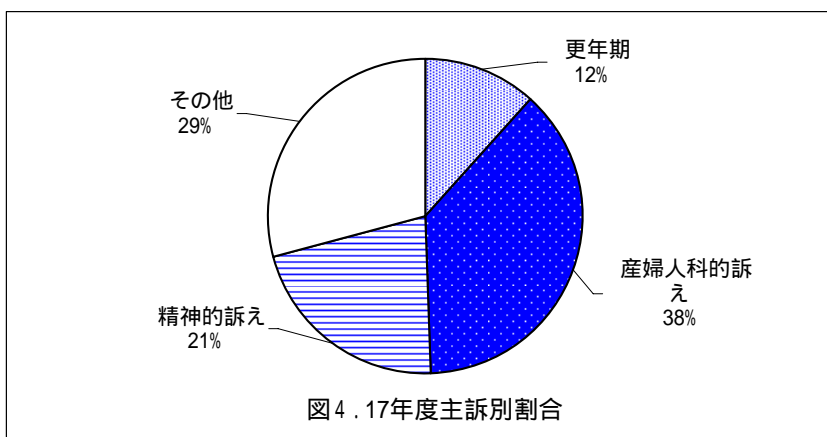


図 4. 17年度主訴別割合

千葉県における女性のための健康相談窓口
(健康福祉センターで実施)

